

# 国際スケート連盟

## 特別規則および技術規程

### シングル&ペア・スケートティング、アイス・ダンス 2016

2016 年 6 月 第 56 回定期総会にて承認

ISU (= International Skating Union、国際スケート連盟) の規約および規則において、男性という語句が人 (例えばスケーター/選手、競技役員、ISU メンバーの一員など、または彼、彼ら、彼らをといった代名詞) に関して使われているが、これに反する但し書きがない限りは、女性も含むものと解される。

ISU 規約、および一般規則も参照のこと。\*

[\* 訳注: 『特別規則および技術規程』の随所に「規定 XX を参照」との記載があるが、その規定番号が『特別規則および技術規程』内にはない場合は、『ISU 規約』または『一般規則』内にあると推察される。]

[\* 訳注:

**Regulations**=規則(行為や手続きなどを行う際の標準となるように定められた事柄)

**Rules**=規程(特定の目的のために定められた一連の条項の全体をひとまとまりとした呼称)、  
および規定(規程や規則などの中の個々の条項や条文)

**Constitutions**=規約(団体の内部組織に関する規定)  
として和訳している。]

# 2016

規則は下記の総会にて制定：

第 1 回	スフェヘニンゲン	1892	第 29 回	ベルゲン	1961
第 2 回	コペンハーゲン	1895	第 30 回	ヘルシンキ	1963
第 3 回	ストックホルム	1897	第 31 回	ウィーン	1965
第 4 回	ロンドン	1899	第 32 回	アムステルダム	1967
第 5 回	ベルリン	1901	第 33 回	メードンヘッド	1969
第 6 回	ブダペスト	1903	第 34 回	ベネチア	1971
第 7 回	コペンハーゲン	1905	第 35 回	コペンハーゲン	1973
第 8 回	ストックホルム	1907	第 36 回	ミュンヘン	1975
第 9 回	アムステルダム	1909	第 37 回	パリ	1977
第 10 回	ウィーン	1911	第 38 回	ダボス	1980
第 11 回	ブダペスト	1913	第 39 回	スタバングル	1982
第 12 回	アムステルダム	1921	第 40 回	コロラド・スプリングズ	1984
第 13 回	コペンハーゲン	1923	第 41 回	フェルデン	1986
第 14 回	ダボス	1925	第 42 回	ダボス	1988
第 15 回	リュション	1927	第 43 回	クライストチャーチ	1990
第 16 回	オスロ	1929	第 44 回	ダボス	1992
第 17 回	ウィーン	1931	第 45 回	ボストン	1994
第 18 回	プラハ	1933	第 46 回	ダボス	1996
第 19 回	ストックホルム	1935	第 47 回	ストックホルム	1998
第 20 回	サンモリッツ	1937	第 48 回	ケベック	2000
第 21 回	アムステルダム	1939	第 49 回	京都	2002
第 22 回	オスロ	1947	第 50 回	スフェヘニンゲン	2004
第 23 回	パリ	1949	第 51 回	ブダペスト	2006
第 24 回	コペンハーゲン	1951	第 52 回	モナコ	2008
第 25 回	ストレーザ	1953	第 53 回	バルセロナ	2010
第 26 回	ローザンヌ	1955	第 54 回	クアラルンプール	2012
第 27 回	ザルツブルク	1957	第 55 回*	ダブリン	2014
第 28 回	ツール	1959	第 56 回*	<u>ドゥブロヴニク</u>	<u>2016</u>

【\* 訳注：各ページにおける下線部は、直近の総会で改定または追加された箇所。

青文字は、改定箇所について訳者がコメントを付している。】

## I. 特別規則

### シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンス

#### 目次\*

【\* 訳注：原文では下記目次に各ページ番号が記されているが、原文と和訳ではページ差が生じるためページ番号を割愛。】

#### 一般

規定 No. 300 シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンスの競技および内容

### シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンスの競技会規則

#### A. 一般

規定 No. 335 競技会のセグメント

336 競技会スタッフ

342 必要なリンク

343 音楽再生システム

344 競技会の日程

345 競技会中の情報伝達

349 プログラム内容シート

350 開始のコール

351 選手および競技役員の振る舞い

352 ISU ジャッジング・システム- 採点システム

353 ISU ジャッジング・システム- 結果の判定および発表

354 ISU メンバーによる団体結果

355 世界ランキングシステム

358 表彰

365 競技会中のエキシビション

366 プロトコル

367 新制度

368 公共へのコメント

#### B. ISU 選手権 - 特別規程

規定 No. 375 割り振り

376 選手権の日程/所要日数

377 選手権への参加

378 ISU 選手権エントリー

379 音楽のタイトル

381 ISU イベント・コーディネーターおよび地域大会調整アシスタント

- 393 メダル授与
- 394 メダル
- 396 アイス・ショーの広告

## **C. 冬季オリンピック大会**

規定 No. 400 冬季オリンピック大会へのエントリー

- 401 冬季オリンピック大会の競技役員任命
- 402 冬季オリンピック大会のジャッジ・パネル
- 403 冬季オリンピック大会での抽選

## **シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンスの競技役員規則**

### **A. 競技役員の推薦および任命**

規定 No. 410 競技役員の推薦方法および任命方法

- 411 競技役員の推薦および任命についての一般要件
- 412 レフェリーの推薦および任命についての特別要件
- 413 ジャッジの推薦および任命についての特別要件
- 414 テクニカル・コントローラーの推薦および任命についての特別要件
- 415 テクニカル・スペシャリストの推薦および任命についての特別要件
- 416 データ&リプレイ・オペレーターの推薦および任命についての特別要件
- 417 ISU セミナー

### **B. 競技会への競技役員任命**

規定 No. 420 国際競技会への競技役員任命（一般）

- 421 ISU 選手権への競技役員任命（特別規程）
- 422 冬季オリンピック大会への競技役員任命（特別規程）

### **C. 競技役員の職務および権限**

規定 No. 430 一般的小および特別な職務および権限

- 431 レフェリーおよびジャッジ向けの、競技会でのミーティング
- 432 テクニカル・パネル向けの、競技会でのミーティング
- 433 レポート

### **D. 競技役員の業務についての評価**

規定 No. 440 競技役員の業務についての評価

## **エキシビション規則**

規定 No. 450 エキシビション

## II. 技術規程

### シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンス

#### シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンスの一般技術規程

規定 No. 500 スケート・ブレードおよび衣装の定義

501 衣装

502 スケーティングの継続時間

503 転倒および中断

504 ショート・プログラム/ショート・ダンスおよび

フリー・スケーティング/フリー・ダンスの採点

#### シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンスの競技会技術規程

##### A. 一般

規定 No. 511 エントリー発表および競技役員団の発表

512 抽選

513 滑走順の抽選

514 ウォームアップ時間

515 開始遅れまたは再開の許可

##### B. ISU 選手権・特別技術規程

規定 No. 520 選手の抽選

521 ジャッジの抽選

## 表

I. 滑走グループの数

II. ウォームアップ・グループの数

### Ⅲ. 技術規程

#### シングル&ペア・スケーティング

##### A. シングル&ペア・スケーティングの要素

規定 No. 610 シングル&ペア・スケーティングの要素の要件、および違反となる要素/動作

##### B. シングル・スケーティング

規定 No. 611 ショート・プログラム・シングル

612 フリー・スケーティング・シングル

##### C. ペア・スケーティング

規定 No. 619 ペア・スケーティングの要素の要件

620 ショート・プログラム・ペア

621 フリー・スケーティング・ペア

# SINGLE&PAIR SKATING and ICE DANCE 2016

#### IV. 技術規程

##### アイス・ダンス

##### A. アイス・ダンスの定義

規定 No. 701 アクシス

702 パターン

703 ステップの連続

704 ステップ、ターン、動作

705 ダンス・ホールド

706 音楽の定義

##### B. パターン・ダンス

規定 No. 707 イントロダクション

708 要件および採点

##### C. ショート・ダンス

規定 No. 709 ショート・ダンス

##### D. フリー・ダンス

規定 No. 710 フリー・ダンス

##### E. パターン・ダンスの発表および抽選、

ショート・ダンスおよびフリー・ダンスの要件発表

規定 No. 711

SPECIAL  
REGULATIONS  
&  
TECHNICAL  
RULES  
SINGLE & PAIR  
SKATING  
and  
ICE DANCE  
2016

## I. 特別規則

### シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンス

#### 規定 300 シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンスの競技および内容

1. シングル&ペア・スケーティングの競技、すなわち女子シングル・スケーティング、男子シングル・スケーティング、ペア・スケーティング（女子 1 名・男子 1 名）は、ISU 規約第 39 条第 3 項 b) (i) に定義のとおり下記から成る：
  - a) ショート・プログラム
  - b) フリー・スケーティング
2. アイス・ダンス、すなわち女子 1 名・男子 1 名の競技は、ISU 規約第 39 条第 3 項 b) (ii) に定義のとおり下記から成る：
  - a) パターン・ダンス
  - b) ショート・ダンス
  - c) フリー・ダンス

#### 規定 01-334（留保）＊

〔＊ 訳注：海外の規約や条約に見られる”Reserved”(=留保)には、一般的に 2 パターンの使い方がある。パターン 1…項目が削除されると、その前後で項番号に乖離が生じ混乱を招く可能性があるため、内容のみ削除して項番号は残し **Reserved** と記す。パターン 2…将来的に項を追加できるよう、あらかじめ枠を確保しておくため **Reserved** と記す。  
ISU 連盟の『特別規則および技術規程』の各項においてパターン 1、2 どちらが採られているのかは定かではない。〕



## シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンスの競技会規則

### A. 一般

#### 規定 335 競技会のセグメント

##### A. シングル&ペア・スケーティング競技会のセグメント

1. シングル&ペア・スケーティングでは、ISU 選手権、冬季オリンピック大会、冬季ユースオリンピック大会、冬季オリンピック大会予選、ISU グランプリ競技会およびファイナル（シニアおよびジュニア）はショート・プログラムおよびフリー・スケーティングから成ることとする。
2. シングル&ペア・スケーティングでは、国際競技会は下記から成ることとする：
  - a) ショート・プログラムおよびフリー・スケーティング
  - b) フリー・スケーティング（シニアのみ）

##### B. アイス・ダンス競技会のセグメント

1. アイス・ダンスでは、ISU 選手権、冬季オリンピック大会、冬季ユースオリンピック大会、冬季オリンピック大会予選、ISU グランプリ競技会およびファイナル（シニアおよびジュニア）はショート・ダンスおよびフリー・ダンスから成ることとする。
2. アイス・ダンスでは、国際競技会は下記から成ることとする：
  - a) ショート・ダンスおよびフリー・ダンス
  - b) パターン・ダンスおよびフリー・ダンス
  - c) フリー・ダンス（シニアのみ）

##### C. セグメントの順序およびセグメント内でのスケーティング

- a) ショート・プログラム/ショート・ダンスまたはパターン・ダンスを、フリー・スケーティング/フリー・ダンスの前に行わなければならない。
- b) 女子、男子、ペア、アイス・ダンス・カップルは別々に滑らなければならない。
- c) 各スケーター/ペア/カップルは、ショート・プログラム/ショート・ダンス、フリー・スケーティング/フリー・ダンスまたはパターン・ダンスを氷上にて単独で行わなければならない。

#### 規定 336 競技会スタッフ

組織委員会の指名による下記の競技会スタッフが必要である：

- a) 選手を招集したり、スコアおよび結果を読み上げたりするアナウンサー1名

b) タイムキーパー最大 2 名

c) その他の点で円滑に競技会を実施するための、補助の競技会スタッフ（必要に応じて）

#### 規定 337-341（留保）

#### 規定 342 必要なリンク

1. ショート・プログラム/ショート・ダンス、フリー・スケーティング/フリー・ダンスおよびパターン・ダンスの使用可能なスケーティング・エリアは長方形でなければならない、可能であれば長さ 60m・幅 30m とするがそれ以上ではなく、また長さ 56m・幅 26m 以下でもないこと。競技役員は氷上に座らないこととする。ジャッジおよびレフェリーはリンクボードに座り、テクニカル・パネルは可能であれば高い位置に座る。
2. 国際競技会には少なくとも屋根付きの、また可能であれば暖房設備付きのリンクが 1 つ必要である。ISU 選手権、冬季オリンピック大会、および冬季ユースオリンピック大会には屋根付きの非公開リンクが 2 つ必要である。ISU 選手権、冬季オリンピック大会、冬季ユースオリンピック大会、および冬季オリンピック大会予選ではアイスリンクに暖房が付いていなければならない。

#### 規定 343 音楽再生システム

1. 選手は全員、高品質の競技用音楽を CD またはその他の承認済フォーマットで提供することとする。
  - a) 音楽のカバー/ディスクには音楽の正確な再生時間（滑走時間ではない）を記さなければならない、選手およびコーチは再生時間を保証することとするが、それは登録に際して音楽のカバー/ディスクを提出する時のことである。
  - b) 各プログラム、すなわちショート・プログラム/フリー・スケーティング/パターン・ダンス（カップルが音楽を持参する場合）/ショート・ダンス/フリー・ダンスの音楽を、1 曲ずつ別個のディスクに録音しなければならない。
  - c) 選手は各プログラムのバックアップ・ドライブを提供しなければならない。
2. 競技会に使用するすべての音楽を、高品質の電子レコーダー、例えば MP3 プレイヤーやその類いのもの、コンピュータまたは CD プレイヤーで再生しなければならない、それらの電子レコーダーのうち 1 つか 2 つを競技会の際に使用することとする。主催者は競技会用および練習用の各リンクに、音楽再生に適した設備を提供することとする。主催者が提供する設備

については競技会の告知の席で説明しなければならない。

3. 周波数および/または電圧の変動が生じないよう予防策を講じなければならない。
4. 音楽のボリューム・レベルは、医療委員会が定めたとおり、練習リンクまたは競技会リンクのアリーナのどの場所においても 85-90 デシベルの音圧レベルを超過してはならない。

#### **規定 344 競技会の日程**

1. 競技会が 2 つのセグメントから成る場合、競技会が少なくとも 2 日間続くことを勧めるが、3 日間以上連続しないことを推奨する。
2. 主催者の任意で、ショート・プログラム/ショート・ダンスまたはパターン・ダンスをフリー・スケーティング/フリー・ダンスの前日または当日のどちらかに行ってもよい（ISU ジュニア・グランプリ、グランプリ競技会およびファイナル、ISU 選手権は除く）が、それは少なくとも 4 時間のインターバルがショート・プログラム/ショート・ダンスまたはパターン・ダンス終了後にある場合である。
3. 競技会を午前 9 時より前に開始してはならず、午後 11 時までに終了するよう計画すること。

2016 年版にて「4. 競技会認定にて登録以降、選手は公式リンク以外のリンクで練習してはならないが、冬季オリンピック大会の場合は除く。」を削除。

#### **規定 345 競技会中の情報伝達**

ISU 選手権、冬季オリンピック大会、冬季ユースオリンピック大会、および国際競技会中の公式な連絡はすべて英語で行わなければならない。

#### **規定 346-348（留保）**

#### **規定 349 プログラム内容シート**

各スケーター/ペア/カップルはプログラム内容シート、すなわち競技会の各セグメントについて予定要素を述べた公式用紙を提示することとするが、パターン・ダンスは対象外である。

#### **規定 350 開始のコール**

1. 各演技に先立ち、これから競技する者の名前を氷上および更衣室に明瞭にコールしなければならない。
2. 各スケーター/ペア/カップルは、競技会の各セグメント（ショート・プログラム/ショート・

ダンス、フリー・スケーティング/フリー・ダンスまたはパターン・ダンス)の開始の姿勢を、開始のコール後遅くとも 30 秒以内に取らなければならない。30 秒を過ぎてもまだ開始の姿勢を取っていない場合、レフェリーは規定 353 第 1 項 n)に従って減点を行うこととする(最終スコアから減点)。開始のコールから 60 秒を過ぎてもまだ開始の姿勢を取っていない場合は、棄権とみなされる。

2016 年版にて「ウォームアップ・グループ内の第 1 滑走者には、開始のコール後 30 秒の猶予時間が認められる。前述の時間計測は、その 30 秒の猶予時間の後からスタートする。」を削除。

#### 規定 351 選手および競技役員の振る舞い

1. 競技役員によるいかなる激励やアドバイスも、特にスケートの最中の激励はそうだが、認められない。
2. ショート・プログラム/ショート・ダンス、フリー・スケーティング/フリー・ダンスまたはパターン・ダンスを滑る前に、選手は観客にお辞儀をしてはならない。お辞儀は、送られた拍手に対し観客に感謝の意を表すために演技終了時に行う。

#### 規定 352 ISU ジャッジング・システム- 採点システム

1. ISU 競技会、冬季オリンピック大会、冬季ユースオリンピック大会、および冬季オリンピック大会予選では結果を電子計算しなければならない。
2. ISU 競技会を除く国際競技会では主催の ISU メンバーが、ISU 競技会、冬季オリンピック大会、冬季ユースオリンピック大会では ISU が、コンピュータ・ソフトウェア・プログラムを含め結果の正確性に責任を負うとともに、コンピュータへのデータ入力および公式結果の作成を担当する有能な熟練オペレーターを用意することとする。
3. オンライン採点および表示システム
  - a) 競技役員の画面  
各ジャッジおよびレフェリーは単独で(画面を)操作し、テクニカル・コントローラーおよびテクニカル・スペシャリストが下す判定をデータ・オペレーターが記録するが、それには ISU 承認済みの一体型ビデオ再生システムを備えたタッチスクリーンまたは同様のシステムを用いる。各ジャッジ、レフェリー、およびテクニカル・パネルによる入力は計算機へと転送されるが、可能であればバックアップ・システムを完備した計算機であること。
  - b) 電光得点表示/スコア・ボード

ISU 選手権では電光得点表示システムを用いなければならない。結果情報ディスプレイ（スコア・ボード）には先行セグメント（ショート・プログラム/ショート・ダンス）での順位、当該セグメントでの現在の順位、および現在の総合順位を表示しなければならない。スコアに関する追加情報は、観客にとって興味深いものだが、評議会の判定どおりに表示される。

#### 4. オフライン採点

オンライン採点を利用できない場合、競技役員は次のとおり運営することとする：

a) ジャッジ 5 名以下、なおかつテクニカル・パネル（テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト）なしで、

(i) ジャッジ・パネルを「テクニカル・ジャッジ」（最大 2 名）と「パフォーマンス・ジャッジ」（可能であれば 3 名以下）に分けることとする。

(ii) テクニカル・ジャッジはすべての要素を記録し、各要素に対し GOE (=Grade of Execution、出来栄点) を与えることとするが、パフォーマンス・ジャッジは演技構成のみ評価することとする。パフォーマンス・ジャッジは単独で（画面を）操作することとするが、一方でテクニカル・ジャッジは特定された要素についての判定に協議同意してもよい。

(iii) テクニカル・ジャッジのうち 1 名はレフェリーを務めることとする。その者は減点に際し、レフェリーおよびテクニカル・パネルの責任のもと単独で判断することとする。

b) テクニカル・パネル（テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、また、可能であればアシスタント・テクニカル・スペシャリスト）1 名、もしくはジャッジ 5 名以上で、

(i) ジャッジが 5 名以上であってもテクニカル・パネルが 1 名もない場合は、前述の項 a) (i) を適用することとする。

(ii) コミュニケーションの連携を、パフォーマンス・ジャッジ/ジャッジとテクニカル・ジャッジ/テクニカル・パネルとの間に確立する必要がある（ヘッドフォンなど）。そのコミュニケーションの連携によって、パネルで（画面を）操作しているパフォーマンス・ジャッジ/ジャッジが、特定およびコールされた要素を認識しているということが保証される。

(iii) テクニカル・ジャッジ/テクニカル・パネルはすべての要素を記録し、テクニカル・パネルの責任のもと減点を行うこととする。ジャッジは演技構成同様、各要素に

対し GOE を与えることとする。

(iv) テクニカル・ジャッジ/ジャッジのうち 1 名は、別のレフェリーが競技会に任命されていない限り、レフェリーを務めることとする。その者、またはレフェリーは、レフェリーの責任のもと単独で減点を行うこととする。

c) 「競技役員の採点シート」を、各演技の後に回収する必要がある。そのデータは、コンピュータに転送され結果算出となるか、または手計算される。結果の算出は規定 353 に沿って行うこととする。

### 規定 353 ISU ジャッジング・システム- 結果の判定および発表

#### 1. 計算の基本原則

a) パターン・ダンスの各セクション、各要素（すなわち、ショート・プログラム/ショート・ダンス/フリー・ダンスの必須要素、またはバランスの取れたフリー・スケーティング・プログラム要素）には、ISU コミュニケーションにおいて発表される価値尺度（=Scale of Value、SOV）表に示された一定の基礎値がある。

b) 各ジャッジは、各セクション/要素を出来栄の段階評価のうち 1 つに特定する。各評価には、SOV 表にも示された固有のプラスまたはマイナスの数値がある。

[2016 年版にて、出来栄評価の「7 段階」を削除。](#)

c) パネルの出来栄点（=GOE）は、ジャッジが与えた出来栄点の数値の調整平均を算出することで決まる。

d) 調整平均は、最高値および最低値を差し引き、その残りの数値の平均を求めることで算出される。ジャッジが 5 名未満の場合は、最高値および最低値を計算から差し引かない。

e) この平均が、個々のセクション/要素の最終出来栄点となる。パネルの GOE を小数点第 2 位で四捨五入する。

f) 各セクション/要素に対するパネル・スコアは、このセクション/要素の調整平均 GOE をその基礎値に足すことで決まる。

g) すべてのセクション/要素に対するパネル・スコアを足すと、総技術点（=Total Elements Score、TES）となる。

h) シングル&ペア・スケーティングにおいて：

- i) ジャンプ・コンビネーションは、含まれるジャンプの基礎値を足し、最高難度のジャンプの数値に GOE を付すことで、1 つの構成単位として評価される。
- ii) ジャンプ・シーケンスは、2 つの最高値ジャンプの基礎値を足し、その計算結果に 0.8 を掛け、それから最高難度のジャンプの数値に GOE を付すことで、1 つの構成単位として評価される。係数処理を施した連続ジャンプの基礎値を小数点第 2 位で四捨五入する。
- iii) いかなる余分な要素、または所定の数を超す要素も、選手の結果にはカウントされない。1 つの要素の 1 回目の試行（または許可された試行回数）だけが考慮される。
- iv) シングル・スケーティングのショート・プログラムおよびフリー・スケーティングでは、プログラム後半に跳ぶすべてのジャンプ要素の基礎値（ただし GOE ではない）に対し、プログラムにおける難度の均等配分を評価する意味で特別係数 1.1 を掛ける。係数処理を施した、プログラム後半に跳ぶすべてのジャンプ要素の基礎値を、小数点第 2 位で四捨五入する。後半が始まるのは、プラスマイナス 10 秒の許容を除いた所要時間の真ん中からである。ただし、最大 3 分までの中断（規定 515）の場合、係数 1.1 はプログラム後半かつ中断前に開始したジャンプ要素にのみ用いられる。

2016 年版にて、ショート・プログラム後半の開始時間を変更し、フリー・スケーティング同様の時間とした。

変更前：「最大時間の真ん中、つまり 1 分 25 秒」

また、中断の場合の規定を追加。

- i) アイス・ダンスにおいて
- i) コンビネーション・リフトは、最初に行った 2 種類のショート・リフトの基礎値を足し、GOE を付すことで、1 つの構成単位として評価される。コンビネーション・リフトの GOE は、この最初に行った 2 種類のショート・リフトに該当する GOE の合計値と等しくなる。
- ii) コンビネーション・ステップ・シーケンスは、片足でのステップ・シーケンスとステップ・シーケンスとの基礎値を足し、GOE を付すことで、1 つの構成単位として評価される。コンビネーション・ステップ・シーケンスの GOE は、この 2 つのステップ・シーケンスに該当する GOE の合計値と等しくなる。(2018/19 シーズンより有効)

2016 年版にて ii を追加。

- j) 各ジャッジは演技構成についても 0.25～10 の段階で、0.25 点刻みで採点する。
- k) 各演技構成に対するパネルの点数は、その演技構成に対するジャッジの結果の調整平均を算出することで得られる。調整平均は d)に前述した方法で算出する。
- l) 各演技構成の調整平均を小数点第 2 位で四捨五入する。

- m) 次に、各演技構成に対するパネルの点数に下記の係数を掛ける（ジュニア、シニア共に同じ）：

男子	:	ショート・プログラム	: 1.0	フリー・スケーティング	: 2.0
女子	:	ショート・プログラム	: 0.8	フリー・スケーティング	: 1.6
ペア	:	ショート・プログラム	: 0.8	フリー・スケーティング	: 1.6
アイス・ダンス	:	ショート・ダンス	: 0.8	フリー・ダンス	: 1.2
		パターン・ダンス	: 0.7		

係数処理を施した結果を小数点第 2 位で四捨五入して足す。その合計が演技構成点（=Technical Components Score、TCS）である。

- n) 下記の規則に定めた特定の違反に対して減点を行う：

違反：	依拠：	点数：
プログラム時間	規定 502	不足または超過最大 5 秒ごとに -1.0 2016 年版にて「最大」を追加。
違反となる要素/動作	規定 504 第 2 項	違反ごとに -2.0
衣装および小道具	規定 501 第 1 項	プログラムごとに-1.0
衣装/装飾の 一部が氷上に落下	規定 501 第 2 項	プログラムごとに-1.0
転倒	規定 503 第 1 項	・ <u>シニア・シングル・スケーティング</u> ： <u>1 回目と 2 回目の転倒につき-1.0</u> <u>3 回目と 4 回目の転倒につき-2.0</u> <u>5 回目以降の転倒につき-3.0</u> ・ <u>ジュニア・シングル・スケーティング</u> ：転倒ごとに-1.0 2014 年版まではシニア・ジュニア



		<p>ともに「転倒ごとに-1.0」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペア・スケートティングおよび アイス・ダンス：パートナー1 人の転倒ごとに-1.0</li> <li>両パートナーの転倒ごとに-2.0</li> </ul>
開始遅れ	規定 350 第 2 項	1～30 秒の開始遅れに対し-1.0
プログラム演技の 中断	規定 503 第 2 項	<p>各中断に対し：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10～20 秒：-1.0</li> <li>・ 20～30 秒：-2.0</li> <li>・ 30～40 秒：-3.0</li> </ul>
中断時点から再開まで 最大 3 分の許容を含ん でのプログラム中断	規定 515	プログラムごとに-5.0
振り付けの制限	<p>ペア・スケートティング：</p> <p>ISU コミュニケーション において発表；</p> <p>アイス・ダンス：</p> <p>規定 709 第 1 項 d), g), h), j)および規定 710 第 1 項 f), h), j)</p>	プログラムごとに-1.0
超過要素 (アイス・ダンスのみ)	<p>必須要素、および ISU コミュニケーション において発表される コール原則</p>	違反ごとに-1.0
音楽の要件 (アイス・ダンスのみ)	<p>規定 707 第 5 項、 規定 709 第 1 項 c) (i),(ii)、 規定 610 第 1 項 c)</p>	プログラムごとに-2.0
テンポの指定 (アイス・ダンスのみ)	<p>規定 707 第 5 項および 規定 709 第 1 項 c)(iii)</p>	プログラムごとに-1.0
ダンス・リフトが 許容時間を超過 (アイス・ダンスのみ)	規定 704 第 16 項	ダンス・リフトごとに-1.0

## 2. 競技会の各セグメントにおける結果決定

- a) 競技会の各セグメント（ショート・プログラム/ショート・ダンス、フリー・スケート  
ティング/フリー・ダンスまたはパターン・ダンス）における各スケーター/ペア/カップル

の総合セグメント・スコア (=Total Segment Score、TSS) は、総技術点と演技構成点を足し、1 項 n) に記載の違反に対する減点を行うことで算出される。

- b) アイス・ダンスでは、パターン・ダンス 2 種目について、各ダンスの総合セグメント・スコアに係数 0.5 を掛ける。
- c) 最も高い総合セグメント・スコアのスケーター/ペア/カップルが第 1 位、次に高い総合セグメント・スコアのスケーター/ペア/カップルが第 2 位となり、以下同様に続く。
- d) 2 人以上のスケーターや 2 組以上のペア/カップルが同一結果となる場合、ショート・プログラム/ショート・ダンスおよびパターン・ダンスにおいては総技術点で決着がつく。フリー・スケートティング/フリー・ダンスにおいては演技構成点で決着がつく。この結果がまたしても同一の場合は、当のスケーター/ペア/カップルはタイとみなされる。
- e) セグメントの係数が適用となるセグメントについては、係数処理を施したセグメント・スコアを小数点第 2 位で四捨五入する。

### 3. 最終結果の決定

- a) ショート・プログラム/ショート・ダンスまたはパターン・ダンスの総合セグメント・スコアとフリー・スケートティング/フリー・ダンスの総合セグメント・スコアを足した結果が、競技会でのスケーター/ペア/カップルの最終スコアとなる。最終スコアの最も高いスケーター/ペア/カップルが第 1 位となり、以下同様に続く。
- b) 最終スコアが出てタイとなった場合は、最後に滑ったセグメント（フリー・スケートティング/フリー・ダンス）で最高スコアだったスケーター/ペア/カップルが第 1 位となり、以下同様に続く。もし最高スコアでのタイとなった場合は、演技構成点の高い方が上位となる。アイス・ダンスにおいて 2 つのパターン・ダンスを滑る場合、どちらのダンスも評価は同じである。タイ・ブレイク基準はない。
- c) 当該セグメントについてタイとなった場合は、前に滑ったセグメントでの順位が上位決定に考慮される。前セグメントがない場合は、スケーター/ペア/カップルはタイとなる。

### 4. 結果発表

- a) 競技会の総合結果発表では、敗退選手（スコア不足または棄権により次のセグメントに進む資格を有しなかった選手）を、競技会を無事に終えた選手に続いてリストアップすることとし、敗退選手を挙げるのは最後に滑り終えたセグメント後の順位の順である。失格となった選手は順位がなくなり、中間および最終結果において失格 (=Disqualified、

DSQ) と公式に記される。競技を終えた選手で、失格となった選手よりも当初の順位が低かった選手は、結果的に順位が上がる。

- b) 各セグメントの後には総技術点、各演技構成で得られたパネルの点数、演技構成点、減点、および総合スコアを各スケーター/ペア/カップルについて発表しなければならない。
- c) 各セグメントの後にはすべての要素の基礎値、GOE、演技構成に対する各ジャッジからの点数をプリントアウトする。すべてのフィギュア・スケート競技会、選手権、試合、および冬季オリンピック大会については、ジャッジの氏名とそれぞれのスコアが公表される。

2016 年版にて、ジャッジの匿名性を廃止。

変更前：「ISU 選手権、冬季オリンピック大会、フィギュア・スケート・シニア・グランプリ競技会およびファイナルについては、ジャッジの具体的な名前を一切抜き（匿名）にしてジャッジの採点をランダムな並びでリストアップする。」

- d) 最終結果を競技会終了後早急に発表しなければならない。この最終結果には、各スケーター/ペア/カップルについて下記の点を含めなければならない：
  - 最終順位
  - それとは別に、競技会の各セグメントにおける順位
- e) 競技会の終わりに、各スケーター/ペア/カップルの総合点数（最終スコア）を発表しなければならない。

#### 規定 354 ISU メンバーによる団体結果

国際競技会で ISU メンバーによる団体結果を確定するために、当該 ISU 機関は ISU コミュニケーションにおいて計算システムを提供および発表することとする。このシステムは各競技、すなわち女子シングル・スケーティング、男子シングル・スケーティング、ペア・スケーティング、アイス・ダンスにおける個々の競技会の結果に基づくものとする。国際シニア、ジュニア、ノービス競技会の主催の ISU メンバーが任意で行い、競技会の告知の席で正式に告知してもよい。

#### 規定 355 世界ランキングシステム

当該 ISU 機関は ISU コミュニケーションにおいて、世界ランキングを樹立する計算システムを決定および発表することとする：

- a) ランキングの対象は女子、男子、ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスとする。
- b) 団体の結果および/または個々人の結果を考慮して、ISU メンバーがランキング付けを行う。

この世界ランキングは ISU ウェブサイトにアップデートおよび発表される。

#### 規定 356-357 (留保)

#### 規定 358 表彰

1. 各競技会の最終結果について表彰を行う。
2. 主催の ISU メンバーは、競技会のどのセグメントにおける順位に対しても追加表彰を行うことができる。
3. ISU メンバーは、ISU 選手権のメダルと酷似したメダルを他の競技会に授与してはならない。

#### 規定 359-364 (留保)

#### 規定 365 競技会中のエキシビション

選手は国際競技会において、当該競技会のすべてが終了し結果が発表されるまで追加演技を行ってはならない。

#### 規定 366 プロトコル

1. 各 ISU 選手権、冬季オリンピック大会、冬季ユースオリンピック大会、および国際競技会の後にプロトコルを発表しなければならない。それには、下記に定めた一般項目および特別項目を含めなければならない。
2. プロトコルの一般項目は次のとおり：
  - a) 競技会の開催地およびアイスリンク名
  - b) 競技会が開催された日時
  - c) ISU 選手権についてのみ：ISU 評議会、シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンス技術委員会委員、ISU 事務局長、スポーツ・ディレクター、会計責任者、顧問弁護士のリスト
  - d) 出席している ISU 職員
  - e) 参加している ISU メンバーおよびエントリー者
  - f) 組織委員会の構成
  - g) 競技会の日程（オン・アイスおよびオフ・アイスの日程）
  - h) 競技役員（各セグメントについて該当する場合）
  - i) リンクのタイプ（暖房付き、または暖房なし）
  - j) スケーティング・エリア/氷面のサイズ

- k) 氷のコンディション
- l) エントリー数、それに続き、参加した選手数
- m) セグメントの特別条件、係数、および所要日数
- n) アイス・ダンスについて、滑走順でのパターン・ダンス（該当する場合）
- o) アイス・ダンスについて、ショート・ダンスのリズム/テーマ

3. プロトコルの特別項目は、規定 353 第 4 項に各競技（女子、男子、ペア、アイス・ダンス）についてリストアップされている。
4. プロトコルにレフェリーおよびテクニカル・コントローラーの署名をしなければならない。
5. ISU 選手権のプロトコルには第 1 位、2 位、3 位の選手の写真を掲載しなければならない。国際競技会については、こうした写真掲載は必須ではない。
6. ISU 競技会および国際競技会のプロトコルを ISU ウェブサイト上に発表するため、競技会終了から 1 週間以内に電子フォームで ISU 事務局に送付しなければならない（ISU 選手権については規定 135 を参照）。

2016 年版にて送付期限を「2 ヶ月以内」から「1 週間以内」へ短縮。

#### 規定 367 新制度

1. 新方式および技術変更を国際競技会（ISU 選手権は除く）で試用することができるが、下記の指示を順守することが条件である：
  - a) 申請書を少なくとも 3 ヶ月前に当該技術委員会に送付し、承認状\*を得なければならない。  
[ \* 訳注：原文では”the approval of the latter”と記されているが、”latter”は”letter”のスペルミスと推察されるため、”letter”の意で和訳している。 ]
  - b) 競技会の告知の席で、試行する新制度について述べなければならない。
  - c) 技術委員会は、競技会の監視や新方式についての報告を行うに適した人物を任命する。
  - d) 競技会の終わりに主催の ISU メンバーは、新方式について技術委員会に報告しなければならない。
2. 技術的性質の変更は技術委員会が国際競技会において試験的に実施することができる。ISU メンバーにはこうした変更を ISU コミュニケーションまたは回報を通じて知らせることとする。

**規定 368 公共へのコメント**

いかなる国際フィギュア・スケート競技会に参加している競技役員も、競技会に関し公共に向けて否定的なコメントを一切してはならない。

**規定 369-374 (留保)**

SPECIAL  
REGULATIONS  
&  
TECHNICAL  
RULES

SINGLE&PAIR  
SKATING  
and  
ICE DANCE  
2016

## B. ISU 選手権- 特別規程

### 規定 375 割り振り

ISU フィギュア・スケート選手権の割り振り、および日取りに関する規則は、規定 127 および規定 128 を参照。

### 規定 376 選手権の日程/所要日数

1. ISU 選手権は 7 日を超過してはならない。ISU 選手権の最初の競技滑走に先立ち、主催の ISU メンバーは選手全員に選手権会場での 2 日間の自由練習を提供しなければならない。
2. 各競技について、ショート・プログラム/ショート・ダンスおよびフリー・スケーティング/フリー・ダンスを同日に滑ってはならないが、最大連続 3 日間の内に完了させること。

### 規定 377 選手権への参加

1. 世界選手権には、ISU メンバー所属の選手誰もが参加できる（例外については規定 109 第 5 項を参照）。
2. 欧州選手権については、競技資格のある選手は欧州 ISU メンバーの一員で、なおかつ規定 109 第 2 項および 3 項の要件を満たす者に限られる。
3. 四大陸選手権については、競技資格のある選手は欧州 ISU メンバーの一員でなく、なおかつ規定 109 第 2 項および 3 項の要件を満たす者に限られる。

### 規定 378 ISU 選手権シングル&ペア・スケーティング&アイス・ダンスのエントリー

1. ISU 選手権においてシングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスでは、当該の選手権の初日（公式練習初日）より 21 日前までに、名前を挙げてのエントリーをスポーツ・ディレクターおよび組織委員会へ同時に届け出なければならない。追加エントリーについては一般規則の規定 115 第 6 項が適用となる。
2. a) エントリー数：  
ISU 選手権では、各 ISU メンバーは、下記 3 項に概説する最小の総技術点を獲得した選手をスペシャル・クラブ\*がエントリーする場合を除き、少なくとも選手 1 名をセグメント（男子、女子、ペア・スケーティング・カップル、アイス・ダンス・カップル）ごとにエントリーすることができる。

【\* 訳注：ISU 規約によると「スペシャル・クラブ」とは、スイスのダボス国際アイス・スケーティング・クラブ（Internatinoaler Schlittschuh-Club Davos）、およびフィンランドのストックホルム一般アイス・スケート・クラブ（Stockholms

Allmänna Skridskok Klub) の 2 つのみ。その歴史的役割が認められ両クラブは ISU 総会への参加権を有しているが、投票権はなく、また ISU メンバーが持つその他の一切の権限もない。]

b) 各選手権/セグメントの、ISU メンバーごとの総出場枠

総出場枠を決定するため、直前のシーズンにおいて同じ選手権の該当競技（男子、女子、ペア・スケートティング、アイス・ダンス）に参加した ISU メンバーは、前シーズンの選手権に出場した当該メンバー所属の選手たちの順位の総和に等しいポイントを累算することとする。選手は最初の抽選に参加すればエントリーしたものとみなされる。

ショート・プログラム/ショート・ダンスに出場したもののフリー・スケートティング/フリー・ダンスに進出する資格を有しなかった選手には、シングル・スケートティングについて 18 ポイントおよび、ペア・スケートティング/アイス・ダンスのショート・プログラム/ショート・ダンスでの順位に相当するポイント数が与えられる（ただしこの順位が 18 位より低い場合は 18 ポイントのみ与えられる）。フリー・スケートティング/フリー・ダンスに進出する資格を有したものの最終結果で 16 位以下だった選手には、16 ポイント（下記の項に定められていない理由で棄権が生じて出場選手数が 16 人以下となる場合は、選手の人数に等しいポイント数）が与えられる。

ただし、

- ・ 疾病または怪我（この疾病または怪我を ISU メディカル・アドバイザーが認めた場合）
- ・ ウォームアップ中または演技中の予期せぬ設備ダメージ（この設備ダメージをレフェリーが認めた場合）

を理由に棄権する選手は、フリー・スケートティング/フリー・ダンスを開始または終了しなかったもののショート・プログラム/ショート・ダンスで上位 10 位以内だった場合、本規定上、出場したとはみなされない。

ISU メンバー 1 団体が 1 選手権の 1 セグメントに選手 3 名を出場させた場合、上位 2 名のみがポイントにカウントされる。

c) ISU メンバー 1 団体が選手権会場に派遣することのできる、セグメント（男子、女子、ペア・スケートティング、アイス・ダンス）ごとの選手数（総出場枠）は下表により決まる：

前シーズンの選手権で ポイントにカウントされた 選手数	今シーズンの選手権で 3 枠エントリーするために 必要なポイント	今シーズンの選手権で 2 枠エントリーするために 必要なポイント
2	13 以下	28 以下



1	2 以下	10 以下
---	------	-------

- d) ISU 四大陸フィギュア・スケート選手権では、エントリー資格のある各 ISU メンバーに、各セグメントにつき最大 3 名までの総出場枠がある。

### 3. 最小の総技術点

ISU 選手権にエントリーおよび参加するためには、スケーター/ペア/カップルは ISU 公認の国際競技会（第 39 条第 7 項および、規定 107 第 1 項～9 項のとおり）において、現在または直前のシーズン中に、当該最小の総技術点に達していなければならない。当該最小の総技術点は、当該技術委員会およびスポーツ・ディレクターからの共同提案に基づいて ISU 評議会がシーズンごとに決定し ISU コミュニケーションにおいて発表することとする。

4. 各 ISU メンバーは各競技につき、1 枠エントリーの場合は補欠 1 名を、2 枠以上のエントリーの場合は 2 名以下の補欠をエントリーすることができる。補欠が競技可能となるのは、自身の所属する ISU メンバーが当該競技に最初にエントリーしていた選手の名前を、最初の抽選開始の遅くとも 1 時間前までに取下げた場合に限られる。

### 規定 379 音楽のタイトル

ショート・プログラム/ショート・ダンスおよびフリー・スケート/フリー・ダンスの音楽タイトルと作曲家名を、ISU 選手権のエントリーと併せて提示しなければならない。可能であれば、これらをプログラムに印刷すること。

### 規定 380（留保）

### 規定 381 ISU イベント・コーディネーターおよび地域大会調整アシスタント

1. フィギュア・スケートにおけるイベント・コーディネーター、アシスタント・イベント・コーディネーター、および地域大会調整アシスタント（=Regional Event Coordination Assistant、RECA）：

ISU 評議会はフィギュア・スケートについて ISU イベント・コーディネーターを、また、必要な場合や可能な場合はアシスタント・イベント・コーディネーターだけでなく予備要員の地域大会調整アシスタントも、規約第 38 条に従って任命することとする。

2. ISU フィギュア・スケート選手権および ISU フィギュア・スケート・グランプリ・ファイナルの会議および調査訪問：

各フィギュア・スケート選手権について、フィギュア・スケート・スポーツ・マネージャーおよび/またはイベント・コーディネーターおよび/またはアシスタント・イベント・コーディネーターは、少なくとも 1 回は選手権会場での会議および調査訪問に参加することと

するが、選手権/ファイナル前の 2 年間に行うテレビ局や広告会社との打ち合わせも含まれる。

3. ISU フィギュア・スケート選手権の現地監視：

フィギュア・スケート選手権および ISU フィギュア・スケート・グランプリ・ファイナルについて、フィギュア・スケート・スポーツ・マネージャーおよび/またはイベント・コーディネーターおよび/またはアシスタント・イベント・コーディネーターに加え、1 名または 2 名の地域大会調整アシスタントが、選手権/ファイナルに出席することとする。彼らのうち少なくとも 1 名は、選手権/ファイナルの公式練習の初めから出席しなければならない、緊急時を除いて他の立場で務めてはならない。彼らは、選手権/ファイナルで使用するすべてのスケート施設およびサービスのコンディション、適切性、使用スケジューリングに関するあらゆる技術的事項において、ISU を代表することとする。さらに、必要に応じて彼らは、レフェリー、その他の競技役員、事務局の間に立って連絡係を務める。

各 ISU イベント調整チーム（フィギュア・スケート・スポーツ・マネージャー、イベント・コーディネーター、アシスタント・イベント・コーディネーター、地域大会調整アシスタント）の構成を、年度予算を通じて副会長が提案し ISU 評議会が決定することとする。

4. ISU フィギュア・スケート競技会の監視および現地出席：

その他の ISU フィギュア・スケート競技会について ISU イベント調整チームは、監視を行い、事によっては競技会場に出席することとするが、それは必要に応じて、また年度予算の中で副会長が提案し ISU 評議会が決定したとおりに行う。

**規定 382-392（留保）**

**規定 393 シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンスのメダル授与**

1. シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンスにおいて、ISU 選手権でのメダル表彰式は次のとおりとする：

- a) 最終結果が算出されると、まず優勝者、それから 2 位、3 位の選手が発表され、彼らは氷上の表彰台へと招集される。
- b) ISU 代表者は優勝者に金の ISU メダル、また 2 位と 3 位の選手に銀と銅の ISU メダルを授与する。レフェリー、テクニカル・コントローラー、および主催の ISU メンバーの代表者はメダル受賞者を祝う（規定 134 第 3 項も参照）。

2. レフェリーは競技会の各セグメント（女子、男子、ペアのショート・プログラムおよびフリー・スケーティング、アイス・ダンスのショート・ダンスおよびフリー・ダンス）終了後、金の ISU スモールメダルを当該セグメントの優勝者に、また銀のスモールメダルと銅のス

モールメダルを当該セグメントの 2 位と 3 位の選手に授与することとする（規定 134 第 3 項 f も参照）。

**規定 394 メダル**

主催の ISU メンバーは選手権メダルを ISU 事務局長から取り寄せなければならない。

**規定 395（留保）**

**規定 396 アイス・ショーの広告**

ISU 選手権では、アイスリンクの内側外側や、一般に販売配布するプログラムへのアイス・ショーの広告は禁止されている。そうした広告があった場合、ISU イベント・コーディネーターおよびまたは ISU 代表者は直ちに介入しなければならない。

**規定 398-399（留保）**

SPECIAL  
REGULATIONS  
TECHNICAL  
RULES  
SINGLE&PAIR  
SKATING  
and  
ICE DANCE  
2016

## C. 冬季オリンピック大会

### 規定 400 冬季オリンピック大会へのエントリー

#### A. 選手のエントリー

1. 冬季オリンピック大会の最大出場枠は、女子および男子が 30 名、ペアが 20 組、アイス・ダンスが 24 組である。シングル・スケーティングでは、ショート・プログラムにおける上位 24 名が最終のフリー・スケーティングへの進出資格を有する。ペア・スケーティングでは、ショート・プログラムにおける上位 16 組が最終のフリー・スケーティングへの進出資格を有する。アイス・ダンスでは、ショート・ダンスにおける上位 20 組が最終のフリー・スケーティングへの進出資格を有する。
2. 直前の年の世界シニア選手権に参加した ISU メンバーは、規定 378 第 2 項 b) および c) に従ってポイントを累算する。
3. 女子の種目および男子の種目の 24 枠、ペアの種目の 16 枠、アイス・ダンスの種目の 19 枠は、上記 2 項に概説した格付けに従って決まる。このため、直前の年の世界シニア選手権で 2 枠または 3 枠の出場権を獲得した ISU メンバーは冬季オリンピック大会も同じ権利を獲得し、残りの ISU メンバーは同じ世界シニア選手権における最高順位の選手の順にリストアップされる。前述の手順を適用した結果、女子および男子が 24 名以上、ペアが 16 組以上、アイス・ダンス・カップルが 19 組以上予選免除資格を有する場合は、資格制限に最後に達した ISU メンバーは制限超過となるスケーター/ペア/カップルを出場させてはならない。
4. 残りの自由応募の空きについては ISU メンバーが補充するが、冬季オリンピック大会直前の暦年の秋に ISU 指定で行われるシニア国際競技会における順位の順に補充する。自由応募が可能なのは出場枠をあらかじめ獲得していない ISU メンバーのみであり、ISU メンバーにつき 1 枠のみ獲得できる。
5. 冬季オリンピック大会にエントリーおよび参加するためには、スケーター/ペア/カップルは ISU 公認の国際競技会（第 39 条第 7 項および、規定 107 第 1 項～第 9 項による）において、現在または直前のシーズン中に、ISU 欧州選手権および四大陸選手権向けに定められた当該最小の総技術点に達していなければならない（規定 378 第 3 項を参照）。
6. しかし、もしホスト ISU メンバーが通常の予選方式を通過しいずれの競技（女子、男子、ペア・スケーティング、アイス・ダンス）においても前述の 3 項または 4 項に基づく予選通過ではなかったとすれば、ホスト ISU メンバーは当該競技ごとに選手 1 名を追加エントリーとして申し込む権利を有することとするが、それは当のスケーター/ペア/カッ

プルが冬季オリンピック大会向けの最小の総技術点に達している場合である。

7. 前述の 2 項および 3 項の条件下で出場枠を獲得した ISU メンバーは、出場枠をフルに使う意向の場合、可能であれば各シニア国際競技会後 9 月 15 日までに ISU 事務局に通知すること。出場枠をフルに使わない意向の ISU メンバーがいる場合、シングル・スケーティングの 24 枠、ペア・スケーティングの 16 枠、アイス・ダンスの 19 枠に満たない分の空いた自由応募枠については前述の 4 項に従って出場枠を増やすことで補充する。
8. 3 項～5 項に従って IOC (=International Olympic Committee、国際オリンピック委員会) が指示した期限内に ISU メンバーが参加発表の権利を行使しない場合は、予選を通過しておらずまだ代表入りしていない ISU メンバーについて、指定のシニア国際競技会 (4 項) の最終結果に基づき補欠のエントリーを選出する。
9. 決定したエントリーおよび補欠のエントリーのリストを、各シニア世界選手権およびオリンピック大会予選後 10 月 30 日までに ISU コミュニケーションにおいて発表する。

#### B. 団体種目エントリー

冬季オリンピック大会のプログラムにおいて、既存の種目数に加えてシングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンスを含む団体種目を IOC が採用する場合、評議会は IOC と相談しあらゆる関連条件 (団体数および参加者数、予選通過/参加/エントリー基準、技術書式、滑走順、結果判定、競技役員の参加、その他の関連する技術的および組織の詳細) を決定することとする。

#### 規定 401 冬季オリンピック大会の競技役員任命

1. 冬季オリンピック大会のフィギュア・スケート種目、ならびに冬季オリンピック大会予選のレフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、アシスタント・テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーター、および OAC (=Officials Assessment Commission、競技役員評価委員会) 委員を、規定 121 および規定 126 第 9 項に従って任命することとする。
2. 冬季オリンピック大会開催国の ISU メンバーは、ISU 職員である者も含め、シングル&ペア・スケーティングについては自らのレフェリー/テクニカル・コントローラー/テクニカル・スペシャリスト 2 名以下、またアイス・ダンスについては自らのレフェリー/テクニカル・コントローラー/テクニカル・スペシャリスト 1 名が業務に就くことを推奨してもよい。そうした推奨があれば冬季オリンピック大会の前年の 4 月 1 日までに各スポーツ・ディレクターに申し出なければならない。

3. 選出されたレフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーター、および OAC 委員は、大会開始の 90 日前までに組織委員会より連絡を受けなければならない。
4. 本規定の第 1 項に従って任命した競技役員の氏名を、ISU より国際オリンピック組織委員会および当該 ISU メンバーに連絡しなければならない。

#### 規定 402 冬季オリンピック大会のジャッジ・パネル

1. 冬季オリンピック大会のシングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンス競技について、
  - a) ジャッジ・パネルはセグメントごとに 9 名のジャッジから成ることとする。  
各競技について 13 名のジャッジを抽選することとするが、それは当該競技における前年の世界選手権の結果に従い冬季オリンピック大会予選を通過したスケーターのいる ISU メンバーからの抽選である（それ以上の変更はなし）。
  - b) 選出されたジャッジは全員冬季オリンピック大会の現地に赴くが、そこでは各競技の各セグメントについて 9 名のジャッジ・パネルを揃えるために後の抽選すべてを下記の f) に述べた方法でレフェリーが行う。
  - c) 上記の a) の手順を基にジャッジを抽選する ISU メンバーの数が、どの競技であれ第 1 セグメントのジャッジ 9 名および第 2 セグメントの追加ジャッジ 4 名のジャッジ・パネルを揃えるに足りない場合は、冬季オリンピック大会にジャッジを派遣する権利を持つ追加の ISU メンバーを抽選するが、それはオリンピック大会予選結果に基づき各競技において予選を通過したスケーター/カップルのいる補欠の ISU メンバーからの抽選である。
  - d) 上記の a) および c) の手順を基にジャッジを抽選する ISU メンバーの数が、どの競技であれ第 1 セグメントのジャッジ 9 名および第 2 セグメントの追加ジャッジ 4 名のジャッジ・パネルを揃えるに足りない場合は、冬季オリンピック大会にジャッジを派遣する権利を持つ追加の ISU メンバーを抽選するが、それは前年の世界選手権の各種目に出場したスケーター/カップルのいる残りの全 ISU メンバー（上記の a) および c) に基づく抽選に参加したメンバー以外）からの抽選である。
  - e) 冬季オリンピック大会前の欧州フィギュア・スケート選手権開始時に、任命済みのジャッジの数が、冬季オリンピック大会のどの競技であれ第 1 セグメントのジャッジ 9 名および第 2 セグメントの追加ジャッジ 4 名のジャッジ・パネルを揃えるに足りない場合は、追加の抽選が必要となる可能性がある。前述のジャッジの人数不足は、上記の a)、c) および d) に基づく抽選によるもの、および/または上記の a)、c) および d) に基づくジャッ

ジ抽選で選出されながらも結果的にはジャッジを任命できなかった ISU メンバーや任命済みのジャッジを欧州フィギュア・スケート選手権開始前に取り消さなくてはならなかった ISU メンバーによるものかもしれない。第 1 セグメントのジャッジ 9 名および第 2 セグメントの追加ジャッジ 4 名のジャッジ・パネルを揃えるために選出される各競技のジャッジは補欠の ISU メンバーの中からの抽選だが、それは冬季オリンピック大会について他の何らかの競技で選出されジャッジを任命しながらも 2 番目の種目として当該競技の業務に就く意思のあるような ISU メンバーで、各競技にジャッジを伴う形でまだ代表を務めていないことが条件である。任命された当該ジャッジの主体性が求められるそうした追加抽選は、必要があれば冬季オリンピック大会前の欧州フィギュア・スケート選手権の期間中に行われる。

- f) 冬季オリンピック大会会場でレフェリーは各種目の各セグメントの滑走 45 分前に、当該種目について選出された全ジャッジの面前で、9 名のジャッジ・パネルを揃えるために公開の無作為抽選を行う。種目の第 1 セグメントについては、各種目のために選出された 13 名のジャッジの中から 9 名を抽選する。席順は、ジャッジが選出された順と同じである。種目の第 2 セグメントについては、第 1 セグメントで選出されていないジャッジ 4 名が第 2 セグメントの 9 名のジャッジ・パネルへと自動的に任命され、すでに第 1 セグメントで業務に就く他のジャッジは全員、9 名のジャッジ・パネルを揃えるための抽選に参加する。9 名のジャッジの席順については別途抽選を行う。
- g) パネルを務めるジャッジが、セグメントの滑走が進行している時に業務対応できなくなる場合、そのジャッジの代わりを立てることはしない。
- h) 基本的な抽選は冬季オリンピック大会予選後に予選会場で行われる。上記 e) のとおり敗者復活戦の抽選は、必要な場合に冬季オリンピック大会前の欧州フィギュア・スケート選手権の会場で行われる。これらの抽選結果は ISU が ISU コミュニケーションにおいて発表する。
- i) ジャッジ抽選で選出された ISU メンバーのスケーター/カップルが冬季オリンピック大会で誰も競技をしない場合、各 ISU メンバーの選出したジャッジがジャッジ・パネルにとどまる。
- j) 冬季オリンピック大会および左記大会のためのあらゆる ISU 予選について、ジャッジ・パネルは各競技の ISU レフェリーまたは ISU ジャッジの現行リストに載っているジャッジのみで構成されることとする。ジャッジの抽選に加わる ISU メンバーは、抽選前に少なくとも 2 回 ISU 選手権/オリンピック大会予選で業務に就いたことのある、資格を持った各競技の ISU ジャッジのいる ISU メンバーが対象となる。そうしたジャッジだ

けが冬季オリンピック大会での業務に就くことを推薦され得る。

2. 抽選で選出された ISU メンバーによる、ジャッジおよび可能性のある補欠ジャッジの任命については、ISU 一般規則 規定 138 第 1 項 c) が適用となる。
3. ISU メンバーが指名したジャッジの氏名を、抽選結果発表後 10 日を期限として下記へ通知しなければならない：
  - a) 自国の国際オリンピック委員会
  - b) 冬季オリンピック大会フィギュア・スケート競技会を開催する ISU メンバー
  - c) ISU 事務局長
  - d) 各スポーツ・ディレクター
4. 冬季オリンピック大会でのスケート種目の組織委員会は、レフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ・オペレーター、リプレイ・オペレーター、およびジャッジに適した席を提供する責任がある。

#### **規定 403 冬季オリンピック大会での抽選**

すべての抽選（各競技の第 1 セグメント開始の 2 日前に別途行う滑走順公開抽選は除く）、ショート・プログラム、フリー・スケーティング、ショート・ダンス、フリー・ダンス、乗算係数、全プログラムの継続時間は、ISU 選手権の項に定められている通りである。

#### **規定 404-409（留保）**



## シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンスの競技役員規則

### A. 競技役員の推薦および任命

#### 規定 410 競技役員の推薦方法および任命方法

1. 規定 121 および規定 122 に従い各 ISU メンバーは毎年 4 月 15 日より前に、下記の点について望ましいとされる者を ISU 事務局長へ推薦しなければならない。
  - a) 国際レフェリーになるための ISU セミナーおよび ISU 試験、初指名
  - b) ISU レフェリーになるための ISU セミナーおよび ISU 試験、初指名
  - c) 国際ジャッジになるための ISU セミナーおよび ISU 試験、初指名
  - d) ISU ジャッジになるための ISU 試験、初指名
  - e) 国際テクニカル・コントローラーになるための ISU セミナーおよび ISU 試験、初指名
  - f) ISU テクニカル・コントローラーになるための ISU セミナーおよび ISU 試験、初指名
  - g) 国際テクニカル・スペシャリストになるための ISU セミナーおよび ISU 試験、初指名
  - h) ISU テクニカル・スペシャリストになるための ISU セミナーおよび ISU 試験、初指名
  - i) ISU または国際データ&リプレイ・オペレーターになるための ISU セミナー、初指名
2. 推薦状の提出、また ISU による任命を、次のとおり資格認定別および競技別に分けて行わなければならない：
  - a) レフェリーおよびジャッジ
    - シングル&ペア・スケーティング
    - アイス・ダンス
  - b) テクニカル・コントローラーおよびテクニカル・スペシャリスト
    - シングル・スケーティング
    - ペア・スケーティング
    - アイス・ダンス
  - c) データ&リプレイ・オペレーター

- 全競技

3. ISUメンバーによる各競技役員推薦には、各競技および競技役員資格認定について記入した公式用紙を添えなければならない。
4. ISUメンバーは規定 411～417 に従って、競技役員資格認定に推薦された者の適性を検証しなければならない。
5. ISU試験、初指名、または再指名に国外活動が必要とされる場合、ISUメンバーは推薦状と併せて、競技会のパネル一覧や ISUメンバーの声明あるいはレフェリーの声明などのように国外活動を裏付ける各書類を提出しなければならない。
6. 下記方法により競技役員を推薦できる：
  - a) 初指名：ISUメンバーによる推薦（テクニカル・スペシャリストは技術委員会/スポーツ・ディレクターによる推薦）
  - b) 国際競技役員への毎年の再指名：規定 122 に従って ISUメンバーが通知する場合を除き、当該技術委員会による推薦
  - c) ISU競技役員への毎年の再指名：規定 122 に従って ISUメンバーが通知する場合を除き、当該技術委員会による推薦
7. 原則として、推薦されて ISUメンバーのリストに載る競技役員は当該 ISUメンバーの国籍であることとする。
8. 推薦されて ISUメンバーのリストに載る競技役員が当該 ISUメンバーの国籍でない場合、その競技役員は推薦の前に少なくとも 12 ヶ月間当該 ISUメンバーの国内に定住していなければならない。加えて、その競技役員が国民であるところの ISUメンバーは承認しなければならない。
9.
  - a) いずれかの ISUメンバーのリストにすでに載っている競技役員は、下記条件においてのみ、推薦されて他の ISUメンバーのリストに載ることが可能となる：
    - i) 競技役員が、自身が記載されるリストの ISUメンバーの国籍を取得し、さらには当該国に永住している、または
    - ii) 競技役員が二重国籍を取得し、自身が記載されるリストの ISUメンバーの国でなおかつ自身が国民でもある国に永住している

iii) ISUメンバーが、自らのリストに以前載ったことのある競技役員を承認する

b) いずれかの ISUメンバーのリストにすでに載っている競技役員が

i) 自身の永住場所を変更することなく新たに国籍を取得する、または

ii) 二重国籍を取得しており、第 2 の国籍の ISUメンバーのリストに載ることを同意してはいるが自身の永住国の変更はしない、または

iii) 自身が以前載ったことのあるリストの ISUメンバーから承認されていない

場合は、最初の ISUメンバーのリストに載っていた年の 4 月 15 日以降 12 ヶ月が経って初めて、推薦されて他の ISUメンバーのリストに載ることが可能となる。

10. 本規定第 7 項～第 9 項に対する例外がフィギュア・スケート副会長により認められることがあるが、それは定められた要件すべてを満たすよう強いることが、競技役員の特段の事情により当該競技役員にとって大変な困難となる場合である。

11. 「国籍」および「居住」という語句の解釈、また、国籍および居住を証明できる書類については、関連する ISU コミュニケーションにおいて言及する。

12. 競技役員になるための ISU 試験のすべてに無事合格した候補者は即任命され、当該 ISUメンバーの現行の競技役員リストそれぞれに追加される。

13. 第 20 条第 3 項 c) (i)および(ii)に従い、推薦された者の中から競技役員を任命するには当該技術委員会の承認がまず必要だが、当委員会は自らが任命に推薦する者のリストを作成しそのリストを ISU フィギュア・スケート副会長に提出する。推薦された者が技術委員会の承認リストに含まれない場合、推薦した ISUメンバーは ISU フィギュア・スケート副会長に訴えることができ、副会長の下す判断を最終判断とする。当該技術委員会および ISU フィギュア・スケート副会長に最終承認された者だけが、競技役員とみなされる。推薦された者が ISU に承認されない場合、不承認の理由が推薦した ISUメンバーに伝えられる。

14. ISU フィギュア・スケート副会長は当該技術委員会との協議後、事前推薦なしに下記の最大人数を任命することができる。

- レフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ & リプレイ・オペレーターのリストに掲載する 3 名

- ジャッジのリストに掲載する 6 名

ISU フィギュア・スケート副会長により任命される者は、資格認定要件のすべてを満たしていなければならない。

15. ISU 競技役員には同じ役割で国際競技役員を務める権利があるが（規定 430 一般 b を参照）、彼らの名前は国際競技役員リストに含まれない。
16. ISU レフェリーには ISU ジャッジまたは国際ジャッジを務める権利があるが（規定 430 一般 c を参照）、彼らの名前は ISU ジャッジおよび国際ジャッジリストに含まれない。
17. 国際レフェリーには国際ジャッジを務める権利があるが（規定 430 一般 d を参照）、彼らの名前は国際ジャッジリストに含まれない。
18. 当該技術委員会および ISU フィギュア・スケート副会長が承認した競技役員の全リストを、規定 122 に従い ISU メンバーに連絡しなければならない。任命は毎年 8 月 1 日から翌年 7 月 31 日まで有効とする。
19. ISU メンバーは競技役員リストを受け取り次第すぐに確認しなければならない。いかなる訂正要求も 2 ヶ月以内に行わなければならない。その期間が過ぎるとリストは訂正されたものとみなされる。そうしたリストに対する異議があれば ISU メンバーが 2 ヶ月以内に申し立てなければならず、異議を ISU フィギュア・スケート副会長が検討した後は副会長の下す判断を最終判断とする。

#### 規定 411 競技役員の推薦および任命についての一般要件

1. 各 ISU メンバーは、自らが推薦したレフェリー、テクニカル・コントローラー、およびジャッジが適任者であることを規定 102 に従い保証することとする。前述の内容に反する場合、当該 ISU メンバーは翌年の競技役員を推薦する権利を失うこととし、当該レフェリー、テクニカル・コントローラー、またはジャッジはリストから除名とする。
2. 有能で、信頼性があり、熟練しており、試験を受けた中立的立場の者で、彼らの資格にふさわしい ISU 規定についての十分な知識を持つ者だけを、ISU メンバーは細心の注意を払って競技役員に推薦しなければならない。競技役員に推薦された者は、彼らの資格に付随する職務に適した実用的な英語力を有していなければならない。
3. 競技役員の推薦任命の特別要件について考慮される業務およびセミナー出席（規定 412～規定 417 を参照）は、具体的言及がなければ、各競技における業務およびセミナー出席に限ら

れる。

4. 初指名に関しては、希望の資格における当該競技役員の国際業務（該当する場合）および国内業務（該当する場合）が条件を満たしていると次の者からみなされなければならない：

- 国際業務：当該技術委員会
- 国内業務：各 ISU メンバー（ISU メンバーが競技役員を推薦する場合）

これは業務要件を満たすことが必須な推薦前の期間についてである。

5. レフェリーおよびジャッジの再指名に関しては、業務に就くことを推薦されたものの選出されなかったために業務要件を満たすことのできていない競技役員から再指名の資格を取り上げてはならない。

6. a) 各資格の再指名のための業務および/またはセミナー出席の要件を 7 月 31 日の時点で満たしていない ISU 競技役員は、各資格の国際競技役員リストに移されることとする。以前就いていた職に復帰するためには、当該競技役員は不足要件を翌年の 7 月 31 日より前に満たさなければならない。不足要件を満たさない場合は、国際競技役員の要件を満たすという条件付きで、当該競技役員は国際競技役員リストにとどまる。

- b) 各資格の再指名のための業務および/またはセミナー出席の要件を 7 月 31 日の時点で満たしていない国際競技役員は、各資格の国際競技役員リストから除名とする。以前就いていた職に復帰するためには、当該競技役員は不足要件を翌年の 7 月 31 日より前に満たさなければならない。要件を満たさない（または満たすことができない）場合、当該競技役員は国際競技役員の初指名要件を再度満たし推薦されなければならない。

- c) しかし、医学的検証済みの生命に関わる疾病を理由にセミナー出席要件を満たさない場合は、前述の a) および b) に定めた措置を 1 年間取ってはならず、また 1 回しか措置を取ってはならない。

7. 不正行為に対する停職後の、競技役員の復帰

- a) 競技役員の不正行為に対し懲戒委員会が処す停職は、当該競技役員が認定されたすべての ISU/国際資格および競技に適用となることとする。

- b) 不正行為のため懲戒委員会より一定期間の停職処分となった競技役員は、反対の要求を当該競技役員の ISU メンバーより受けない限り、次のとおりその停職期間終了時点で復職資格を有することとする。

- (i) 不正行為のため最大 36 ヶ月の停職処分となった競技役員は、当該資格への再指名要件である年齢、業務、セミナー出席要件を復帰前の 7 月 31 日時点で満たす場合

に、以前就いていた職に復帰することとする。停職中の国内競技会での業務は考慮に入れないこととする。これらの要件を満たさなかった（または満たすことができなかった）場合は、前述の 6 項の規定を適用することとする。

- (ii) 不正行為のため 36 ヶ月以上の停職処分となった競技役員は、復帰するには国際競技役員の初指名要件を満たし推薦されなければならない。

8. ISU 試験：

- a) 競技役員になるための ISU 試験に無事合格する基準は ISU コミュニケーションにて発表される。
- b) 競技役員になるための各 ISU 試験を、志願者 1 名につき 3 回以上受験することはできない。2 回不合格となった場合は、2 回目の挑戦と 3 回目の最後の挑戦との間に少なくとも 24 ヶ月は間を置かなければならない。

9. 定義：規定 412～規定 416 のために

- a) 国内競技会：シニアまたはジュニア向けの、国内または部門の、選手権または競技会を指す。
- b) 国際競技会：ISU 競技会、冬季オリンピック大会、またはその他の国際的なシニアまたはジュニアの競技会のことであり、規定 107 第 8 項または第 9 項に従って、業務要件に考慮されるセグメントについて、3 以上の ISU メンバーの参加および下記の者とともに行われる：
- ・ シングル・スケートティング：6 名以上の出場者
  - ・ ペア・スケートティングおよびアイス・ダンス：4 以上の出場者

非制限の国際競技会（規定 107 第 13 項による）は業務要件に考慮されない。

c) ジャッジング業務としてのトライアル・ジャッジ：

ISU 選手権のセグメントをジャッジすることを指すが、その選手権には ISU ジャッジは選出されず、当該技術委員会にレポートを提出する議長がジャッジングを行う。

- d) 業務要件に考慮される国内または国際競技会の数とは、異なる競技会の数のことである。競技会の異なるカテゴリー/競技は、異なる競技会とはみなされない。

**規定 412 レフェリーの推薦および任命についての特別要件**

1. 国際レフェリーとして初指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければなら

らない：

a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳に達していないこと。

b) 経歴：

i) 競技役員職を掲載している毎年の ISU コミュニケーションに、推薦直前に国際ジャッジとして 3 回連続で載ること。

ii) 当該競技の最高度の知識を有すること。

iii) 優れたコミュニケーション能力を有すること。

iv) チーム内で指示を受けて仕事ができること。

c) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 36 ヶ月のうちに、下記の業務に就いていること：

i) レフェリーを 2 つの国内競技会で務める（規定 411 第 9 項 a による）。

ii) ジャッジ（技術委員会委員に限っては、テクニカル・コントローラー）を、3 つの国際競技会（規定 411 第 9 項 b による）で務める。ジャッジしたセグメントには下記のものが含まなければならない：

■ショート・プログラムおよびショート・ダンスを各 3 回

■フリー・スケーティングおよびフリー・ダンスを各 3 回

d) セミナー出席

i) 推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 48 ヶ月のうちに、ジャッジの初指名または再指名のための ISU セミナーを受講修了していること（規定 417 を参照）。

ii) 国際レフェリーの初指名のための ISU セミナーを受講修了すること（規定 417 を参照）。

e) 試験：国際レフェリーになるための ISU 試験に無事合格すること。

2. 国際レフェリーとして毎年再指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：

a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳に達していないこと。

b) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 36 ヶ月のうちに、レフェリー、ジャ

ジャッジ、トライアル・ジャッジ、テクニカル・コントローラーまたは OAC 委員を 1 つの国際競技会において現地で務めること（規定 411 第 9 項 b による）。

c) セミナー出席：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 48 ヶ月のうちに、ジャッジの初指名または再指名のための ISU セミナー、および国際レフェリーの初指名または再指名のための ISU セミナーを受講修了していること（規定 417 を参照）。

d) 業務および/またはセミナー出席の要件を満たさない場合の結果は、規定 411 第 6 項に記されている。

3. ISU レフェリーとして初指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：

a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳に達していないこと。

b) 経歴：

i) 競技役員職を掲載している毎年の ISU コミュニケーションに、推薦直前に ISU ジャッジかつ国際レフェリーとして 3 回連続で載ること。

ii) 当該競技の最高度の知識を有すること。

iii) 優れたコミュニケーション能力を有すること。

iv) チーム内で指示を受けて仕事ができること。

c) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 48 ヶ月のうちに、下記の業務に就いていること：

i) レフェリーを 2 つの国際競技会で務める（規定 411 第 9 項 b による）。

レフェリーを務めたセグメントには下記のものが含まれなければならない：

■ショート・プログラム/ショート・ダンスを 2 回

■フリー・スケーティング/フリー・ダンスを 2 回

ii) ジャッジ（技術委員会委員に限っては、テクニカル・コントローラー）を、次のうち少なくとも 2 つの競技会における、4 つのセグメントで務める：ISU フィギュア・スケート・グランプリ・ファイナル（ジュニアおよびシニアを兼ねる）、ISU 選手権、または冬季オリンピック大会、そのうち 1 つは ISU 選手権または冬季オリンピック大会である。ジャッジしたセグメントには下記のものが含まれなければならない：



■ショート・プログラム/ショート・ダンスを1回

■フリー・スケーティング/フリー・ダンスを1回

d) セミナー出席

i) 推薦が行われる暦年の7月31日より前の48ヶ月のうちに、ジャッジの初指名または再指名のためのISUセミナーを受講修了していること（規定417を参照）。

ii) ISUレフェリーの初指名のためのISUセミナーを受講修了すること（規定417を参照）。

e) 試験：ISUレフェリーになるためのISU試験に無事合格すること。

4. ISUレフェリーとして毎年再指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：

a) 年齢：推薦が行われる暦年で70歳に達していないこと。

b) 業務：推薦が行われる暦年の7月31日より前の36ヶ月のうちに、レフェリー、ジャッジ、トライアル・ジャッジ、テクニカル・コントローラーまたはOAC委員を1つの国際競技会（規定411第9項bによる）において現地で務めること。

c) セミナー出席：推薦が行われる暦年の7月31日より前の48ヶ月のうちに、ジャッジの初指名または再指名のためのISUセミナー、およびISUレフェリーの初指名または再指名のためのISUセミナーを受講修了していること（規定417を参照）。

d) 業務および/またはセミナー出席の要件を満たさない場合の結果は、規定411第6項に記されている。

**規定413 ジャッジの推薦および任命についての特別要件**

1. 国際ジャッジとして初指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：

a) 年齢：24歳に達しており、しかし推薦が行われる暦年で50歳に達していないこと。

ジャッジが、他のISUフィギュア・スケート競技向けの国際またはISUジャッジ/レフェリーのISUリストにすでに載っている場合は、50歳という年齢制限は適用されない。

2016年版にて下線部を追加。

b) 業務：推薦が行われる暦年の7月31日より前の36ヶ月のうちにジャッジを務めること：

- シングル&ペア・スケーティング：3つの国内競技会（規定 411 第 9 項 a による）で業務に就き、そのうち 1 つのシングル・スケーティング競技を含む。ジャッジしたセグメントには下記のものが含まれなければならない：
    - ショート・プログラムを 3 回
    - フリー・スケーティングを 3 回
  - アイス・ダンス：2つの国内競技会で業務に就く。ジャッジしたセグメントには下記のものが含まれなければならない：
    - ショート・ダンスを 2 回
    - フリー・ダンスを 2 回
- c) セミナー出席：国際ジャッジの初指名のための ISU セミナーを受講修了すること（規定 417 を参照）。
- d) 試験：国際ジャッジになるための ISU 試験の筆記パートおよび実務パートに無事合格すること。ISU 試験の不合格パートを当該志願者は翌年の試験で再度受けなければならない。もし受けないと推薦状を再提出しなければならない。
2. 国際ジャッジとして毎年再指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：
- a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳に達していないこと。
- b) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 36 ヶ月のうちにレフェリー、ジャッジ、またはテクニカル・コントローラーを 1 つの国際競技会において務めること（規定 411 第 9 項 b による）。
- c) セミナー出席：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 48 ヶ月のうちに、国際ジャッジの初指名または再指名のための ISU セミナーを受講修了していること（規定 417 を参照）。
- d) 業務および/またはセミナー出席の要件を満たさない場合の結果は、規定 411 第 6 項に記されている。
3. ISU ジャッジとして初指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：
- a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳に達していないこと。

b) 経歴：競技役員職を掲載している毎年の ISU コミュニケーションに、推薦直前に国際ジャッジとして 3 回連続で載ること。

c) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 36 ヶ月のうちに、ジャッジを務めること。

- ・ シングル&ペア・スケーティング：4 つの国際競技会（規定 411 第 9 項 b による）で業務に就き、そのうち 1 つのシニア競技と 1 つのジュニア競技を含む。ジャッジしたセグメントには下記のものが含まれなければならない：

- ショート・プログラムを 3 回、そのうち 1 回は ISU 競技会でのショートを含む
- フリー・スケーティングを 3 回、そのうち 1 回は ISU 競技会でのフリーを含む
- シングル・スケーティングのショート・プログラムを 1 回
- シングル・スケーティングのフリー・スケーティングを 1 回
- ペア・スケーティングのショート・プログラムを 1 回
- ペア・スケーティングのフリー・スケーティングを 1 回

ペア・スケーティングでのジャッジ業務が不十分な場合技役員は、ペア・スケーティングに専念するジャッジのための ISU セミナーに、推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 36 ヶ月のうちに参加しなければならない。

- ・ アイス・ダンス：3 つの国際競技会（規定 411 第 9 項 b による）で業務に就き、そのうち 1 つのシニア競技と 1 つのジュニア競技を含む。ジャッジしたセグメントには下記のものが含まれなければならない：

- ショート・ダンスを 2 回、そのうち 1 回は ISU 競技会でのショートを含む
- フリー・ダンスを 2 回、そのうち 1 回は ISU 競技会でのフリーを含む

d) セミナー出席：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 48 ヶ月のうちに、ISU ジャッジの初指名のための ISU セミナーを受講修了していること（規定 417 を参照）。

e) 試験：ISU ジャッジになるための ISU 試験の筆記パートおよび実務パートに無事合格すること。ISU 試験の不合格パートを当該志願者は翌年の試験で再度受けなければならない。もし受けないと推薦状を再提出しなければならない。

4. ISU ジャッジとして毎年再指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：

a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳に達していないこと。

b) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 36 ヶ月のうちに、レフェリー、ジャ

ジャッジ、トライアル・ジャッジ、テクニカル・コントローラー、または OAC 委員を 1 つの国際競技会（規定 411 第 9 項 b による）において現地で務めること。

- c) セミナー出席：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 48 ヶ月のうちに、ISU ジャッジの初指名または再指名のための ISU セミナーを受講修了していること（規定 417 を参照）。
- d) 業務および/またはセミナー出席の要件を満たさない場合の結果は、規定 411 第 6 項に記載されている。

#### 規定 414 テクニカル・コントローラーの推薦および任命についての特別要件

1. 国際テクニカル・コントローラーとして初指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：
  - a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳に達していないこと。
  - b) 経歴：
    - i) 競技役員職を掲載している毎年の ISU コミュニケーションに、推薦直前に少なくともとも国際ジャッジとして 2 回連続で載ること。
    - ii) 技術面に関して当該競技の最高度の知識を有すること。
    - iii) 優れたコミュニケーション能力を有すること。
    - iv) チーム内で指示を受けて仕事ができること。
  - c) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 24 ヶ月のうちに、テクニカル・コントローラーを 2 つの国内競技会において務めること（規定 411 第 9 項 a による）。
  - d) セミナー出席：国際テクニカル・コントローラーの初指名のための ISU セミナーを受講修了すること（規定 417 を参照）。
  - e) 試験：国際テクニカル・コントローラーになるための ISU 試験に無事合格すること。
2. 国際テクニカル・コントローラーとして毎年再指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：
  - a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳に達していないこと。

b) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 24 ヶ月のうちに、テクニカル・コントローラーを 2 つの国際競技会（規定 411 第 9 項 b による）または国内競技会（規定 411 第 9 項 a による）において務めること。ペア・スケーティングで就いた業務はシングル・スケーティングにカウントされる。シングル・スケーティングで就いた業務はペア・スケーティングにはカウントされない。

c) セミナー出席：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 36 ヶ月のうちに、国際テクニカル・コントローラーの初指名または再指名のための ISU セミナーを受講修了していること（規定 417 を参照）。ペア・スケーティングのセミナー出席はシングル・スケーティングにもカウントされる。シングル・スケーティングのセミナー出席はペア・スケーティングにはカウントされない。

d) 業務および/またはセミナー出席の要件を満たさない場合の結果は、規定 411 第 6 項に記されている。

3. ISU テクニカル・コントローラーとして初指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：

a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳に達していないこと。

b) 経歴：

i) 競技役員職を掲載している毎年の ISU コミュニケーションに、推薦直前に ISU レフェリーまたは ISU ジャッジとして 2 回連続で載ること。

ii) 競技役員職を掲載している毎年の ISU コミュニケーションに、推薦直前に国際テクニカル・コントローラーとして 2 回連続で載ること。

iii) 技術面に関して当該競技の最高度の知識を有すること。

iv) 優れたコミュニケーション能力を有すること。

v) チーム内で指示を受けて仕事ができること。

c) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 24 ヶ月のうちに、テクニカル・コントローラーを 2 つの国際競技会（規定 411 第 9 項 b による）または国内競技会（規定 411 第 9 項 a による）において務めること。

d) セミナー出席：ISU テクニカル・コントローラーの初指名のための ISU セミナーを受

講修了すること（規定 417 を参照）。

e) 試験：ISU テクニカル・コントローラーになるための ISU 試験に無事合格すること。

4. ISU テクニカル・コントローラーとして毎年再指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：

- a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳に達していないこと。
- b) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 24 ヶ月のうちにシングル・スケートティングおよびアイス・ダンスについて、また 36 ヶ月のうちにペア・スケートティングについて、テクニカル・コントローラーを下記の競技会で務めること。
  - ・ 2 つの国際競技会（規定 411 第 9 項 b による）  
または
  - ・ 1 つの ISU 競技会および 1 つの国内競技会（規定 411 第 9 項 a による）

ペア・スケートティングで就いた業務はシングル・スケートティングに同様にカウントされる。シングル・スケートティングで就いた業務がペア・スケートティングにカウントされるのは、ペア・スケートティングにおいてレフェリー、ジャッジ、トライアル・ジャッジ、OAC 委員を現地で務めた場合、またはペア・スケートティングに専念する ISU セミナーの参加者が議長であった場合である。

- c) セミナー出席：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 36 ヶ月のうちに、ISU テクニカル・コントローラーの初指名または再指名のための ISU セミナーを受講修了していること（規定 417 を参照）。ペア・スケートティングのセミナー出席はシングル・スケートティングにもカウントされる。シングル・スケートティングのセミナー出席はペア・スケートティングにはカウントされない。
- d) 業務および/またはセミナー出席の要件を満たさない場合の結果は、規定 411 第 6 項に記されている。

#### 規定 415 テクニカル・スペシャリストの推薦および任命についての特別要件

1. 国際テクニカル・スペシャリストとして初指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：

- a) 年齢：24 歳に達しており、しかし推薦が行われる暦年で 70 歳に達していないこと。  
2016 年版にて「65 歳」から「70 歳」へ引き上げ。
- b) 経歴：
  - i) コーチ、元競技スケーター、ISU/国際ジャッジまたは ISU/国際レフェリーの中から

らの採用であること。

ii) 当該競技に現地で少なくとも週 1 回の頻度で関わること。

iii) 以前、ハイレベルのスケーターであったこと（少なくとも国レベル）。

iv) 技術面に関して当該競技の最高度の知識を有すること。

v) 優れたコミュニケーション能力を有すること。

vi) チーム内で指示を受けて仕事ができること。

c) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 24 ヶ月のうちに、テクニカル・スペシャリストを 2 つの国内競技会において務めること（規定 411 第 9 項 a による）。

d) セミナー出席：国際テクニカル・スペシャリストの初指名のための ISU セミナーを受講修了すること（規定 417 を参照）。

e) 試験：国際テクニカル・スペシャリストになるための ISU 試験に無事合格すること。

f) 現役のスケート競技生活の終わりとテクニカル・スペシャリストへの初指名との間に、少なくとも 2 シーズンの待機期間を置かなければいけない。

2. 国際テクニカル・スペシャリストとして毎年再指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：

a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳 に達していないこと。

2016 年版にて「65 歳」から「70 歳」へ引き上げ。

b) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 24 ヶ月のうちに、テクニカル・スペシャリストを 2 つの国際競技会（規定 411 第 9 項 b による）または国内競技会（規定 411 第 9 項 a による）において務めること。ペア・スケートティングで就いた業務はシングル・スケートティングにカウントされる。シングル・スケートティングで就いた業務はペア・スケートティングにはカウントされない。

c) セミナー出席：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 36 ヶ月のうちに、国際テクニカル・スペシャリストの初指名または再指名のための ISU セミナーを受講修了していること（規定 417 を参照）。ペア・スケートティングのセミナー出席はシングル・スケ

ーディングにもカウントされる。シングル・スケーティングのセミナー出席はペア・スケーティングにはカウントされない。

- d) 業務および/またはセミナー出席の要件を満たさない場合の結果は、規定 411 第 6 項に記されている。

3. ISU テクニカル・スペシャリストとして初指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：

- a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳に達していないこと。

2016 年版にて「65 歳」から「70 歳」へ引き上げ。

- b) 経歴：

- i) 競技役員職を掲載している毎年の ISU コミュニケーションに、推薦直前に国際テクニカル・スペシャリストとして 2 回連続で載ること。

- ii) コーチ、元競技スケーター、ISU/国際ジャッジまたは ISU/国際レフェリーの中からの採用であること。

- iii) 少なくとも週 1 回の頻度で当該競技に現地で関わること。

- iv) 以前、ハイレベルのスケーターであったこと（少なくとも国レベル）。

- v) 技術面に関して当該競技の最高度の知識を有すること。

- vi) 優れたコミュニケーション能力を有すること。

- vii) チーム内で指示を受けて仕事ができること。

- c) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 24 ヶ月のうちに、テクニカル・スペシャリストを 2 つの国内競技会（規定 411 第 9 項 a による）または国際競技会（規定 411 第 9 項 b による）において務めること。

- d) セミナー出席：ISU テクニカル・スペシャリストの初指名のための ISU セミナーを受講修了すること（規定 417 を参照）。

- e) 試験：ISU テクニカル・スペシャリストになるための ISU 試験に無事合格すること。



4. ISU テクニカル・スペシャリストとして毎年再指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：

a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳に達していないこと。

2016 年版にて「65 歳」から「70 歳」へ引き上げ。

b) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 24 ヶ月のうちに下記の競技会でテクニカル・スペシャリストを務めること。

・ 2 つの国際競技会（規定 411 第 9 項 b による）

または

・ 1 つの ISU 競技会および 1 つの国内競技会（規定 411 第 9 項 a による）

ペア・スケーティングで就いた業務はシングル・スケーティングにカウントされる。

シングル・スケーティングで就いた業務はペア・スケーティングにカウントされない。

c) セミナー出席：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 36 ヶ月のうちに、ISU テクニカル・スペシャリストの初指名または再指名のための ISU セミナーを受講修了していること（規定 417 を参照）。ペア・スケーティングのセミナー出席はシングル・スケーティングにもカウントされる。シングル・スケーティングのセミナー出席はペア・スケーティングにはカウントされない。

d) 業務および/またはセミナー出席の要件を満たさない場合は、規定 411 第 6 項に記されている。

#### 規定 416 データ&リプレイ・オペレーターの推薦および任命についての特別要件

1. 国際データ&リプレイ・オペレーターとして初指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：

a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳に達していないこと。

2016 年版にて「65 歳」から「70 歳」へ引き上げ。

b) 経歴：

i) コーチ、元競技スケーター、ISU/国際ジャッジ、ISU/国際レフェリー、またはフィギュア・スケートに何らかの立場に関わりデータ操作やビデオシステムについて優れた知識を有する人の中からの採用であること。

ii) 技術面に関して当該競技の優れた知識を有すること。

iii) 優れたコミュニケーション能力を有すること。

- iv) チーム内で指示を受けて仕事ができること。
- c) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 24 ヶ月のうちに、データ操作およびビデオシステムの業務に国レベルで就くこと。
- d) セミナー出席：データ&リプレイ・オペレーター向けの ISU セミナーを受講修了し（規定 417 を参照）、ISU フィギュア・スケート副会長より「国際」資格認定のための推薦を受けること。
2. 国際データ&リプレイ・オペレーターとして毎年再指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：
- a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳 に達していないこと。  
2016 年版にて「65 歳」から「70 歳」へ引き上げ。
- b) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 24 ヶ月のうちに、データ・オペレーターとリプレイ・オペレーターのどちらの役割も、2 つの国際競技会（規定 411 第 9 項 b による）または国内競技会（規定 411 第 9 項 a による）で務めること。どの競技における業務であってもカウントされる。データ&リプレイ・オペレーター向けの ISU セミナーで議長を務める場合、データ・オペレーターとリプレイ・オペレーターのどちらの役割も務めるものとみなされる。
- c) 業務および/またはセミナー出席の要件を満たさない場合の結果は、規定 411 第 6 項に記されている。
3. ISU データ&リプレイ・オペレーターとして初指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：
- a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳 に達していないこと。  
2016 年版にて「65 歳」から「70 歳」へ引き上げ。
- b) 経歴：
- i) コーチ、元競技スケーター、ISU/国際ジャッジ、ISU/国際レフェリー、またはフィギュア・スケートに何らかの立場に関わりデータ操作やビデオシステムについて優れた知識を有する人の中からの採用であること。
- ii) 技術面に関して当該競技の優れた知識を有すること。

- iii) 優れたコミュニケーション能力を有すること。
  - iv) チーム内で指示を受けて仕事ができること。
  - c) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 24 ヶ月のうちに、データ操作およびビデオシステムの業務に国レベルで就くこと。
  - d) セミナー出席：データ&リプレイ・オペレーター向けの ISU セミナーを受講修了し（規定 417 を参照）、ISU フィギュア・スケート副会長より「ISU」資格認定のための推薦を受けること。
4. ISU データ&リプレイ・オペレーターとして毎年再指名されるためには、競技役員は下記の要件を満たさなければならない：
- a) 年齢：推薦が行われる暦年で 70 歳 に達していないこと。  
2016 年版にて「65 歳」から「70 歳」へ引き上げ。
  - b) 業務：推薦が行われる暦年の 7 月 31 日より前の 24 ヶ月のうちに、データ・オペレーターとリプレイ・オペレーターのどちらの役割も下記の競技会で務めること：
    - ・ 2 つの国際競技会（規定 411 第 9 項 b による）  
または
    - ・ 1 つの ISU 競技会および 1 つの国内競技会（規定 411 第 9 項 a による）どの競技における業務であってもカウントされる。データ&リプレイ・オペレーター向けの ISU セミナーで議長を務める場合は、データ・オペレーターとリプレイ・オペレーターのどちらの役割も務めるものとみなされる。
  - c) 業務および/またはセミナー出席の要件を満たさない場合の結果は、規定 411 第 6 項に記されている。

#### 規定 417 競技役員向け ISU セミナー

1. ISU メンバーは ISU ジャッジの初指名、国際および ISU ジャッジの再指名、国際および ISU レフェリーの再指名という目的をカバーする ISU セミナーに申し込むことを義務付けられており、必要な場合は、単独または他の ISU メンバーと共同でセミナーを主催しなければならない。そうした ISU セミナー主催の申請は、主催の ISU メンバーが当該技術委員会の議長宛ての写しを付して ISU 事務局長に 1 月 1 日までに行わなければならない。
2. 競技役員向け ISU セミナーの日時および場所、またセミナー出席要件に関する目的は ISU

コミュニケーションにおいて発表される。

3. 競技役員向け ISU セミナーの受講修了申し込みは、次のとおり行うことができる：
  - a) 初指名のための ISU セミナー：当該競技役員の ISU メンバーによる申し込み（テクニカル・スペシャリストは当該技術委員会またはスポーツ・ディレクターによる申し込み）
  - b) 再指名のための ISU セミナー：
    - i) 国際競技役員：当該競技役員の ISU メンバーによる申し込み
    - ii) ISU 競技役員：当該競技役員の ISU メンバーまたは当該競技役員自身による申し込み
4. テクニカル・コントローラーまたはテクニカル・スペシャリスト向けの ISU セミナーに参加する、および/もしくは、テクニカル・コントローラーまたはテクニカル・スペシャリストになるための ISU 試験に参加する競技役員の推薦状は、当該技術委員会がまず確認し、それから ISU フィギュア・スケート副会長に最終確認のため提出する必要がある。
5. ISU 選手権または冬季オリンピック大会のレフェリーとしての活動を、再指名のための ISU セミナーとみなすには、次のことが必要である：
  - 当該技術委員会の議長または委員と一緒に行うイニシャル・ジャッジス・ミーティング
  - こうした選手権のためのレフェリーとしての活動を、当該技術委員会が良しとする

2016 年版にて 5 を追加。
6. ISU 選手権または冬季オリンピック大会のイニシャル・ジャッジス・ミーティング（当該技術委員会の議長または委員が行う場合）およびラウンド・テーブル・ディスカッション〔に参加すること\*〕は、ジャッジの再指名のための ISU セミナー〔の出席要件を満たすこと\*〕になる。

〔\* 訳注：鍵括弧内に相当する語句は原文には存在しないが、そのままでは意味が分かりにくいため、後述の 7 項を参考にして追加したものである。〕
7. ISU フィギュア・スケート・グランプリ・ファイナル（ジュニアおよびシニアを兼ねる）、ISU 選手権、または冬季オリンピック大会で、テクニカル・コントローラー（それと別にテクニカル・スペシャリスト）を小セミナー：
  - イニシャル・テクニカル・パネル・ミーティングの中で、当該技術委員会の議長または委員、およびスポーツ・ディレクターが小セミナーを行う。

- ・ 業務に就くテクニカル・コントローラーがスポーツ・ディレクターと現地で共同作成したレポートで小セミナーを締めくくり、彼らのレポートを添付する（規定 433 第 2 項を参照）。

付きで務めることは、務める競技におけるテクニカル・コントローラー（それと別にテクニカル・スペシャリスト）の再指名のための ISU セミナー〔の出席要件を満たすこと\*〕になる。

[\* 訳注：鍵括弧内に相当する語句は原文には存在しないが、そのままでは意味が分かりにくいいため、後述の 7 項を参考にして追加したものである。]

8. レフェリー、ジャッジ、テクニカル・コントローラーまたはテクニカル・スペシャリストの各資格における競技役員向け ISU セミナーで議長を務めることは、当該資格での再指名のための ISU セミナー出席要件を満たすことになる。

**規定 418-419（留保）**

## B. 競技会への競技役員任命

### 規定 420 国際競技会への競技役員任命（一般）

1. 規定 121 第 2 項により、国際競技会を開催する ISU メンバーは競技役員を任命する権利を有するが、次のものは除く：
  - ISU 選手権：規定 421、521 を参照
  - その他の ISU 競技会：ISU 規約第 16 条第 2 項 f) を参照
  - 冬季オリンピック大会およびオリンピック大会予選：規定 401、402 を参照
2. ISU 会長による競技役員任命は ISU 規約の第 16 条第 2 項 f) に従って行われる。
3. 下記の競技役員を推薦する：
  - a) レフェリー
  - b) 可能であれば少なくとも 5 名、そして多くとも 9 名のパネル
  - c) テクニカル・コントローラー
  - d) テクニカル・スペシャリスト
  - e) アシスタント・テクニカル・スペシャリスト
  - f) データ・オペレーター
  - g) リプレイ・オペレーター
4. 国際競技会で実際に業務に就くレフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーターの名前、そしてまた推薦されたものの選出されなかったジャッジの名前は、競技会終了後 2 週間以内に主催の ISU メンバーが ISU 事務局に通知しなければならない。
5. a) ISU 競技会、オリンピック大会予選、冬季オリンピック大会すべてについて、レフェリー、テクニカル・コントローラー、およびテクニカル・スペシャリストを同一 ISU メンバーから起用してはならず、なおかつ全員が指名された ISU でなければならない。  
**2016 年版にて、同一メンバーからの起用を「なるべく起用してはならない」から「起用してはならない」に厳格化。**
  - b) その他のすべての国際競技会について、なるべくテクニカル・コントローラーおよびテクニカル・スペシャリストを同一 ISU メンバーから起用してはならず、なおかつ全員が指名された ISU でなければならない。酌量すべき事情での例外として、ホスト ISU メンバーからの国内テクニカル・スペシャリスト 1 名または国内データ・オペレーターかリプレイ・オペレーター 1 名をアシスタント・テクニカル・スペシャリストまたはデータ・オペレーターかリプレイ・オペレーターに起用してもよい。この場合、当

該アシスタント・テクニカル・スペシャリストまたはデータ・オペレーターかリプレイ・オペレーターは自身の所属する ISU メンバーとして指名されなければならない。

2016 年版にて下線部を追加。

c) ISU 選手権資格認定に考慮されるためのあらゆる国際競技会の結果について、またはワールド・スタンディングスあるいは世界ランキングについて、次の条件を満たさなければならない：

i) テクニカル・コントローラーおよびテクニカル・スペシャリストを同一 ISU メンバーから起用してはならない。また、

ii) 少なくとも 5 名のジャッジから成るパネルが必要であり、どのパネルでもジャッジの大多数を ISU メンバーが占めることはできない。

2016 年版にて c を追加。

一般規則の規定 121 も参照のこと。

6. 国際競技会を主催する ISU メンバーは、ジャッジ・パネルの代表をできるだけ多くの参加 ISU メンバーから得るために、ジャッジ・パネル構成に最善を尽くさなければならない。しかし ISU メンバーはどのパネルにおいてもジャッジの過半数を占めることはできない。酌量すべき事情での例外として、現在のジャッジの人数がパネルを構成するに足りない場合は、ISU ジャッジング・システムの使用を学んでいることを条件にホスト ISU メンバーから国内ジャッジ 1 名を起用してもよい。

7. シングル&ペア・スケーティング種目も含む国際競技会のアイス・ダンス種目のジャッジ・パネル構成においては、アイス・ダンスで業務に就く資格のみを有するジャッジを第一に考慮しなければならない。

8. a) シニアおよびジュニアの ISU フィギュア・スケート・グランプリ・ファイナル、および冬季オリンピック大会予選について、ジャッジ抽選は現地で行われる。

b) 冬季オリンピック大会予選のパネルを構成する際は、可能であれば種目にスケーター/カップルを出場させている ISU メンバーを優先すべきである。

#### 規定 421 ISU 選手権への競技役員任命（特別規程）

1. レフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、アシスタント・テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーター、および OAC 委員を一般規則の規定 121 および規定 129 第 4 項に従って任命することとする。

2. 主催の ISU メンバーはシングル&ペア・スケーティングについては自らのレフェリー/テクニカル・コントローラー/テクニカル・スペシャリスト 2 名以下、またアイス・ダンスについては自らのレフェリー/テクニカル・コントローラー/テクニカル・スペシャリスト 1 名が、ISU 職員でもある者も含め、業務に就くことを推奨してもよい。そうした推奨があれば各スポーツ・ディレクターに 5 月 1 日までに申し出なければならない。
3. 選出されたレフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーター、および OAC 委員は、選手権開始の 60 日前までに主催の ISU メンバーより連絡を受けなければならない。
4. ISU 選手権の組織委員会委員は、レフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーター、OAC 委員、またはジャッジを当該選手権で務めてはならない。
5. ジャッジ・パネルの構成については規定 521 が適用となる。

**規定 422 冬季オリンピック大会への競技役員任命（特別規程）**

規定 401 および規定 402 が適用となる。

**規定 423-429（留保）**

SINGLE & PAIR  
SKATING  
and  
ICE DANCE  
2016



## C. 競技役員の職務および権限

### 規定 430 一般のおよび特別な職務および権限

#### 一般

- a) ISU が認可した別の競技会にて職務を行うことができる競技役員カテゴリー（「ISU」または「国際」）、および関連規制事項は、一般規則の規定 121 に記されている。
- b) 各競技（シングル&ペア・スケーティングまたはアイス・ダンス）の ISU 競技役員は、各競技で同じ役割の国際競技役員を務める権利を自動的に有する。
- c) 各競技（シングル&ペア・スケーティングまたはアイス・ダンス）の ISU レフェリーは、各競技の ISU ジャッジまたは国際ジャッジを務める権利を自動的に有する。
- d) 各競技（シングル&ペア・スケーティングまたはアイス・ダンス）の国際レフェリーは、各競技の国際ジャッジを務める権利を自動的に有する。
- e) 競技役員は ISU 倫理規程を十分順守しなければならない。
- f) 競技役員は：
  - 現行の一般規則、特別規則および技術規程、ISU コミュニケーション、マニュアル、ハンドブック、小冊子、および ISU ウェブサイトに発表されるすべての最新情報における、彼らの職務遂行に関するあらゆる事項を常に十分に把握しておかなければならない。
  - 職務遂行のために視力、聴力、および全身的な身体状態が基準を満たしていなければならない。
  - ISU が任命した競技役員として、裁量を持って行動しなければならない。
  - いかなる立場であれ、どの選手にも好意または反感を示してはならない。
  - いつでも完全に中立公平でなければならない。
  - 採点および判定を演技のみに基づいて行わなければならない、評判または過去の成績に影響されてはならない。
  - 世間の賞賛または非難を無視しなければならない。

- 競技会中に自身および他の競技役員が行う採点または判定について、レフェリー以外の者と議論してはならず、また/あるいはテクニカル・パネルの構成員のみが、業務に就いている競技の他のテクニカル・パネル構成員と議論することができる。
- テレビ解説を務めてはならず、自身が業務に就いている競技会の一員のレフェリーを通じてでなければメディア、テレビ、またはその他のものとの連絡に携わってはならない。
- いかなる形態の電子通信システムもパネル席に持ち込んではいない。

## 1. レフェリーの職務および権限

- ISU イベント・コーディネーターがいなければ、あらゆる資格規定、ISU 認証の順守を確認し、計算手順の正確性を検証する。
- 医療アドバイザー/競技会医師とともに、金属または硬質プラスチックを含むあらゆる医療器具を競技会に先立って承認する（規定 141 第 2 項を参照）。
- 滑走順、および（アイス・ダンスに限り）パターン・ダンスの抽選すべてを行う。
- ジャッジ・パネルを管理し（ジャッジ・パネルがジャッジ席にいる間、あらかじめ付けておいたスコアからのメモやあらゆる形態の電子通信を持ち込んでいないこと、互いに会話をしたり動作や音で間違いを指摘したりしていないこと、横に座っているジャッジの入力した点数を見ていないことを確認することを含めて）、競技役員の実務責任ある代表者として必要に応じて行動する。
- イニシャル・ジャッジ・ミーティング（規定 431 を参照）、および種目の各セグメント前に ISU ガイドラインに従いジャッジとのミーティングを行う。
- ウォームアップ時間の順守を規定 514 により確認する。
- 選手が開始の姿勢を取るまでに要する時間を計り、その後生じ得る棄権または減点を決定する（規定 350 を参照）。
- 規定 515 により、開始遅れまたは再開に関する必要な措置を取るが、選手の音楽の停止または再開を音楽担当者に指示することも含まれる。
- 種目開催可能な氷のコンディションかどうかを決定する。

- 当該種目についてのあらゆる異議に判断を下す。
- 好ましくない状況が生じた場合に、氷面の形状およびサイズを変更する。
- 主催の ISU メンバーまたは加盟クラブに同意して、種目開催用に別のリンクを承認する。
- タイムキーパーを起用して、滑走プログラム、生じ得る中断（規定 503 および規定 515 を参照）、ダンス・リフト（アイス・ダンスのみ、2 人目のタイムキーパーを起用）の時間を計る。
- カップルが選んだパターン・ダンス音楽のテンポ、およびショート・ダンスの特定部分のテンポを測る（該当する場合）（アイス・ダンスのみ）。
- 規定 353 第 1 項 n) に従い下記の違反に対して減点を決定する：プログラム時間、プログラム演技の中断、中断時点から再開する許容を含んでのプログラム中断、衣装/装飾の一部の氷上への落下、ダンス・リフトの許容時間超過（アイス・ダンスのみ）、およびテンポ指定（アイス・ダンスのみ）。
- ジャッジ・パネルとともに、規定 353 第 1 項 n) に従い下記の要件または制限事項の違反に対して減点を決定する：衣装/小道具、振り付けおよび（アイス・ダンスに限り）音楽。そうした減点は、ジャッジ全員およびレフェリーを含めたパネルの過半数の意見に従って適用となる。50:50 に票が割れた場合は減点を行わない。
- 全種目をジャッジする。
- 観客が競技会を中断したり秩序ある運営を妨げたりする場合、秩序が回復するまで滑走を一時中断する。
- 必要に応じて選手を種目に参加させない。
- 必要に応じ、また重要かつ正当な理由に基づき、ジャッジをパネルから解任する。
- 競技会中のいかなる時も、競技会が行われているリンクの氷面のどの部分にもコーチが立つことを禁じる。
- ISU 規約または規則の違反に関するあらゆる問題に判断を下す。

- 表彰式に参加する。
- ラウンド・テーブル・ディスカッションの議長を ISU ガイドラインに従って務める（規定 431 を参照）。
- 種目についてのレポートを ISU ガイドラインに従って作成する（規定 433 を参照）。

## 2. ジャッジの職務

- 全範囲の出来栄え点の数値、および演技構成の点数を用いる。
- 単独で採点し、ジャッジング中は他のジャッジと会話をしたり動作や音で間違いを指摘したりしない。
- あらかじめ用意しておいた点数を使用しない。
- レフェリーとともに、規定 353 第 1 項 n) に従い下記の要件または制限事項の違反に対して減点を決定する：衣装/小道具、振り付けおよび（アイス・ダンスに限り）音楽。  
そうした減点は、ジャッジ全員およびレフェリーを含めたパネルの過半数の意見に従って適用となる。50:50 に票が割れた場合は減点を行わない。
- イニシャル・ジャッジス・ミーティング（規定 431 を参照）、および種目の各セグメント前に ISU ガイドラインに従いレフェリーが主催するミーティングに出席する。
- ISU ガイドラインに従いレフェリーが議長を務めるラウンド・テーブル・ディスカッションに出席する（規定 431 を参照）。

## 3. テクニカル・コントローラーの職務および権限

- 要素の欠落を認定または訂正する。
- テクニカル・スペシャリストおよびデータ・オペレーターを監督し、業務に就くテクニカル・スペシャリストおよびアシスタント・テクニカル・スペシャリストが特定する演技要素および難度レベル（=Level of Difficulty、LOD）について必要があれば訂正を促す。しかし、テクニカル・コントローラーが求める訂正に両テクニカル・スペシャリストが同意しない場合は、テクニカル・スペシャリストおよびアシスタント・テクニカル・スペシャリストが最初に下した判定が有効である。要素および/または難度レベルについてテクニカル・スペシャリストとアシスタント・テクニカル・スペシャリストとの間に意見の相違がある場合、テクニカル・コントローラーが下す判定が有効である。

テクニカル・コントローラーは、前述の手順に従って特定された演技要素および難度レベルをデータ・オペレーターがシステムに正しく取り込んでいるかどうか検証する責任があり、その演技要素および難度レベルが正当であると認められるのはそうした検証が完了したことをテクニカル・コントローラーが正式に追認した場合に限られる。

- 違反となる要素/動作の特定を、認定または訂正する。
  - パターン・ダンスにおけるイントロおよびエンディングのステップ/動作を含め、プログラムのあらゆる箇所での転倒の特定を、認定または訂正する。しかし、テクニカル・コントローラーが違反となる要素/動作または転倒について求める訂正に両テクニカル・スペシャリストが同意しない場合は、テクニカル・スペシャリストおよびアシスタント・テクニカル・スペシャリストが最初に下した判定が有効である。
  - 必要な準備を行うため、競技会の十分な実践的セッションに出席する。
  - イニシャル・テクニカル・パネル・ミーティング（規定 432 を参照）、また種目の各セグメント前に ISU ガイドラインに従いテクニカル・スペシャリストおよびデータ&リプレイ・オペレーターとのミーティングを行う。
  - ISU ガイドラインに従いテクニカル・パネル・ディスカッションの議長を務める（規定 432 を参照）。
  - 可能であれば、ISU ガイドラインに従いレフェリーがラウンド・テーブル・ディスカッションで議長を務める手助けをする（規定 431 を参照）。
  - ISU ガイドラインに従い種目についてのレポートを作成する（規定 433 を参照）。
  - 表彰式に参加する。
4. レフェリーとテクニカル・コントローラーとのコミュニケーション  
可能であれば、競技会中にレフェリーとテクニカル・コントローラーとの直接的なコミュニケーションがあるべきである。  
[2016 年版にて 4 を追加。](#)
5. **テクニカル・スペシャリスト/アシスタント・テクニカル・スペシャリストの職務**  
**テクニカル・スペシャリスト**
- 演技要素を特定およびコールする。

- 演技要素の正確な難度レベルを特定およびコールする。
- 違反となる要素/動作を特定する。
- パターン・ダンスにおけるイントロおよびエンディングのステップ/動作を含め、プログラムのあらゆる箇所での転倒を特定する。
- 余分な要素を特定および削除する。

アシスタント・テクニカル・スペシャリストも、テクニカル・コントローラーの職務で概説したとおり、意思決定プロセスの一員である。

#### テクニカル・スペシャリストおよびアシスタント・テクニカル・スペシャリスト

- 必要な準備を行うため、競技会の十分な実践的セッションに出席する。
- イニシャル・テクニカル・パネル・ミーティング（規定 432 を参照）、および種目の各セグメント前に ISU ガイドラインに従いテクニカル・コントローラーが主催するミーティングに出席する。
- ISU ガイドラインに従いテクニカル・コントローラーが議長を務めるテクニカル・パネル・ディスカッションに出席する（規定 432 を参照）。

### 6. データ&リプレイ・オペレーターの職務

#### データ・オペレーター

- コールされた要素を入力する。
- コールされた要素の難度レベルを入力する。
- テクニカル・コントローラーの指示どおりに要素または難度レベルを訂正する。
- コンピュータで特定した余分な要素をテクニカル・スペシャリストおよびテクニカル・コントローラーに示す。

#### リプレイ・オペレーター

- テクニカル・パネル、レフェリー、およびジャッジが必要に応じて要素を見直すことができるよう、各要素を別々に記録する。

## データ&リプレイ・オペレーター

- テクニカル・スペシャリストおよびテクニカル・コントローラーをサポートする。
- イニシャル・テクニカル・パネル・ミーティング（規定 432 を参照）、および種目の各セグメント前に ISU ガイドラインに従いテクニカル・コントローラーが主催するミーティングに出席する。
- 可能であれば、ISU ガイドラインに従いテクニカル・コントローラーが議長を務めるテクニカル・パネル・ディスカッションに出席する（規定 432 を参照）。

## 規定 431 レフェリーおよびジャッジ向けの、競技会でのミーティング

### 1. イニシャル・ジャッジス・ミーティング

国際競技会、ISU 選手権、および冬季オリンピック大会のジャッジは、競技会開始前に開催される、当該技術委員会の議長または委員が議長を務めるクローズド・ミーティング（イニシャル・ジャッジス・ミーティング）に出席必須であり、もしあればレフェリーも、また可能であればテクニカル・コントローラーも出席すること。議長はジャッジの職務に関する規定や、シングル・スケーティング、ペア・スケーティング、またはアイス・ダンスの採点に関する規定をジャッジに簡潔に伝えなければならないが、発表されている規定における、またはそれらの解釈や説明における変更点に特段の注意を払うこと。

ISU 選手権および冬季オリンピック大会では、規定 417 第 6 項の目的上、当該技術委員会の議長または委員が当該ミーティングでの議長を務めなければならない。

### 2. ラウンド・テーブル・ディスカッション

国際競技会、ISU 選手権、および冬季オリンピック大会のジャッジは、各競技の終了後早急に、しかし当該競技の翌日までに開催されるクローズド・ミーティング（ラウンド・テーブル・ディスカッション）にレフェリーとともに出席必須であり、可能であればテクニカル・コントローラーも出席すること。

レフェリーは競技会からのビデオをラウンド・テーブル・ディスカッションに含めなければならない。これはすべての国際競技会および ISU 競技会において必須である。

2016 年版にて下線部を追加。

ジャッジ間でのフィードバック目的、および将来的なジャッジング・ガイドラインのために ISU を補佐する合意に至るという目的を持って、ミーティングでは下記の議題を論じる：

- スケーティングの全般的な質
- 選抜スケーターの要素および各演技構成に対する点数範囲、ただし基準を満たしたとする点の範囲は定めず（これは、競技役員評価委員会が ISU 評議会規定の手順に沿

って定める)

- 現行規則の適用および妥当性
- 採点ガイド、設備、印刷物、および内外の情報の流れについての改善可能点

ディスカッション中、ジャッジは自由に意見を述べてよい。ディスカッションを、当該競技をジャッジする個人の批判の場としてはならない。

#### **規定 432 テクニカル・パネル向けの、競技会でのミーティング**

##### **1. イニシャル・テクニカル・パネル・ミーティング**

国際競技会、ISU 選手権、および冬季オリンピック大会のテクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、およびデータ&リプレイ・オペレーターは、競技会開始前に開催される、テクニカル・コントローラーが議長を務めるクローズド・ミーティング（イニシャル・テクニカル・パネル・ミーティング）に出席しなければならない。議長はテクニカル・パネルの職務に関する規定や職業規定を競技役員に簡潔に伝えなければならないが、発表されている職業規定における、またはそれらの解釈や説明における変更点に特段の注意を払うこと。

ISU 選手権、冬季オリンピック大会、および ISU フィギュア・スケート・グランプリ・ファイナル（ジュニアおよびシニアを兼ねる）では、規定 417 第 7 項の目的上、当該技術委員会の議長または委員ならびにスポーツ・ディレクターが当該ミーティングでの議長を務めなければならない。

##### **2. テクニカル・パネル・ディスカッション**

国際競技会、ISU 選手権、および冬季オリンピック大会のテクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、また可能であればデータ&リプレイ・オペレーターは、各競技の終了後早急に、しかし当該競技の翌日までに開催される、テクニカル・コントローラーが議長を務めるクローズド・ミーティング（テクニカル・パネル・ディスカッション）に出席しなければならない。

競技役員間でのフィードバック目的、および将来的なガイドラインのために ISU を補佐する合意に至るという目的を持って、ミーティングでは下記の議題を論じる：

- チームワーク評価
- 業務評価
- 困難な意思決定
- 職業規定、設備、印刷物、および内外の情報の流れについての改善可能点

#### **規定 433 レポート**



1. レフェリーは標準書式で競技会（ベーシック・ノービス国際競技会は除く）のレポートを作成することとし、その中で下記領域を明確にする：

- 組織基準
- 各セグメントのスケートティング基準
- ジャッジング基準、  
規定とその適用に対する自身の理解についての各ジャッジの伝達力
- ラウンド・テーブル・ディスカッションの要旨
- 付記（必要に応じて）
- 改善提案
- 計算手順の正確性（ISU 競技会は除く）
- 棄権についての記述

競技会のカテゴリーが国際競技会の要件、すなわち 1 団体を超える ISU メンバーの参加を満たす場合のみ、レポートを書かなければならない。そうでない場合、レフェリーは ISU 事務局に知らせなければならない。

2016 年版にて下線部を追加。

2. テクニカル・コントローラーは標準書式で競技会（ベーシック・ノービス国際競技会は除く）のレポートを作成することとし、その中で下記領域を明確にする：

- チームワーク評価
- テクニカル・スペシャリストの作業評価
- アシスタント・テクニカル・スペシャリストの作業評価
- データ・オペレーターの作業評価
- リプレイ・オペレーターの作業評価
- テクニカル・パネル・ディスカッションの要旨
- 付記（必要に応じて）
- 改善提案

3. レフェリーおよびテクニカル・コントローラーは各レポートを競技会後 14 日以内に ISU 事務局に送付することとする。ISU 事務局はそのレポートの写しを下記の者に早急に送付することとする：

- a) 当該技術委員会の議長および委員
- b) 各スポーツ・ディレクター

規定 434-439（留保）

## D. 競技役員の業務についての評価

### 規定 440

#### 1. 競技役員評価委員会

- a) 競技役員評価委員会 (=Officials Assessment Commission、OAC) の構成および職務は、規約第 23 条、および ISU コミュニケーションに発表される手順の関連規定に定められている。
- b) ISU 選手権および冬季オリンピック大会については、OAC 委員 2 名が各競技（シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンス）について ISU 会長より規約第 16 条第 2 項 f) のとおり任命されることとする。可能であれば現地で、各競技会の終了後直ちに、彼らは関連ある評価を開始することとする。
- c) その他のすべての ISU 競技会については、OAC 委員 2 名が各競技（シングル&ペア・スケーティングおよびアイス・ダンス）について ISU 会長より規約第 16 条第 2 項 f) のとおり任命されることとする。各自の自宅で、彼らは関連ある評価を早急に開始することとする。

#### 2. ISU 競技会（および冬季オリンピック大会、冬季ユースオリンピック大会、オリンピック・フィギュア・スケート予選）でのジャッジ・スコアにおける異常についての評価

- a) OAC 委員は（規約第 23 条、および ISU コミュニケーションに発表される手順の関連規定のとおり）ジャッジ・スコアに異常がないかどうかの確認を含めて各競技会のレポートを作成することとするが、OAC 委員によれば、その異常はアセスメントを是認する誤差であるとみなされなければならない。このレポートを、ISU 事務局を通じて当該技術委員会が直ちに利用できるようにすることとする。
- b) 当該技術委員会は ISU 事務局への OAC レポートおよび追加レポートの評価を早急に開始することとする。アセスメントを是認する誤差という決定に技術委員会が反対する場合は、合意に至るよう OAC 委員に相談しなければならない。異論が勝る場合は、未解決の事案に各スポーツ・ディレクターが最終判断を下す。

#### 3. ISU 競技会（および冬季オリンピック大会、冬季ユースオリンピック大会、オリンピック・フィギュア・スケート予選）でテクニカル・パネルが下した判定、レフェリーが下した判定/レフェリーの競技会運営についての評価

- a) もし：
  - 競技会（現地または現地外）へ任命された OAC 委員、および/または
  - ISU 会長、および/または

- ISU 評議会、および/または
- 各スポーツ・ディレクター、および/または
- 当該技術委員会、および/または
- テクニカル・パネルの判定についてのみ：ジャッジス・ラウンド・テーブル・ディスカッションの結果、業務に就いているレフェリー（差異に気付いたジャッジまたはレフェリー）

が、レフェリーまたはテクニカル・パネル（テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、およびデータ&リプレイ・オペレーター）の下した判定、またはレフェリーの競技会運営でもってアセスメントを是認できると考える場合は、彼らはこの特定された潜在的な誤判断または誤った競技会運営を適用可能な規定を用いて筋道立てて詳細に概説したレポートを、フィギュア・スケート副会長に提出することとする。

- b) 受理に際してフィギュア・スケート副会長は、当該技術委員会に通知することとし、またフィギュア・スケート副会長が選出した 4 名の競技役員それぞれにレポートを、該当する場合は関連するビデオ記録と併せて送付することとするが、それは彼らに自宅で再考察してもらうためである。選出された各競技役員は、他に選出された競技役員が誰なのかを知らされることはない。選出された競技役員は全員、異なる ISU メンバーの出身でなければならない、また次のとおりであることとする：
  - (i) テクニカル・パネルについて：ISU テクニカル・コントローラー 1 名または 2 名、  
 および ISU テクニカル・スペシャリスト 1 名または 2 名  
 レフェリーについて：ISU レフェリー 3 名  
 当該スケーターおよび競技役員と異なる ISU メンバーの出身
  - (ii) 当該スケーターおよび競技役員と異なる ISU メンバーの出身の、各競技の ISU 技術委員会委員 1 名。当該技術委員会委員がその評価を受ける場合、選出された競技役員の中に技術委員会委員が 1 人も含まれてはならず、上項の i) のとおり 2 人目のテクニカル・コントローラーまたはテクニカル・スペシャリストを（それぞれ 4 人目の ISU レフェリーが）代わりに就かせることとする。
- c) 選出された競技役員は、アセスメントを是認するかどうかの結論をお互い別々にフィギュア・スケート副会長に送ることとする。当該競技役員へのアセスメント発表については、アセスメントが是認されていることを、少なくとも 2 名の選出された競技役員が確認しなければならない。
- d) テクニカル・パネルが関わるアセスメントが是認される場合にフィギュア・スケート副会長は、テクニカル・パネル・ディスカッションの録音も含めてビデオ記録を確認する

こととするが、それはそうした決定がテクニカル・パネルの多数決による判定または全員一致でない判定としてなされたものか、それともデータ・オペレーターまたはプレイ・オペレーターの誤操作によるものかを明らかにするためである。

- e) 該当する場合、フィギュア・スケート副会長は、ISU 評議会に詳細なレポートを提出することとし、評議会はアセスメントについて最終判断を下す。

#### 4. レフェリーのレポートおよびテクニカル・コントローラーのレポートについての評価

- a) 当該技術委員会はレフェリーのレポートおよびテクニカル・コントローラーのレポートの質を届いた文書に基づいて、規定 433 のとおり、非常に良い、良い、可/普通、平均以下、または悪いのいずれかで評価することとする。これらの詳細を当該レフェリーおよびテクニカル・コントローラーの記録に追加することとする。
- b) レポート提出遅れや不備のあるレポートの提出に関する容認不可な行為をレフェリーまたはテクニカル・コントローラーが行うと、当該技術委員会によるアセスメントの対象となる。

#### 5. 必須の出席についての評価

十分な実践的セッションを欠席することに関する容認不可な行為、規定 430 により競技役員の各職務に定められている競技会、公式ミーティング、または抽選を一部欠席または丸ごと欠席することに関する容認不可な行為は、正当な理由がなければ、当該技術委員会によるアセスメントの対象となり、当該競技役員が当該技術委員会委員である場合は、副会長の推薦に際して評議会によるアセスメントの対象となり、その評価は信頼性のある検証済みの証拠を含めて下記の者より受理したレポートに基づく。

- テクニカル・パネル構成員について：各レフェリーおよび/または、各テクニカル・パネルの他構成員
- レフェリーについて：組織委員会および/または、各ジャッジ・パネル
- ジャッジについて：各レフェリー

#### 6. アセスメント基準

- a) レフェリー

##### アセスメント 1

- i) レポート提出遅れ、またはレポートの不備（第 4 項を参照）

##### アセスメント 2

- i) アセスメント 1 を受けた後でのレポート提出遅れ、またはレポートの不備（第 4 項を参照）
- ii) 競技会実施の際の誤審（第 3 項を参照）
- iii) 競技会、抽選、または公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する（第 5 項を参照）

#### **アセスメント 3**

- i) アセスメント 2 を受けた後でのレポート提出遅れ、またはレポートの不備（第 4 項を参照）
- ii) アセスメント 2 を受けた後での、競技会開催の際の誤審（第 3 項を参照）

#### **アセスメント 4**

- i) アセスメント 3 を受けた後でのレポート提出遅れ、またはレポートの不備（第 4 項を参照）
- ii) アセスメント 3 を受けた後での、競技会開催の際の誤審（第 3 項を参照）
- iii) アセスメント 2 または 3 を受けた後で、競技会、抽選、または公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する（第 5 項を参照）

### **b) ジャッジ**

#### **アセスメント 1**

- i) 誤審（第 2 項を参照）
- ii) 公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する（第 5 項を参照）

#### **アセスメント 2**

- i) アセスメント 1 を受けた後での誤審（第 2 項を参照）
- ii) アセスメント 1 を受けた後で公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する（第 5 項を参照）
- iii) 競技会を欠席、あるいは一部のみ出席する（第 5 項を参照）

#### **アセスメント 3**

- i) アセスメント 2 を受けた後での誤審（第 2 項を参照）
- ii) アセスメント 2 を受けた後で公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する（第 5 項を参照）

#### **アセスメント 4**

- i) アセスメント 3 を受けた後での誤審（第 2 項を参照）
- ii) アセスメント 3 を受けた後で公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する

る（第 5 項を参照）

- iii) アセスメント 2 または 3 を受けた後で、競技会を欠席、あるいは一部のみ出席する（第 5 項を参照）

c) テクニカル・コントローラー

**アセスメント 1**

- i) レポート提出遅れ、またはレポートの不備（第 4 項を参照）
- ii) セグメントのスケーター/ペア/カップルごとに著しい差が生じるテクニカル・パネルの誤判断において過半数のうちの一人であること（第 3 項を参照）
- iii) データ・オペレーターが行ったデータ入力を適切に確認していない（第 3 項を参照）
- iv) 十分な実践的セッションを欠席する（第 5 項を参照）

**アセスメント 2**

- i) アセスメント 1 を受けた後でのレポート提出遅れ、またはレポートの不備（第 4 項を参照）
- ii) アセスメント 1 を受けた後で、セグメントのスケーター/ペア/カップルごとに著しい差が生じるテクニカル・パネルの誤判断において過半数のうちの一人であること（第 3 項を参照）
- iii) アセスメント 1 を受けた後で、データ・オペレーターが行ったデータ入力を適切に確認していない（第 3 項を参照）
- iv) アセスメント 1 を受けた後で、十分な実践的セッションを欠席する（第 5 項を参照）
- v) 競技会または公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する（第 5 項を参照）

**アセスメント 3**

- i) アセスメント 2 を受けた後でのレポート提出遅れ、またはレポートの不備（第 4 項を参照）
- ii) アセスメント 2 を受けた後で、セグメントのスケーター/ペア/カップルごとに著しい差が生じるテクニカル・パネルの誤判断において過半数のうちの一人であること（第 3 項を参照）
- iii) セグメントのスケーター/ペア/カップルごとに 4 ポイント以上の差が生じるテクニカル・パネルの誤判断において過半数のうちの一人であること（第 3 項を参照）
- iv) アセスメント 2 を受けた後で、データ・オペレーターが行ったデータ入力を適切に確認していない（第 3 項を参照）
- v) アセスメント 2 を受けた後で、十分な実践的セッションを欠席する（第 5 項を参照）

照)

#### アセスメント 4

- i) アセスメント 3 を受けた後でのレポート提出遅れ、またはレポートの不備 (第 4 項を参照)
- ii) アセスメント 3 を受けた後で、セグメントのスケーター/ペア/カップルごとに著しい差が生じるテクニカル・パネルの誤判断において過半数のうちの一人であること (第 3 項を参照)
- iii) アセスメント 2 または 3 を受けた後で、セグメントのスケーター/ペア/カップルごとに 4 ポイント以上の差が生じるテクニカル・パネルの誤判断において過半数のうちの一人であること (第 3 項を参照)
- iv) アセスメント 3 を受けた後で、データ・オペレーターが行ったデータ入力を適切に確認していない (第 3 項を参照)
- v) アセスメント 3 を受けた後で、十分な実践的セッションを欠席する (第 5 項を参照)
- vi) アセスメント 2 または 3 を受けた後で、競技会または公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する (第 5 項を参照)

#### d) テクニカル・スペシャリスト

##### アセスメント 1

- i) セグメントのスケーター/ペア/カップルごとに著しい差が生じるテクニカル・パネルの誤判断において過半数のうちの一人であること (第 3 項を参照)
- ii) 十分な実践的セッションを欠席する、公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する (第 5 項を参照)

##### アセスメント 2

- i) アセスメント 1 を受けた後で、セグメントのスケーター/ペア/カップルごとに著しい差が生じるテクニカル・パネルの誤判断において過半数のうちの一人であること (第 3 項を参照)
- ii) アセスメント 1 を受けた後で、十分な実践的セッションを欠席する、公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する (第 5 項を参照)
- iii) 競技会を欠席、あるいは一部のみ出席する (第 5 項を参照)

##### アセスメント 3

- i) アセスメント 2 を受けた後で、セグメントのスケーター/ペア/カップルごとに著しい差が生じるテクニカル・パネルの誤判断において過半数のうちの一人であること (第 3 項を参照)

- ii) セグメントのスケーター/ペア/カップルごとに 4 ポイント以上の差が生じるテクニカル・パネルの誤判断において過半数のうちの一人であること(第 3 項を参照)
- iii) アセスメント 2 を受けた後で、十分な実践的セッションを欠席する、公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する (第 5 項を参照)

#### アセスメント 4

- i) アセスメント 3 を受けた後で、セグメントのスケーター/ペア/カップルごとに著しい差が生じるテクニカル・パネルの誤判断において過半数のうちの一人であること (第 3 項を参照)
- ii) アセスメント 2 または 3 を受けた後で、セグメントのスケーター/ペア/カップルごとに 4 ポイント以上の差が生じるテクニカル・パネルの誤判断において過半数のうちの一人であること (第 3 項を参照)
- iii) アセスメント 3 を受けた後で、十分な実践的セッションを欠席する、公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する (第 5 項を参照)
- iv) アセスメント 2 または 3 を受けた後で、競技会を欠席、あるいは一部のみ出席する (第 5 項を参照)

#### e) データ&リプレイ・オペレーター

##### アセスメント 1

- i) 誤操作 (第 3 項を参照)
- ii) 公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する (第 5 項を参照)

##### アセスメント 2

- i) アセスメント 1 を受けた後での誤操作 (第 3 項を参照)
- ii) アセスメント 1 を受けた後で公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する (第 5 項を参照)
- iii) 競技会を欠席、あるいは一部のみ出席する (第 5 項を参照)

##### アセスメント 3

- i) アセスメント 2 を受けた後での誤操作 (第 3 項を参照)
- ii) アセスメント 2 を受けた後で公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する (第 5 項を参照)

##### アセスメント 4

- i) アセスメント 3 を受けた後での誤操作 (第 3 項を参照)
- ii) アセスメント 3 を受けた後で公式ミーティングを欠席、あるいは一部のみ出席する (第 5 項を参照)



- iii) アセスメント 2 または 3 を受けた後で競技会を欠席、あるいは一部のみ出席する  
(第 5 項を参照)

## 7. 降職

- a) 競技役員についてのアセスメントの累積がアセスメント 4 に達する場合、当該競技役員およびその者の ISU メンバーは ISU 事務局を通じて、予想される降職の通知を受け取るものとする。その競技役員は、下記機関の少なくとも 3 名、そして評議会が任命した 1 つまたはいくつかのアセスメントについて説明を行う追加的な専門家とのミーティングを、通知受領に際し 5 日以内に依頼する権利を有する：

- レフェリー、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、およびデータ&リプレイ・オペレーターについて：ISU 評議会のフィギュア・スケート部門
- ジャッジについて：当該技術委員会

可能であれば、また該当する場合、競技役員は各ビデオ記録を自身の説明の裏付けのために用いてもよい。そうしたミーティングは、評議会が決定した日時および場所で早急に行うこととする。ミーティングのレポートに基づき、評議会と技術委員会は各自、アセスメントの承認または取消を決定することとする。

- b) 上記 a) による説明会に関し当該競技役員により生じる移動、食事、宿泊、またはその他の費用は、受けた説明にかかわらずすべてのアセスメントを評議会と技術委員会が各自追認する場合、その競技役員が負担することとする。アセスメントのうち少なくとも 1 つが取り消される場合のみ、ISU はそうした費用を払い戻すこととする。

- c) 上記 a) により受けた説明にかかわらずアセスメント 4 を評議会と技術委員会が各自追認する場合、または上記 a) により説明会を依頼する権利を当該競技役員が行使しない場合は、当該競技役員を次のとおり直ちに降職することとする：

- (i) レフェリーについて

- レフェリー業務を降ろされる ISU レフェリーを、国際レフェリーのリストおよび ISU ジャッジのリストに移すこととする。
- ジャッジ業務を降ろされる ISU レフェリーを、国際レフェリーのリストに移すが ISU ジャッジのリストには移さないこととする。
- レフェリー業務を降ろされる国際レフェリーを、国際レフェリーのリストから除名し国際ジャッジのリストに移すこととする。
- ジャッジ業務を降ろされる国際レフェリーを、国際レフェリーのリストから除名するが国際ジャッジのリストには移さないこととする。

- (ii) ジャッジ、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、および

データ&リプレイ・オペレーターについて

- 降職の ISU 競技役員を、国際競技役員のリストに移すこととする。
- 降職の国際競技役員を、国際競技役員のリストから除名することとする。

## 8. アセスメントおよび降職の妥当性についての発表、有効性、および継続期間

- a) アセスメント（第 2 項～第 5 項を参照）または降職（第 7 項を参照）を決定した ISU 機関は、当該競技役員の ISU メンバーおよび当該技術委員会宛ての写しを付して当該競技役員に通知するよう ISU 事務局に指示することとする。
- b) アセスメントまたは降職は、下記においてのみ有効であるものとする：
  - (i) レフェリー、ジャッジ、テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、またはデータ&リプレイ・オペレーターの資格について、また
  - (ii) 競技において、すなわち：
    - レフェリーおよびジャッジ：シングル&ペア・スケーティングまたはアイス・ダンス
    - テクニカル・コントローラーおよびテクニカル・スペシャリスト：シングル・スケーティング、またはペア・スケーティング、あるいはアイス・ダンス
    - データ&リプレイ・オペレーター：すべての競技で、当該競技役員の業務がそうしたアセスメントまたは降職となって当然の場合。
- c) 各アセスメントは、現行のシーズンに加えてさらに 2 シーズン有効であるものとし、そうした期間中アセスメントの累積に反映されるものとする。
- d) 降職は、規定 410～規定 416 のとおり当該競技役員が以前就いていた職に当職の初指名要件を満たすことで復帰するまで有効であるものとする。
- e) ISU メンバーに所属するジャッジ（またはジャッジを務めるレフェリー）の過半数が数年に渡って、不正行為のため停職処分を受けている、および/またはその後アセスメントおよび/または是認されたアセスメントへと格下げされている場合、評議会は当該 ISU メンバーに警告を与えるか、あるいは評議会が定める期間について ISU 選手権および/または冬季オリンピック大会および/または国際競技会へのジャッジ任命権を喪失とすることを決定することができる。しかし当該権限の行使にあたっては、評議会は決定より 5 年以上前に起きた事例を一般的に考慮に入れてはならないこととする。

規定 441-449（留保）

## エキシビション規則

### 規定 No. 450 エキシビション

1. エキシビションに関するいかなる交渉もスケーターと行うことはできず、そのスケーターが所属する ISU メンバーとしか行うことができない。
2. 外国でのエキシビションについての通知は、関係する両 ISU メンバーから ISU 事務局長に送付されなければならない。外国でエキシビションを開催する ISU メンバーは、当外国の ISU メンバーに同意を求めなければならない。最終調整すべてを当該両 ISU メンバーが承認しなければならない。
3. スケーター/カップルが 2 ヶ月以上の間外国に滞在する場合、スケーター/カップルが所属する ISU メンバーは当外国の ISU メンバーにエキシビションの一般権限を与え、ISU 資格規定および当外国の ISU メンバーの資格規定の適用に対する責任を委ねることができる。その場合、スケーター/カップルはエキシビションに関する各要求を当外国の ISU メンバーに通知しなければならない。
4. 規程 109 第 2 項および第 3 項はエキシビションにも適用となる。
5. 資格を有する者はアイス・ショー、エキシビション、商業映画、またはテレビ番組に参加することができ、資格のない者（規定 102 第 2 項に定められたとおり）は当該 ISU メンバーの事前承認がある場合に限り、参加者の大半を占める。
6. 例外的なケースとして、ISU の各スポーツ・ディレクターは資格を有する者が ISU メンバーのいない国でのエキシビションに参加することを認可することができる。
7. 種目開始前の 14 日間のうちに選手権会場またはその近辺で ISU 選手権の選手によるエキシビションが行われないことがある。
8. フィギュア・スケート競技会中のエキシビションについては規定 365 を参照のこと。
9. ISU エキシビション・ツアーに参加招待された世界選手権の選手は、直後 40 日のうちに 20 回以上披露してはならない。各スポーツ・ディレクターにより例外が設けられることがある。ISU が主催および/または認可する場合を除き、そうした選手を含むエキシビション・ツアーが前述の期間中に行われないことがある。
10. ISU または ISU メンバーのみが、資格を有するスケーターが参加するエキシビション・ツ

アーの主催または認可権限を有する。

11. 資格を有する者は、1日のうちに1つのフィギュア・スケート・エキシビションにのみ出演することを認められている。一連のエキシビションの期間が1週間を超過する場合は、エキシビションのない日を3日または4日おきに設けるべきである。しかし、地理的に離れておりエキシビションを観る他の機会の少ない外国でのエキシビションについては、特別措置を各スポーツ・ディレクターが認めることがある。
12. ISU 評議会は一連のエキシビションを主催する ISU メンバーとともに、ISU のために資金調達を行うことができる。
13. 参加者は ISU 選手権でのフィギュア・スケート・エキシビションに対する金銭を受け取ることができるが、そのスケーターの所属する ISU メンバーの承認がある場合に限り、各 ISU メンバーを通じてのみスケーターに支払われる。
14. 規定 137（費用の償還）はエキシビションにも適用となる。
15. エキシビションからの除外については、規定 104 第 16 項および規定 125 第 4 項を参照のこと。

規定 451-499（留保）

# SPECIAL REGULATIONS & TECHNICAL RULES SINGLE & PAIR SKATING and ICE DANCE 2016

## II. 技術規程

### シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンス

#### シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンスの一般技術規程

##### 規定 500 スケート・ブレードの定義

競技会の際に使用するフィギュア・スケート・ブレードについては、2枚のエッジの間を測った時のブレード幅は変えることなく、凹んだ横断面を平らに研がなければならない。しかしブレードの横断面をわずかに先細りにしたり狭くしたりすることは認められている。

##### 規定 501 衣装

1. ISU 選手権、冬季オリンピック大会、および国際競技会において選手の衣装は、控えめで品がありスポーツ競技にふさわしいものでなければならない—デザインが派手または芝居じみていないこと。しかし選んだ音楽の特徴を衣装に反映することはできる。競技にふさわしくない過度の露出が衣装にあってはならない。男子は靴まで掛かる長さのズボンをはかなければならず、タイツをはいてはならない。さらに、アイス・ダンスにおいて女子はスカートをはかなければならない。アクセサリおよび小道具は禁止されている。

これらのガイドラインを順守しない衣装には減点のペナルティが科せられる（規定 353 第 1 項 n を参照）。

アイス・ダンスについては、ショート・ダンス用に選んだリズムに適していれば、制限の適用除外をアイス・ダンス技術委員会が発表することができる。

2016 年版にて下線部を追加。

2. 衣装の装飾は取り外し不可なものでなければならない。衣装または装飾の一部が氷上に落下すると減点のペナルティが科せられる（規定 353 第 1 項 n を参照）。

##### 規定 502 スケーティングの継続時間

スケーター（ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスについては、どちらかのスケーター）が動き出す、または滑り出す瞬間からプログラムの終わりで完全に停止するまでの時間を計らなければならない。

1. ショート・プログラム

シニアおよびジュニアの女子、男子、ペア：

2 分 40 秒。

2016 年版にて継続時間を変更。

変更前：「2 分 50 秒、しかしそれより短いこともある」

また、「a) 2 分 50 秒が過ぎてから始まる要素はいずれも、採点においては省略とみなされる。

b) 選手がショート・プログラムを制限時間内に終えることができない場合、最大 5 秒超過

するごとに減点となる（規定 353 第 1 項 n を参照）。タイムキーパーはレフェリーに知らせなければならない。」を削除。

2. フリー・スケーティング

シニア：

男子 4 分 30 秒

女子 4 分

ペア 4 分 30 秒

ジュニア：

男子 4 分

女子 3 分 30 秒

ペア 4 分

2018-2019 シーズンより開始：

フリー・スケーティング

シニア：

女子、男子、ペア：4 分

ジュニア：

女子、男子、ペア：3 分 30 秒

2016 年版にて下線部を追加。

3. シニアおよびジュニアのショート・ダンス

2 分 50 秒（アイス・ダンス技術委員会が決定し ISU コミュニケーションにおいて発表となる場合を除く）。

4. フリー・ダンス

シニア 4 分

ジュニア 3 分 30 秒

スケーター/ペア/カップルはショート・プログラム、ショート・ダンス、フリー・スケーティングまたはフリー・ダンスを所要時間のプラスマイナス 10 秒以内に終えてもよい。スケーター/ペア/カップルがショート・プログラム、ショート・ダンス、フリー・スケーティングまたはフリー・ダンスのプログラムを許容の時間範囲内に終えることができない場合、最大 5 秒不足または超過するごとに減点となる（規定 353 第 1 項 n を参照）。ショート・プログラム、ショート・ダンス、フリー・スケーティングまたはフリー・ダンスにおける、所要時間（プラス、認可されている 10 秒）を過ぎてから始まる要素のいずれもテクニカル・パネルは特定してはならず、そ

の要素は無価値となる。タイムキーパーはレフェリーに知らせなければならない。所要時間範囲下でプログラムが 30 秒以上続く場合は、採点されない。これらの減点は規定 515 第 7 項～第 8 項においては適用不可である。

2016 年版にて下線部を追加。

**規定 503 転倒および中断**

1. 転倒は、スケーターがコントロールを失った結果ブレード以外の身体の一部、例えば手、膝、背中、臀部、または腕で自身の体重の大部分を氷上で支えることと定義される。各転倒について減点を行うこととする（規定 353 第 1 項 n を参照）。
2. 中断は、スケーターがプログラムを演じるのをやめた瞬間から再開する瞬間までの経過時間と定義される。10 秒以上の各中断について減点を行うこととする（規定 353 第 1 項 n を参照）。中断が 40 秒以上続く場合、レフェリーは合図音を出し、スケーター/ペア/カップルは棄権となる。スケーターと無関係の悪条件、またはスケーターの健康状態あるいは設備に関係する悪条件が原因で中断する場合は、規定 515 を参照のこと。

**規定 504 ショート・プログラム/ショート・ダンスおよび  
フリー・スケート/フリー・ダンスの採点**

**1. 技術点**

規定 353 第 1 項 a) および b) のとおり、ショート・プログラム/ショート・ダンスおよびフリー・スケート/フリー・ダンスの要素の価値尺度表は ISU コミュニケーションにおいて発表および改定される。この価値尺度には、すべての要素の基礎値、および 7 つの出来栄点の数値が含まれる。

**a) 基礎値**

テクニカル・パネルは各要素の名称を、そして必要があれば難度レベルを決定する。要素の基礎値は点数で評価され、要素の難度が上がると点数が増える。要素の難度は次のとおり決まる：

シングル&ペア・スケート	アイス・ダンス
<ul style="list-style-type: none"><li>- ジャンプ(シングルおよびペア)およびスロージャンプ(ペア)について：難度の順に挙げられたジャンプ名またはスロージャンプ名（トゥループ、サルコウ、ループ、フリップ、ルッツ、アクセル）、および回転数で決まる。</li><li>- リフトについて（ペア）：リフトのグループ（1-5）、名称、および難度レベルで決まる。</li><li>- ツイスト・リフトについて（ペア）：回転数および難度レベルで決まる。</li></ul>	難度レベルで決まる。

- デス・スパイラルについて（ペア）：名称および難度レベルで決まる。	
- その他の要素について：名称および難度レベルで決まる。	

## b) 要素の難度レベル

要素に一定の難度レベルを付す特徴（特長）\* についての説明は、ISU コミュニケーションにおいて発表および改定される。

[\* 訳注：feature（特長）は、characteristic（特徴）の中でも特に優れた点を表す。]

シングル&ペア・スケーティング	アイス・ダンス
リフト、ツイスト・リフト、デス・スパイラル（ペア）、スピンおよびステップ（シングルおよびペア）は、達成した特長の数に従い、難度によって5つの難度レベルに分けられる：基礎レベル・特長なし、レベル1・特長1個、レベル2・特長2個、レベル3・特長3個、レベル4・特長4個以上	<p>コレオグラフィック要素を除く必須要素はすべて、難度レベルに分けられる。<u>リフト、スピン、ツイズル、およびステップ・シーケンス</u>には、難度に応じて4つのレベルがある。<u>ステップ・シーケンスには、要素は完了したがレベル1の基準に達していなかった場合の追加的な基礎レベルがある。コレオグラフィック要素にはレベルは付与されないが、その要素を定義する最小限の要件が満たされた場合に要素確定となる。</u></p> <p>2016年版にて下線部を追加。</p>

## c) 出来栄え点（GOE）

各ジャッジは各要素の出来栄えの質を、出来栄えの特長およびエラーに基づき7段階の出来栄え点で採点する：+3、+2、+1、基礎値、-1、-2、-3

2018-2019年シーズンより、11段階までの出来栄え点を開始。

規定353第1項h)(i)、(ii)、および第1項i)のとおり、ジャンプ・コンビネーション、ジャンプ・シーケンス（シングル&ペア・スケーティングにおいて）、およびコンビネーション・リフト（アイス・ダンスにおいて）は「1つの構成単位」として評価される。

GOE採点のガイドラインはISUコミュニケーションにおいて発表および改定される。

2016年版にて下線部を追加。

## 2. 違反となる要素/動作

規定610（シングル&ペア・スケーティング）、規定709第3項（ショート・ダンス）、規定710第3項（フリー・ダンス）に定められたとおり、プログラムで行った違反となる各要素/動作には減点のペナルティが科せられる（規定353第1項nを参照）。違反となる要素/動作が要素実



施中にあった場合は、違反となる要素/動作に対する減点が適用となり、その要素がコールされる：

- シングル&ペア・スケーティング：少なくとも基礎レベルの要件を満たす場合は、基礎レベル
  - アイス・ダンス：少なくともレベル1の要件を満たす場合は、レベル1
- それ以外は、要素は「レベルなし」とコールされる。

### 3. 演技構成点

#### a) 演技構成の定義

スケーター/ペア/カップルの全体的な演技を、スケーティング・スキル、要素のつながり、演技、構成、音楽の解釈/タイミング（アイス・ダンスに関して）、という 5 つの演技構成で評価する。

ペア・スケーティングおよびアイス・ダンスについては、両スケーターが基準を同等に演じなければならない。

2016 年版にて、演技構成の定義を変更。

- ・「要素のつながり/つながりのフットワーク（足捌き）と動作」⇒「要素のつながり」
- ・「演技/遂行」⇒「演技」
- ・「振り付け/構成」⇒「構成」
- ・タイミングについて「アイス・ダンスに関して」を追加。
- ・ペアとアイス・ダンスに関する規定を追加。

#### スケーティング・スキル

全体的な正確さと確実さにより定義される。スケート用語（エッジ、ステップ、ターンなど）を使って示されるエッジコントロールや氷上での流れ、テクニックの明確さ、無駄な力なしに行うスピードの加速や変化。

2016 年版にて、スケーティング・スキルの定義を変更。

- ・「総合的なスケーティングの質」⇒「全体的な正確さと確実さにより定義される。」

スケーティング・スキルを評価する際は、下記の点を考慮しなければならない：

- 深いエッジ、ステップ、およびターンの使用
- バランス、リズミカルな膝の動き、足の位置の正確さ
- 流れ、および滑り
- パワー、スピード、および加速のさまざまな使用
- 多方向へのスケーティングの使用
- 片足でのスケーティングの使用

2016 年版にて、スケーティング・スキルの考慮点を変更。

- ・「深いエッジ、ステップ、およびターンの正確さと確実さ」⇒「深いエッジ、ステッ

ブ、およびターンの使用」

- ・「流れ、および無駄な力のない滑り」⇒「流れ、および滑り」
- ・「パワー/エネルギーおよび加速」⇒「パワー、スピード、および加速のさまざまな使用」
- ・「多方向へのスケーティングの熟達」⇒「多方向へのスケーティングの使用」
- ・「片足でのスケーティングの熟達」⇒「片足でのスケーティングの使用」
- ・「ユニゾンにおいて示される、両パートナーの同等なテクニック熟達（ペア・スケーティングおよびアイス・ダンス）」を削除。

### 要素のつながり

すべての要素をつなぐ複雑なフットワーク、姿勢、動作、ホールドの多様かつ意図的な使用。

2016 年版にて下線部を追加。また、「それらの要素の入りおよび出を含める。」を削除。

要素のつながりを評価する際は、下記の点を考慮しなければならない：

- 1 つの要素から別の要素への動作の連続性（全部門）
- 多様さ（アイス・ダンスでのホールドの多様さを含む）
- 難しさ
- 質

2016 年版にて、要素のつながりの考慮点を変更。

- ・「1 つの要素からほかの要素への動作の連続性（全部門）」を追加。
- ・「多様さ」に「（アイス・ダンスでのホールドの多様さを含む）」を追加。
- ・「質」から「（ペア・スケーティングでのユニゾンを含む）」を削除。
- ・「複雑さ」を削除。
- ・「パートナー間の仕事量のバランス（ペア・スケーティングおよびアイス・ダンス）」を削除。
- ・「多様なホールド（度を超さないサイド・バイ・サイドやハンド・イン・ハンド）（アイス・ダンス）」を削除。

### 演技

音楽および構成の意図を伝える、スケーター/ペア/カップルの身体的、感情的、知的な関わり。

2016 年版にて、演技の定義を変更。

- ・「音楽および振り付けの意図を解釈する」⇒「音楽および構成の意図を伝える」
- ・「遂行：動作の質、表現の正確さ。これにはペア・スケーティングおよびアイス・ダンスでの動作の調和も含まれる。」を削除。

演技を評価する際は、下記の点を考慮しなければならない：

- 身体的、感情的、知的な関わりおよび投影
- 身のこなし、および動作の明確さ
- 動作やエネルギーの多様性およびコントラスト
- 個性/人柄
- ユニゾンおよび「一体感」（ペア・スケーティング、アイス・ダンス）
- パートナー間の空間認識- スケーター間の距離の取り方およびホールド・チェンジの手際良さ（ペア・スケーティング、アイス・ダンス）

2016 年版にて、演技の考慮点を変更。

- ・「多様性およびコントラスト」⇒「動作やエネルギーの多様性およびコントラスト」
- ・「スタイル」を削除。
- ・「パートナー間の演技バランス（ペア・スケーティングおよびアイス・ダンス）」を削除。

## 構成

音楽フレーズ、空間、パターン、構造の原則に従い、あらゆる種類の動作の意図した発展的および/または独創的なアレンジ。

2016 年版にて、原則から「バランス、統一性」を削除。

構成を評価する際は、下記の点を考慮しなければならない：

- 目的（アイデア、コンセプト、構想、雰囲気）
- パターン/氷の使用範囲
- 多次元的空間利用および動きのデザイン
- フレーズおよび形式（音楽フレーズに合うように構成された動作およびパーツ）
- 構成の独創性

2016 年版にて、構成の考慮点を変更。

- ・「目的、動作、およびデザインの独創性」⇒「構成の独創性」
- ・「多次元的空間利用および動きのデザイン」を追加。
- ・「バランス（パーツの均等なウェイト）」を削除。
- ・「統一性（あらゆる動作で目的が一貫している）」を削除。
- ・「パーソナル・スペースおよびパブリック・スペースの活用」を削除。
- ・「目的達成のための共有責任（ペア・スケーティングおよびアイス・ダンス）」を削除。

## 音楽/タイミングの解釈（アイス・ダンスに関して）

音楽のリズム、特徴、内容の個性的、創造的、および偽りない解釈

2016 年版にて下線部を追加。

音楽（/タイミング）の解釈を評価する際は、下記の点を考慮しなければならない：

- 音楽（タイミング）に合わせた動作およびステップ
- 音楽の特徴/感情の表現、および明確に識別できる時にはリズムの表現
- 音楽のディテールやニュアンスを反映するための技巧\*の使用
- 音楽の特徴やリズムを反映したスケーター間の関係（ペア・スケーティング、アイス・ダンス）
- ショート・ダンスでの主にリズムカルなビートに合ったスケーティング、またフリー・ダンスでのビートに合ったスケーティングとメロディに合ったスケーティングとの良いバランスの保持

2016 年版にて考慮点を変更。

- ・「音楽に合わせた、無駄な力のない動作」⇒「音楽に合わせた動作およびステップ」
- ・「音楽のスタイル、特徴、およびリズムの表現」⇒「明確に特定できる場合の、音楽の特徴/印象およびリズムの表現」
- ・「音楽のニュアンスを反映するための技巧の使用」⇒「音楽のディテールやニュアンスを反映するための技巧の使用」
- ・「音楽の特徴を反映したパートナー間の関係」⇒「音楽の特徴やリズムを反映したスケーター間の関係」
- ・「音楽の適切性（アイス・ダンス）」を削除。

\* 技巧とは、スケーターが行う、動作を通じて音楽のディテールやニュアンスを巧みに操る洗練された技のことである。技巧はスケーター固有のものであり、音楽および構成への内面的な感情を表す。ニュアンスは、作曲家および/または音楽家が作った音楽の強度、テンポ、そして強弱に微妙な変化をつける一個人の手法である。

2016 年版にて下線部を追加。また、「芸術的手法」を「手法」に変更。

## b) 演技構成の採点

プログラム終了後、規定 353 j) のとおり各ジャッジは演技構成を 0.25～10 の段階で、0.25 点刻みで採点する。ジャッジが付す点数は、次の演技構成の段階に対応している：1 未満・極めて悪い、1- とても悪い、2- 悪い、3- 劣っている、4- まずまずの、5- 平均、6- 平均以上、7- 良い、8- とても良い、9-10- 傑出している。\*

ある段階における特長とその次の段階における特長とを含む演技の評価には、(0.25 の) 増加を用いる。

演技構成の採点のガイドラインは ISU コミュニケーションにおいて発表および改定される。

〔\* 訳注：演技構成の 10 段階を表にすると下記のようなになる。〕

ジャッジが付す点数	評価
0.25～0.75	極めて悪い
1.00～1.75	とても悪い
2.00～2.75	悪い
3.00～3.75	劣っている
4.00～4.75	まずまずの
5.00～5.75	平均
6.00～6.75	平均以上
7.00～7.75	良い
8.00～8.75	とても良い
9.00～10.00	傑出している

#### 4. 減点

特定の規則違反に対しては減点が適用となる（規定 353 を参照）。

規定 505-510（留保）

## シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンスの競技会技術規程 \*

[\* 訳注：原文では当該項目に「Ⅲ」の章番号が付いているが、目次と比較したところ誤記と推察されるため、和訳では「Ⅲ」を付けていない。]

### A. 一般

#### 規定 511 エントリー発表および競技役員団の発表

ISU 競技会以外の競技会およびカテゴリーの順守がなされているかを確認するため、ISU コミュニケーションに発表された「世界ランキング考慮」の要件を含めて、エントリーならびに競技役員についての事前の非公式発表は、エントリー締め切り後いつでも、しかし遅くとも競技会開始の 7 日前までに組織委員会が行わなければならない。当該条項は、世界ランキングに考慮されない競技会およびカテゴリーについては任意である。

#### 規定 512 抽選

1. 全セグメントの滑走順の抽選をレフェリーが公式に行う。レフェリーは組織委員会に、選手および競技役員の名前のつづりが正しいかどうか確認を依頼しなければならない。
2. 滑走番号のくじは、各選手がもしいる場合は各選手が引き、いない場合は彼らの ISU メンバーの公式代表または組織委員会委員が引くこととする。
3. エントリーおよび競技役員団についての公式発表は、各競技会のレフェリーが、当該競技会の最初の滑走順抽選の時に行う。ISU 競技会および冬季オリンピック大会には他の手順を用いてもよい。

#### 規定 513 滑走順の抽選

種目の各セグメントについて選手の滑走順の抽選を次のとおり行うこととする：

1. ショート・プログラム/ショート・ダンスまたはパターン・ダンス
  - a) i) 抽選をスタートする ISU メンバーを決めるためのくじを引く選手を 1 人選ぶ。  
  
ii) 抽選スタートのくじに当たった ISU メンバーから、ISU メンバーのアルファベット順に進めながら選手の滑走順を抽選する。

この手順は、ISU 選手権および冬季オリンピック大会には当てはまらない（規定 520 第 1 項を参照）。

- b) パターン・ダンスについてのみ、もし 2 つのパターン・ダンスを滑る場合は：
  - ・ カップルを 2 つのグループに分ける。カップルの数を均等に二分することができない

場合は、第 2 グループに第 1 グループよりも 1 組多く含めることとする。

- 2 番目のパターン・ダンスは第 2 グループにいる 1 組目のカップルから始まり、抽選で決まっていた順に残りのカップルが続く。第 1 グループにいるカップルは第 2 グループの後に続き、第 1 グループの 1 組目のカップルから始める。
- 当該規定の例外が認められるのは 2 組のカップルしかいない場合である。この場合、1 組目のカップルから各パターン・ダンスを始める。この手順に 2 組のカップル双方が同意しなければならない。

## 2. フリー・スケーティング/フリー・ダンス

- a) ショート・プログラム/ショート・ダンスまたはパターン・ダンスの結果で滑走順が決まる。
- b) 先行セグメントの結果が決まり次第早急にレフェリーは、少なくとも 1 名の選手の立会いのもとで選手を、先行セグメントを終えた順にできるだけ少数の均等なグループに分けることとする（技術規程の表 1 を参照）。
- c) 選手数を均等に二分することができない場合は、最終滑走グループ（および、必要な数だけの先行グループ）に第 1 グループより 1 名多く選手を含めなければならない。最下位グループが最初に滑走しなければならず、それから次に下位のグループが滑走し、その後同様に続く。
- d) 先行セグメント終了時に 2 人以上の選手が同点同順位となる場合、当該選手は同じグループ内でくじを引くこととする。必要に応じて、直前のグループを後続グループに加わる選手の数だけ少なくすることとする。
- e) 各グループ内の滑走順を抽選で決定することとし、各選手は競技会の先行セグメントにおける順位の順にくじを引くこととする。すなわち、最も順位の高い選手が、タイの選手も含めて最初に引く。タイの選手同士の抽選順は、メインの抽選に先立ち別途抽選で決定することとする。

ISU 競技会、冬季オリンピック大会、および冬季ユースオリンピック大会について：

- f) 女子および男子：最終 2 グループ（すなわち、最上位の選手を含むグループ）の滑走順は 4 つのサブグループにおいて抽選が行われる。
- g) ショート・プログラムの上位 3 名は、最終グループで最後に滑走し第 1 サブグループの中でくじを引く。

(ii) ショート・プログラムで 4、5、6 位の者は、最終グループで最初に滑走し第 2 サブグループの中でくじを引く。

(iii) ショート・プログラムで 7、8、9 位の者は、最後から 2 番目のグループで最後に滑走し第 3 サブグループの中でくじを引く。

(iv) ショート・プログラムで 10、11、12 位の者は、最後から 2 番目のグループで最初に滑走し第 4 サブグループの中でくじを引く。

g) ペア：最終 2 グループ（すなわち、最上位の選手を含むグループ）の滑走順は 4 つのサブグループにおいて抽選が行われる。

(i) ショート・プログラムの上位 2 組は、最終グループで最後に滑走し第 1 サブグループの中でくじを引く。

(ii) ショート・プログラムで 3、4 位の者は、最終グループで最初に滑走し第 2 サブグループの中でくじを引く。

(iii) ショート・プログラムで 5、6 位の者は、最後から 2 番目のグループで最後に滑走し第 3 サブグループの中でくじを引く。

(iv) ショート・プログラムで 7、8 位の者は、最後から 2 番目のグループで最初に滑走し第 4 サブグループの中でくじを引く。

h) アイス・ダンス：最終 2 グループ（すなわち、最上位の選手を含むグループ）の滑走順は 4 つのサブグループにおいて抽選が行われる。

(i) ショート・ダンスの上位 3 組は、最終グループで最後に滑走し第 1 サブグループの中でくじを引く。

(ii) ショート・ダンスで 4、5 位の者は、最終グループで最初に滑走し第 2 サブグループの中でくじを引く。

(iii) ショート・ダンスで 6、7、8 位の者は、最後から 2 番目のグループで最後に滑走し第 3 サブグループの中でくじを引く。

(iv) ショート・ダンスで 9、10 位の者は、最後から 2 番目のグループで最初に滑走し第 4 サブグループの中でくじを引く。



- i) サブグループ数が最大数より少なければ、サブグループをその都度調整する：偶数エントリーの場合サブグループは同数となり、奇数エントリーの場合後の滑走サブグループは前の滑走サブグループより 1 枠多くなる。

その他の国際競技会については、主催者には滑走順を本規定の e) から h) に沿って、またはその目的のためにショート・プログラム/ショート・ダンスの順位と逆順にして決定する自由がある。用いる方法を、競技会の発表にて言及すべきである。

2016 年版にて下線部を追加。

3. 次のセグメントに進む資格を有するスコアを得た 1 名以上の選手がそのセグメントの開始前に参加棄権を決定した場合、その空きに他のどの選手も起用されることはなく、そのセグメントに進む資格を有する選手の最大人数から棄権選手数が差し引かれる。

次のセグメントの滑走順を抽選した後に棄権が発表された場合、滑走順およびウォームアップ・グループに変更はなく、棄権選手分の空きはそのままとする。

4. 次のセグメントに進む資格を有するスコアを得た 1 名以上の選手がそのセグメントの開始前に失格となった場合、その空きは、当該セグメントにおいて当初は次のセグメントに進む資格に達していなかった選手のうち最上位の選手で埋められる。

そうした選手には第 1 ウォームアップ・グループでの第 1 滑走があてがわれ、このウォームアップ・グループは当該選手数で補完される。必要に応じて：

- (i) 第 1 サブグループにおける追加選手の滑走順は、別途行う追加的な抽選で決まる。  
(ii) 規定 514 第 3 項が適用となることとする。

#### 規定 514 ウォームアップ時間

1. ウォームアップ時間を全選手に割り当てなければならない。
2. 各ウォームアップの継続時間および最大人数（技術規程の表 2 を参照）は：
  - a) シングル・スケーティング・ショート・プログラム、フリー・スケーティング・6 分間・最大で選手 6 名
  - b) ペア・スケーティング・ショート・プログラム、フリー・スケーティング・6 分間・最大でペア 4 組
  - c) アイス・ダンス・パターン・ダンス・4 分間：1 分は音楽なし、その後 3 分は ISU アイス・ダンス音楽の 6 番目（最後）の曲がかかる・最大でカップル 5 組

d) アイス・ダンス・ショート・ダンス、フリー・ダンス・5分間- 最大でカップル 5組

3. 規定 513 第 4 項によりタイとなるか追加となった 1 名以上の選手が同じグループにいる場合は、同時にウォームアップすることを認められている最大人数をシングル・スケーティングにおいては 1 名超過することがある。しかし、認められている最大人数を 2 名以上のシングル・スケーターまたは 1 組以上のペアもしくはアイス・ダンス・カップルが超過する場合は、当該グループを 2 つのサブグループに分け各グループ別にウォームアップを行うこととする。各サブグループの選手は自身のサブグループのウォームアップ直後に滑り、いかなる場合もその直後に競技滑走が続く。
4. ウォームアップは、そのウォームアップ・グループの者の競技滑走より先に行わなければならない。10 分以上の予期せぬ事情のためセグメントで中断が生じた場合、当該選手はセグメントに応じて、第 2 項に述べた継続時間での 2 回目のウォームアップが認められる。

#### **規定 515 開始遅れまたは再開の許可**

1. 音楽のテンポまたは質が不十分な場合、プログラム開始から 30 秒以内にレフェリーに伝えられれば、選手はプログラムを最初からやり直すことができる。
2. 音楽の中断や停止、または選手自身や選手の装具に無関係なその他の悪条件（例えば照明、氷のコンディションなど）が生じた場合、選手はレフェリーの合図音で滑走を止めなければならない。問題解決後直ちに選手は中断時点から再開することとする。しかし中断が 10 分以上続く場合は、規定 514 第 2 項に従って 2 回目のウォームアップ時間があるものとする。
3. 選手が演技中に怪我をする、または選手自身や選手の装具に関係するその他の悪条件（健康問題、または衣装や装具への予期せぬダメージなど）が滑走の妨げとなる場合、選手は滑走を止めなければならない。止めない場合は、レフェリーの合図音で滑走を止めるよう命じられる。
  - a) 悪条件が遅延なく改善でき、選手がレフェリーに報告することなくプログラム滑走を再開した場合、レフェリーは中断の継続時間に応じて、規定 353 第 1 項 n) のとおり中断に対する減点を適用する。この中断時間は、選手がプログラム演技を止めた直後、または止めるようレフェリーが命じた直後のいずれか早い方から始まる。この時間中、選手の音楽は流れ続ける。選手が 40 秒以内にプログラム滑走を再開しない場合は、棄権とみなすこととする。
  - b) 悪条件がすぐには改善されず、選手が 40 秒以内にレフェリーに報告した場合、レフェ

リーは選手に滑走再開のため最大 3 分の追加を認める。それからレフェリーは音楽の停止を命じる。追加時間は、選手がレフェリーに報告した瞬間から始まる。レフェリーは規定 353 第 1 項 n)のとおりに中断全体に対する減点を適用する。選手が 40 秒以内にレフェリーに報告しない場合、または追加の 3 分間のうちにプログラム滑走を再開しない場合は、棄権とみなすこととする。

レフェリーは、まず中断時点がどこなのかを判断しテクニカル・コントローラーに示すこととする。テクニカル・パネルが要素の入りまたは最中で中断が生じたと判断した場合、テクニカル・パネルは通常のコール原則に従って要素をコールすることとし、テクニカル・コントローラーはレフェリーにその決定を伝えることとする。選手がプログラムを継続しなければならない時点をレフェリーが判断し選手、ジャッジ、およびテクニカル・パネルに伝えることとするが、その時点とは中断時点か、あるいは、もしテクニカル・パネルが要素の入りまたは最中で中断が生じたと判断した場合はこの要素の直後の時点である。

4. グループの第一滑走選手がウォームアップ時間中に負傷したり、滑走の妨げとなるような選手自身や選手の装具に関するその他の悪条件が生じたりして、プログラム開始前にその悪条件を改善する時間が十分でない場合は、開始のコールがかかる前にレフェリーは選手に最大 3 分の追加を認めることとする。前述の第 3 項による減点は適用されない。
5. 選手が、氷に入ってから開始のコールがかかるまでの間に負傷したり、滑走の妨げとなるような選手自身や選手の装具に関するその他の悪条件が生じたりして、プログラム開始前にその悪条件を改善する時間が十分でない場合は、開始のコールがかかる前にレフェリーは選手に最大 3 分の追加を認めることとする。レフェリーは前述の第 3 項 b)により減点を適用することとする。
6. 選手が、開始のコールがかかってから開始の姿勢を取るまでの間に負傷したり、滑走の妨げとなるような選手自身や選手の装具に関するその他の悪条件が生じた場合は、規定 350 第 2 項が適用となる。悪条件の改善に 60 秒では不十分な場合、レフェリーは前述の第 3 項 b)により中断全体に対する減点を適用して選手に最大 3 分の追加を認めることとする。  
[2016 年版にて 6 を追加。](#)
7. 前述の第 3 項 b)による選手や選手の装具に関する悪条件については、プログラムごとに 1 回だけ再開が認められる。前述の第 3 項 b)による選手や選手の装具に関する悪条件のために 2 回目の演技停止となった場合、当該選手は棄権とみなされることとする。
8. 選手がプログラムを完了しない場合、得点は与えられず選手は棄権となる。

## B. ISU 選手権- 特別技術規程

### 規定 520 選手の抽選

1. どの ISU 選手権においても、ショート・プログラム/ショート・ダンスの抽選は最新のワールド・スタンディングス (= 世界ランキング) に従い下記の手順で行われる。ワールド・スタンディングスは、ISU コミュニケーションに発表される手順のとおり樹立される：
  - a) 選手を 2 つのパートにおおまかに等分するが、2 番目のパートでくじを引くランク上位選手 (以降、「後行滑走」パートと呼ぶ)、そして 1 番目のパートでくじを引くランク下位選手およびランクなしの選手 (以降、「先行滑走」パートと呼ぶ) に分ける。選手数を均等に二分できない場合は、「先行滑走」パートよりもスケーター/ペア/カップルを 1 名または 1 組多く「後行滑走」パートに含める。2 つのパートの境目でワールド・スタンディングスがタイの場合、タイの選手は全員「後行滑走」パートに含まれる。
  - b) ランクなしの選手の人数が「先行滑走」パートの枠数よりも多い場合、これらの選手 (抽選で決定) は「後行滑走」パートに入る。この抽選については、ランクなしの選手全員が「後行滑走」パートに必要なだけのポジションの抽選に参加する。
  - c) 最終滑走グループおよび最後から 2 番目の滑走グループの選手数は、技術規程の表 I に従い選手の合計人数を用いて決定となる。
  - d) 最高ランクの選手間では「後行滑走」パートの最終滑走グループで滑るための自由抽選が、また次にランクの高い選手間では「後行滑走」パートの最後から 2 番目の滑走グループで滑るための自由抽選がある。
    - (i) 最終滑走グループと最後から 2 番目の滑走グループとの境目でワールド・スタンディングスがタイの場合、タイの選手は全員最終滑走グループに含まれ、最後から 2 番目の滑走グループは最終滑走グループに加わる選手の数だけ少なくなる。最終滑走グループが、認められている最大人数を 2 名以上のシングル・スケーターまたは 1 組以上のペア/アイス・ダンス・カップルで超過する場合、最終滑走グループは 2 つのサブグループに分かれ各サブグループ内で自由抽選がある。
    - (ii) 最後から 2 番目の滑走グループと残りの選手との境目でワールド・スタンディングスがタイの場合、タイの選手は全員最後から 2 番目の滑走グループに含まれる。最後から 2 番目の滑走グループが、認められている最大人数を 2 名以上のシングル・スケーターまたは 1 組以上のペア/アイス・ダンス・カップルで超過する場合、最後から 2 番目の滑走グループは 2 つのサブグループに分かれ各サブグループ内で自由抽選がある。

- e) 「後行滑走」パートのその他の選手全員で自由抽選がある。
- f) 「先行滑走」パートの選手全員でもう 1 回自由抽選がある。この抽選については、選手全員をランクありの選手とランクなしの選手の 2 つのパートに分け、ランクありの選手が後の方の滑走番号を引く。
- g) 滑走番号はワールド・スタンディングスに沿って抽選され、最もランクの高い選手が 1 番目にくじを引き、その次にランクの高い選手が 2 番目に引き、以下同様に続く。ワールド・スタンディングスがタイの場合、メインの抽選順を決めるためタイの選手同士で別途抽選がある。
- h) ウォームアップ・グループは、技術規程の表Ⅱに従い選手の合計人数を用いて決定となる。最終滑走グループと最後から 2 番目の滑走グループを前述の d)(i)および(ii)により調整する場合は、ウォームアップ・グループを同様に調整し、各滑走グループおよび予想されるサブグループが別々にウォームアップできるようにする。
2. ショート・プログラム/ショート・ダンスの結果に基づき、シングル・スケーティングでは 1-24 位、ペア・スケーティングでは 1-16 位、アイス・ダンスでは 1-20 位の選手だけが最終のフリー・スケーティング/フリー・ダンスに進む資格を有することとする。
3. フリー・スケーティング/フリー・ダンスの滑走順は規定 513 第 2 項 f)女子および男子、第 2 項 g)ペア、第 2 項 h)アイス・ダンスに従う。  
2016 年版にて下線部を追加。
4. シングル・スケーティングの 24 位、またはペア・スケーティングの 16 位、またはアイス・ダンスの 20 位でショート・プログラム/ショート・ダンスにタイが生じた場合、タイの選手は全員フリー・スケーティング/フリー・ダンスに進む資格を有し、彼らは同じ（1 番目の）グループでくじを引く。必要に応じて、規定 514 第 3 項を適用することとする。

#### 規定 521 ジャッジの抽選

1. ISU 選手権について、ジャッジ・パネルは ISU ジャッジの現行リストに載っているジャッジのみで構成されることとし、ジャッジ全員が指名された ISU でなければならない。
2. 各 ISU メンバーは毎年 10 月 1 日までにジャッジを人数だけで届け出なければならない、参加予定の ISU 選手権および当該選手権の各競技へのエントリーとともに、各抽選会において表明しなければならない。  
下記の選手権についてエントリーを行わなければならない。

a) 欧州 ISU メンバーのみからのエントリー

(i) 欧州フィギュア・スケート選手権

b) すべての ISU メンバーからのエントリー

(i) 四大陸フィギュア・スケート選手権

(ii) 世界ジュニア・フィギュア・スケート選手権

(iii) 世界フィギュア・スケート選手権

3. 各 ISU メンバーはエントリーとともに、ジャッジがペア競技の審査を可能かどうか表明しなければならない。

4. エントリーの原則および制限

a) 各 ISU メンバーはジャッジ 1 名を（名前ではなく）人数でエントリーすることができるが、それは当該 ISU メンバーのジャッジが審査を行う資格を有する各競技で、なおかつ ISU 当該メンバーが個々の競技会の少なくとも 1 つのセグメントを終えたスケーター/ペア/カップル最低 1 名または 1 組とともに前年の同じ選手権で参加した各競技においてである。

b) ISU メンバーは 1 つの選手権内の全 4 競技においてジャッジとともに代表を務めることができる。

c) ジャッジは ISU 選手権ごとに 1 競技以上業務に就いてはならない。

d) ISU メンバーは、くじを引いた個々の ISU 選手権および競技について当該 ISU 選手権の最初のイニシャル・ジャッジス・ミーティングより 21 日前に、補欠ジャッジを含めジャッジの氏名を挙げてエントリーする。

2016 年版にて、エントリー期限をミーティングの「45 日前」から「21 日前」に短縮。

e) 推薦されたジャッジを変更する必要がある場合は、最速の電子的手段で各スポーツ・ディレクター、ISU 事務局、および組織委員会に通知しなければならない。

f) ISU メンバーに推薦されたジャッジで、出席しており対応可能なジャッジは、選出された場合業務に就かなければならない。

g) ISU フィギュア・スケート会長または ISU フィギュア・スケート副会長は、ジャッジ・パネルを構成するに十分な人数のジャッジを起用できない選手権については前述の a) および c) のもとで制限を更新することができる。

## 5. 抽選手順

- a) すべての ISU 選手権についてジャッジ・パネルの抽選は毎年 10 月 1 日から 11 月 15 日の間に行われる。抽選には、代表 1 名を自費で派遣するすべての ISU メンバーが参加できる。抽選は、スイスにて公認スイス監査役の立会いのもとで行うこととする。ISU 会長は抽選を行う者を任命する。
- b) ジャッジ・パネルを構成するための各抽選は競技順に、最初に引く予備抽選から始まる。
- c) 各ジャッジ・パネルは 8 名以上かつ最大 9 名のジャッジから成る。
- d) 各選手権の各セグメント（ショート・プログラム、ショート・ダンス、フリー・スケートティング、およびフリー・ダンス）についてジャッジ・パネルの抽選を別途行うが、それは第 5 項 a) に関するメインの抽選時に当該選手権会場において行う。
- e) 各 ISU 選手権の抽選手順については別途説明する。
- f) ジャッジ・パネルの席順決めは、各種目の各セグメントについてジャッジ・ルームにいる競技レフェリーが手作業で行うこととする。

## 6. 欧州フィギュア・スケート選手権、世界フィギュア・スケート選手権、および世界ジュニア・フィギュア・スケート選手権

- a) 欧州フィギュア・スケート選手権にジャッジとともにエントリーしている欧州 ISU メンバーのみが、当該選手権のジャッジ・パネル構成の抽選に参加する。世界フィギュア・スケート選手権および世界ジュニア・フィギュア・スケート選手権にジャッジとともにエントリーしている全 ISU メンバーが、各選手権のジャッジ・パネル構成の抽選に参加する。
- b) パネルを選出する競技の順を決めるために無作為抽選を行うが、ペア競技のパネルは最後に選出しなければならない。
- c) 13 の ISU メンバーが全 ISU メンバーの中から選出されるが、それは個別の競技についてジャッジを人数でエントリーしており、なおかつ直前の年に同じフィギュア・スケート選手権の同じ競技にスケーター/ペア/カップルとともに参加した ISU メンバーで、当該スケーター/ペア/カップルが少なくとも 1 つのセグメントを終えていた場合である。
- d) 対応可能な ISU メンバーが足りない場合は、最大でジャッジ 13 名のジャッジ・パネル

を揃えるために、対応可能かつ業務に就く意思もあるもののまだ当該パネルで代表を務めていない全 ISU メンバーの中で追加抽選がある。

- e) 選手権会場でレフェリーは各競技の各セグメントの滑走 45 分前に、当該競技について選出された全ジャッジの面前で、9 名のジャッジ・パネルを揃えるために公開の無作為抽選を行う。
- f) 競技の第 1 セグメントについては、各競技のために選出された 13 名のジャッジの中から 9 名を抽選する。席順は、ジャッジが選出された順と同じである。
- g) 競技の第 2 セグメントについては、第 1 セグメントで選出されていないジャッジ 4 名が第 2 セグメントの 9 名のジャッジ・パネルへと自動的に任命され、すでに第 1 セグメントで業務に就く他のジャッジは全員、9 名のジャッジ・パネルを揃えるための抽選に参加する。9 名のジャッジの席順については別途抽選を行う。
- h) 選手権の時点で、選出され名前がエントリー済みのジャッジが不在の場合、また、エントリー済みの補欠ジャッジが業務対応できない場合は、当該競技における補欠ジャッジとしてエントリーされていなかった他のジャッジを同一 ISU メンバーから出して補うことはしない。参加しており当該競技に対応可能なもののまだ特定のパネルで代表を務めていない全ジャッジの中で別途抽選を行い、必要に応じて最大 9 名のジャッジでパネルを揃える。
- i) 第 2 セグメントについて最大 4 名のジャッジを選出可能な ISU メンバーがまだ足りない場合は、エントリーしており当該競技に適任なもののまだ当該パネルで代表を務めていない全 ISU メンバーの中で、優先順位に沿って、最大 4 名の代わりのジャッジを選出する。代わりのジャッジを 7 日間の通知基準で必要に応じて会場に招集しなければならない。しかし指定パネルにおける業務対応が可能な選出されたジャッジが会場で足りず、代わりのジャッジをこれ以上招集できない場合は、まだそのパネルで代表を務めておらず業務に就く意思も資格もあり対応も可能な、そして選手権の別のパネルにすでに選出されている ISU メンバーの参加ジャッジ全員で、抽選を行わなければならない。

## 7. 四大陸フィギュア・スケート選手権

- a) 四大陸の ISU メンバーは、四大陸フィギュア・スケート選手権のジャッジ・パネル構成の抽選において最優先権を有する。
- b) パネルを選出する競技の順を決めるために無作為抽選を行うが、ペア競技のパネルは最後に選出しなければならない。



- c) 9 の ISU メンバーが四大陸 ISU メンバーすべての中から選出されるが、それは個別の競技についてジャッジを人数でエントリーしており、なおかつ直前の年の四大陸フィギュア・スケート選手権の同じ競技にスケーター/ペア/カップルとともに参加した ISU メンバーで、当該スケーター/ペア/カップルが少なくとも 1 つのセグメントを終えていた場合である（第 4 項 a も参照）。

【\* 訳注：原文では b から d に項番号が飛んでいるが、b の直後のパラグラフに対する“c”の表記漏れと推察されるため、和訳では項番号 c を追加。】

- d) 四大陸の各 ISU メンバーからのジャッジが、最大 9 名のジャッジで 1 つのパネルを揃えるに足りない場合は、四大陸の全 ISU メンバーが当該抽選に参加するが、そうした ISU メンバーが第 2 項および 3 項についてジャッジを名前でエントリーしていることが条件である。

- e) しかし、ペア競技のパネルなど第 1 セグメントのパネルを務めることのできるジャッジが四大陸の ISU メンバー間で足りない場合は、いずれかのパネルにすでに選出されている四大陸の全 ISU メンバーでなおかつ自らのジャッジがペア・スケーティングにも対応可能であることを表明しているメンバーが、ペア競技のパネルを揃えるうえで優先権を持つ。ペア競技の第 1 セグメントに選出される対応可能なジャッジがまだ足りない場合は、ジャッジ・パネルを揃えるために欧州メンバーから追加的 ISU メンバーを選出する必要がある。

- f) 選手権の各第 1 セグメントの抽選すべてについて、第 7 項 d) および e) に述べた手順に従う。第 2 セグメントについて最大 4 名のジャッジを選出可能な ISU メンバーがまだ足りない場合は、エントリーしており当該競技に適任なものまだ当該パネルで代表を務めていない全 ISU メンバーの中で、優先順位に沿って、最大 4 名の代わりのジャッジを選出する。

- g) 選手権の各競技の第 1 セグメントおよび第 2 セグメントについてジャッジ・パネルの席順の追加抽選を会場で行う。パネルのジャッジはそのままである。

8. a) 例外的なケースでは、フィギュア・スケート会長は本規定の適用において変更を認可することができる。会長にタイミング良く連絡がつかない場合は、フィギュア・スケート副会長が特別な事情における変更を認可してよい。選手権会場でフィギュア・スケート会長、副会長ともに不在の場合は ISU 代表者が特別な事情における変更を認可してよい。

- b) 追加エントリーには、本規定に含まれる締め切りすべてに関し規定 115 第 6 項が適用となる。

# SPECIAL REGULATIONS & TECHNICAL RULES

## SINGLE&PAIR SKATING and ICE DANCE 2016

# I. 滑走グループの規模 規定 513

選手数	シングル フリー・スケーティング 最大 6	ペア フリー・スケーティング 最大 4	フリー・ダンス 最大 5
2	1+1	1+1	1+1
3	1+2	1+2	1+2
4	2+2	2+2	2+2
5	2+3	2+3	2+3
6	3+3	3+3	3+3
7	3+4	3+4	3+4
8	4+4	4+4	4+4
9	4+5	3+3+3	4+5
10	5+5	3+3+4	5+5
11	5+6	3+4+4	3+4+4
12	6+6	4+4+4	4+4+4
13	4+4+5	3+3+3+4	4+4+5
14	4+5+5	3+3+4+4	4+5+5
15	5+5+5	3+4+4+4	5+5+5
16	5+5+6	4+4+4+4	4+4+4+4
17	5+6+6	3+3+3+4+4	4+4+4+5
18	6+6+6	3+3+4+4+4	4+4+5+5
19	4+5+5+5	3+4+4+4+4	4+5+5+5
20	5+5+5+5	4+4+4+4+4	5+5+5+5
21	5+5+5+6	3+3+3+4+4+4	4+4+4+4+5
22	5+5+6+6	3+3+4+4+4+4	4+4+4+5+5
23	5+6+6+6	3+4+4+4+4+4	4+4+5+5+5
24	6+6+6+6	4+4+4+4+4+4	4+5+5+5+5
25	5+5+5+5+5	3+3+3+4+4+4+4	5+5+5+5+5
26	5+5+5+5+6	3+3+4+4+4+4+4	4+4+4+4+5+5
27	5+5+5+6+6	3+4+4+4+4+4+4	4+4+4+5+5+5
28	5+5+6+6+6	4+4+4+4+4+4+4	4+4+5+5+5+5
29	5+6+6+6+6	3+3+3+4+4+4+4+4	4+5+5+5+5+5
30	6+6+6+6+6	3+3+4+4+4+4+4+4	5+5+5+5+5+5
31	5+5+5+5+5+6	3+4+4+4+4+4+4+4	4+4+4+4+5+5+5
32	5+5+5+5+6+6	4+4+4+4+4+4+4+4	4+4+4+5+5+5+5
33	5+5+5+6+6+6	3+3+3+4+4+4+4+4+4	4+4+5+5+5+5+5
34	5+5+6+6+6+6	3+3+4+4+4+4+4+4+4	4+5+5+5+5+5+5
35	5+6+6+6+6+6	3+4+4+4+4+4+4+4+4	5+5+5+5+5+5+5
36	6+6+6+6+6+6	4+4+4+4+4+4+4+4+4	4+4+4+4+5+5+5+5

## Ⅱ. 滑走グループの規模 規定 514

選手数	シングル ショート・プログラム フリー・スケートニング 最大 6	ペア ショート・プログラム フリー・スケートニング 最大 4	パターン・ダンス、 ショート・ダンス、 フリー・ダンス 最大 5
4	4	4	4
5	5	2+3	5
6	6	3+3	3+3
7	3+4	3+4	3+4
8	4+4	4+4	4+4
9	4+5	3+3+3	4+5
10	5+5	3+3+4	5+5
11	5+6	3+4+4	3+4+4
12	6+6	4+4+4	4+4+4
13	4+4+5	3+3+3+4	4+4+5
14	4+5+5	3+3+4+4	4+5+5
15	5+5+5	3+4+4+4	5+5+5
16	5+5+6	4+4+4+4	4+4+4+4
17	5+6+6	3+3+3+4+4	4+4+4+5
18	6+6+6	3+3+4+4+4	4+4+5+5
19	4+5+5+5	3+4+4+4+4	4+5+5+5
20	5+5+5+5	4+4+4+4+4	5+5+5+5
21	5+5+5+6	3+3+3+4+4+4	4+4+4+4+5
22	5+5+6+6	3+3+4+4+4+4	4+4+4+5+5
23	5+6+6+6	3+4+4+4+4+4	4+4+5+5+5
24	6+6+6+6	4+4+4+4+4+4	4+5+5+5+5
25	5+5+5+5+5	3+3+3+4+4+4+4	5+5+5+5+5
26	5+5+5+5+6	3+3+4+4+4+4+4	4+4+4+4+5+5
27	5+5+5+6+6	3+4+4+4+4+4+4	4+4+4+5+5+5
28	5+5+6+6+6	4+4+4+4+4+4+4	4+4+5+5+5+5
29	5+6+6+6+6	3+3+3+4+4+4+4+4	4+5+5+5+5+5
30	6+6+6+6+6	3+3+4+4+4+4+4+4	5+5+5+5+5+5
31	5+5+5+5+5+6	3+4+4+4+4+4+4+4	4+4+4+4+5+5+5
32	5+5+5+5+6+6	4+4+4+4+4+4+4+4	4+4+4+5+5+5+5
33	5+5+5+6+6+6	3+3+3+4+4+4+4+4+4	4+4+5+5+5+5+5
34	5+5+6+6+6+6	3+3+4+4+4+4+4+4+4	4+5+5+5+5+5+5
35	5+6+6+6+6+6	3+4+4+4+4+4+4+4+4	5+5+5+5+5+5+5
36	6+6+6+6+6+6	4+4+4+4+4+4+4+4+4	4+4+4+4+5+5+5+5

### Ⅲ. 技術規程

#### シングル&ペア・スケーティング、アイス・ダンス

##### A. シングル&ペア・スケーティングの要素

###### 規定 600-609 (留保)

###### 規定 610 シングル&ペア・スケーティングの要素の要件、および違反となる要素/動作

###### ジャンプ要素

「ジャンプ要素」は、単独ジャンプ、ジャンプ・コンビネーション、またはジャンプ・シーケンスと定義される。

###### ジャンプ・コンビネーション

ジャンプ・コンビネーションでは、ジャンプの着氷足が次のジャンプの踏み切り足となる。ジャンプとジャンプの間に氷上で完全に 1 回転した場合（フリー・フットは氷に触れてもよいが、体重移動がないこと）、その要素はジャンプ・コンビネーションの定義の枠内に入っている。複数のジャンプをリストに記載のないジャンプでつなぐ場合、その要素はジャンプ・シーケンスとコールされる。しかしハーフ・ループをコンビネーション/シーケンスで用いると、シングル・ループの価値を持つリスト記載ジャンプとみなされる。

2 つのジャンプから成るジャンプ・コンビネーションの第 1 ジャンプを失敗し「リスト外ジャンプ」となった場合、それでもそのユニットはジャンプ・コンビネーションとみなされる。

###### ジャンプ・シーケンス

ジャンプ・シーケンスは、いかなる回転数のいかなるジャンプからの構成でもよく、ジャンプのリズム（膝）を保ちながら、ジャンプ同士をリスト外ジャンプおよび/またはホップで直接つなげてよい。シーケンス中にはターン/ステップ、クロスオーバー、またはストロークがないこと（ターンとは、スリー・ターン、ツイズル、ブラケット、ループ、カウンター、ロッカーである。ステップとは、トゥ・ステップ、シャッセ、モホーク、チョクトー、エッジの変更を伴うカーブ、クロス・ロールである）。

リスト記載ジャンプただ 1 つと他のリスト外ジャンプとで構成されるジャンプ・シーケンスは、ジャンプ・シーケンスとはみなされないが、ソロ・ジャンプとしてカウントされる。

###### スピン

姿勢: 3 つの基本姿勢がある: キャメル（フリー・レッグが後方にあり、膝がヒップの位置より高い。ただしレイバック、ビールマン、および類似の変形姿勢はそれでもアップライト・スピンとみなす）、シット（スケーティング・レッグの太腿部が少なくとも氷に平行）、アップライト（スケーティング・レッグを真っ直ぐにするか少し曲げた状態で行うあらゆる姿勢だがキャメル姿勢

ではない)。

レイバック・スピンとは、頭と両肩が後ろに傾き背中が弓なりに反ったアップライト・スピンである。フリー・レッグの位置は自由である。サイドウェイズ・リーニング・スピンとは、頭と両肩が横に傾き上体が弓なりに反ったアップライト・スピンである。フリー・レッグの位置は自由である。

2回転の基本姿勢を伴わないスピンはレベルがつかず無価値となるが、3回転未満のスピンはスケート動作とみなされスピン扱いされない。

1つの姿勢で必要な最少回転数は、途切れない2回転である。この要件を満たさない場合、その姿勢はカウントされない。

どのスピンにおいても、エッジの変更は基本姿勢の中で行った場合にのみカウントされる。

頭、両腕、またはフリー・レッグの位置の変化もスピードの変化も許可されている。

どのスピンにおける足換えでも、その前後にスピン姿勢が少なくとも3回転なければならない。スケーターがスピンの入りで転倒した場合、転倒直後のスピンまたは回転動作は(時間を埋める目的で)許可されるが、このスピン/動作は要素としてはカウントされない。

(足換えの前後の)回転軸が離れすぎ、「2つのスピン」の基準(第1部分の後に、出(エグジット)のカーブと第2部分への入り(エントリー)のカーブがある)を満たす場合は、足換えの前の部分だけがコールされレベル特長を考慮される。

スピン・コンビネーション: 少なくとも2つの異なる基本姿勢を含まなければならない。スピン中のどこかでこれらの姿勢をそれぞれ2回転ずつしなければならない。最大価値を得るためには、スピン・コンビネーションに3つの基本姿勢すべてを含めなければならない。非基本姿勢の回転数は総回転数にカウントされる。非基本姿勢への変更は、姿勢の変更とはみなされない。足換えはステップ・オーバーまたはジャンプの形で行ってよい。足換えや姿勢変更を行うのは同時または別々のいずれでもよい。

[2016年版にて下線部を追加。](#)

単一姿勢のスピント(シングルでの)フライング・スピン(足換えや姿勢変更のない、フライング・エントランスのスピンを意味する): 非基本姿勢は許可され、規定で要求されている総回転数にカウントされるが、レベル特長には無効である。

単一姿勢のスピントとフライング・スピントで、スピン終了時のアップライト姿勢(ファイナル・ワインドアップ)は、ファイナル・ワインドアップにおいて(エッジの変更、姿勢の変形などの)追加特長を何も行わない限り、回転数にかかわらず別姿勢とはみなされない

スピントをジャンプで始める場合、踏み切り前の氷上での回転は許可されず、ステップ・オーバーはジャッジが出来栄え点で考慮しなければならない。

## ステップ・シーケンス

すべてのステップ・シーケンスを音楽の特徴に合わせて行わなければならない。音楽に合った短い停止は許可される。ステップ・シーケンスでは氷面を十分に活用しなければならない。ターンおよびステップはシーケンス全体にバランスよく分布していなければならない。

### 違反となる要素/動作とは：

- サマーソルト（宙返り）ジャンプ
- 不正なホールドでのリフト
- 男子が  $3\frac{1}{2}$  以上の回転をするリフト
- 男子が女子の手または足を持って空中で女子を振り回す回転動作
- 女子のスケーティング・フットが氷から離れた状態で女子が転がる時の、ツイストのような動き、または回転動作
- パートナーが他のパートナーの脚、腕、首をつかんで回転動作をする
- パートナーが他のパートナーの方へジャンプする
- いつ何時も、氷上に寝そべったり、長いことおよび/または静止状態で両膝を氷上についたりする

## B. シングル・スケーティング

### 規定 611 ショート・プログラム・シングル

- a) シングル・スケーティングのショート・プログラム（シニアおよびジュニア）は7つの必須要素から成る。要素のつながりは自由である。
- b) 認められている最大時間よりプログラムを延長してもそれが不必要である場合は、追加点は得られない。音楽は各選手が選び、歌詞付きのボーカル音楽は許可される。
- c) もし、（演じた）任意要素または余分な要素が（演じていない）必須要素の代わりとなる場合は、各ボックスは占められ、この演じた要素は要件に合っていない（無価値）とみなされる。
- d) ジャンプ、スピン、ステップなどのリスト外の要素や余分な要素、または繰り返しは、失敗した要素であっても採点されず、結果的に他の種類の要素の「ボックス（枠）」を占めない。  
2016 年版にて、「任意要素」を「リスト外の要素」に変更。  
また前述の c と d は、2014 年版までは 1 つの項であった。

2. シニアのショート・プログラムは下記の必須要素から成ることとする：

## 男子

- a) ダブルまたはトリプル・アクセル
- b) コネクティング・ステップおよび/またはそれと同等の他のフリー・スケートイング動作から直ちに行うトリプルまたはクワドラプル・ジャンプ
- c) 1つのダブル・ジャンプと1つのトリプル・ジャンプ、または2つのトリプル・ジャンプ、または1つのクワドラプル・ジャンプと1つのダブルあるいはトリプル・ジャンプから成るジャンプ・コンビネーション
- d) フライング・スピン
- e) 足換え1回のみのキャメル・スピンまたはシット・スピン
- f) 足換え1回のみのスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

## 女子

- a) ダブルまたはトリプル・アクセル
- b) コネクティング・ステップおよび/またはそれと同等の他のフリー・スケートイング動作から直ちに行うトリプル・ジャンプ
- c) 1つのダブル・ジャンプと1つのトリプル・ジャンプ、または2つのトリプル・ジャンプから成るジャンプ・コンビネーション
- d) フライング・スピン
- e) レイバック/サイドウエイズ・リーニング・スピン、または足換えなしのシットもしくはキャメル・スピン
- f) 足換え1回のみのスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

2016年版にて下線部を追加。

3. ジュニアのショート・プログラムは下記の必須要素から成ることとするが、3つのグループに分かれる。各年の7月1日より有効なグループは：

### 2016-2017

#### 男子

- a) ダブルまたはトリプル・アクセル
- b) コネクティング・ステップおよび/またはそれと同等の他のフリー・スケートイング動作から直ちに行うダブルまたはトリプル・ループ・ジャンプ
- c) 1つのダブル・ジャンプと1つのトリプル・ジャンプ、または2つのトリプル・ジャンプから成るジャンプ・コンビネーション
- d) フライング・キャメル・スピン
- e) 足換え1回のみのシット・スピン
- f) 足換え1回のみのスピン・コンビネーション



- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

女子

- a) ダブル・アクセル
- b) コネクティング・ステップおよび/またはそれと同等の他のフリー・スケーティング動作から直ちに行うダブルまたはトリプル・ループ・ジャンプ
- c) 2つのダブル・ジャンプ、または1つのダブル・ジャンプと1つのトリプル・ジャンプ、または2つのトリプル・ジャンプから成るジャンプ・コンビネーション
- d) フライング・キャメル・スピン
- e) レイバック/サイドウエイズ・リーニング・スピン または足換えなしのシット・スピン
- f) 足換え1回のみのスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

2016年版にて下線部を追加。

## **2017-2018**

男子

- a) ダブルまたはトリプル・アクセル
- b) コネクティング・ステップおよび/またはそれと同等の他のフリー・スケーティング動作から直ちに行うダブルまたはトリプル・ルッツ・ジャンプ
- c) 1つのダブル・ジャンプと1つのトリプル・ジャンプ、または2つのトリプル・ジャンプから成るジャンプ・コンビネーション
- d) フライング・シット・スピン
- e) 足換え1回のみのキャメル・スピン
- f) 足換え1回のみのスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

女子

- a) ダブル・アクセル
- b) コネクティング・ステップおよび/またはそれと同等の他のフリー・スケーティング動作から直ちに行うダブルまたはトリプル・ルッツ・ジャンプ
- c) 2つのダブル・ジャンプ、または1つのダブル・ジャンプと1つのトリプル・ジャンプ、または2つのトリプル・ジャンプから成るジャンプ・コンビネーション
- d) フライング・シット・スピン
- e) レイバック/サイドウエイズ・リーニング・スピン または足換えなしのキャメル・スピン
- f) 足換え1回のみのスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

## **2018-2019**

### 男子

- a) ダブルまたはトリプル・アクセル
- b) コネクティング・ステップおよび/またはそれと同等の他のフリー・スケーティング動作から直ちに行うダブルまたはトリプル・フリップ・ジャンプ
- c) 1つのダブル・ジャンプと1つのトリプル・ジャンプ、または2つのトリプル・ジャンプから成るジャンプ・コンビネーション
- d) フライング・キャメル・スピン
- e) 足換え1回のみのシット・スピン
- f) 足換え1回のみのスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

### 女子

- a) ダブル・アクセル
- b) コネクティング・ステップおよび/またはそれと同等の他のフリー・スケーティング動作から直ちに行うダブルまたはトリプル・フリップ・ジャンプ
- c) 2つのダブル・ジャンプ、または1つのダブル・ジャンプと1つのトリプル・ジャンプ、または2つのトリプル・ジャンプから成るジャンプ・コンビネーション
- d) フライング・キャメル・スピン
- e) レイバック/サイドウエイズ・リーニング・スピン または足換えなしのシット・スピン
- f) 足換え1回のみのスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

## **4. 備考**

### ジャンプ

- b) シニア男子にはいかなるトリプルまたはクワドラプル・ジャンプも許可され、クワドラプル・ジャンプを c)で行う場合は、異なるクワドラプル・ジャンプをソロ・ジャンプとして含めることができる。シニア男子、ジュニア男子、シニア女子について、トリプル・アクセルを a)で行う場合は、ソロ・ジャンプとしてまたはジャンプ・コンビネーションにおいて再度行うことはできない。シニア女子にはいかなるトリプル・ジャンプも許可される。ジュニア女子、ジュニア男子には所定のダブルまたはトリプル・ジャンプのみが許可される。シングルのスプレッド・イーグル、スパイラル、またはフリー・スケーティング動作は、「コネクティング・ステップおよび/またはそれと同等の他のフリー・スケーティング動作」の要件を満たしているとはみなされず、ジャッジは出来栄点（GOE）で考慮しなければならない。

### ジャンプ・コンビネーション

- c) シニア男子においてジャンプ・コンビネーションは同一ジャンプまたは別のダブル、トリプ

ル、あるいはクワドラブル・ジャンプから成る。シニア男子においてクワドラブル・ジャンプを b)で行う場合は、異なるクワドラブル・ジャンプをジャンプ・コンビネーションに含めることができる。シニア女子、ジュニア男子、ジュニア女子においてジャンプ・コンビネーションは同一ジャンプ、または別のダブルあるいはトリプル・ジャンプから成る。しかし全カテゴリーについて、含まれるジャンプはソロ・ジャンプと異なるものでなければならない。

同一ジャンプをソロ・ジャンプとして、およびジャンプ・コンビネーションの一部として行った場合、その繰り返したジャンプはカウントされない（この繰り返しがジャンプ・コンビネーションの場合は、前述の要件に従わない個別のジャンプのみがカウントされない）。

2016 年版にて、同一ジャンプを行った場合の規定を変更。

変更前：「これらのジャンプ要素のうち後に行ったものはカウントされないが、ジャンプのボックスを占める（この要素がジャンプ・コンビネーションの場合はジャンプ・コンビネーション全体がカウントされない）。」

## スピン

単一姿勢のスピンとスピン・コンビネーション：スピン姿勢が足換えの前および/または後に少なくとも 3 回転なければ、そのスピンは要件に合っておらず無価値となる。

フライング・スピンを除き、スピンをジャンプで始めることはできない。

### d) フライング・スピン

シニア：単一姿勢のスピンとは異なる着氷姿勢のあらゆる種類のフライング・スピスが許可される。

ジュニア：前述の種類のフライング・スピンのみ許可される。

2016 年版にて、ジュニアに関する規定を変更。

変更前：「着氷姿勢での最低限度の 8 回転は、空中姿勢と同じでなければならない。踏み切り前の氷上での回転は許可されない。フライング・シット・スピスがショート・プログラムにおいて必須の場合、所定の「フライング」姿勢またはその変形姿勢のみが許可され、この姿勢は空中で達成されなければならない、着氷時の足換えは許可される。」

シニアおよびジュニア：ステップ・オーバーはジャッジが出来栄え点で考慮しなければならない。着氷姿勢での最低限度の 8 回転は、空中姿勢とは異なってもよい。踏み切り前の氷上での回転は許可されない。必須の 8 回転は着氷姿勢のいかなる変形姿勢で行ってもよい。

下線部は、2014 年版まではシニアのみに適用だったが、2016 年版にてジュニアにも適用。

### e) 単一姿勢でのスピン

2016 年版にて下線部を追加。

男子- 足換え 1 回のみのスピン

シニア：選手は、キャメル姿勢とシット姿勢のどちらを行うか選択しなければならないが、この姿勢はフライング・スピンの着氷姿勢と異なるものでなければならない。そのスピンは足換え 1 回のみで構成されなければならない、各足 6 回転以上で、ステップ・オーバーまたはジャンプの形で行ってよい。

ジュニア：所定のシットまたはキャメル姿勢のみが許可される。そのスピンは足換え 1 回のみで構成されなければならない、各足 6 回転以上で、ステップ・オーバーまたはジャンプの形で行ってよい。

e) 女子・レイバックまたはサイドウェイズ・リーニング・スピン

基本のレイバックまたはサイドウェイズ・リーニング姿勢が、アップライト姿勢に起き上がってしまうことなく 8 回転保たれていれば、いかなる姿勢も許可される。必須の 8 回転の後は、ビールマン姿勢を行うことができる。足換えは許可されない。

2016 年版にて下線部を追加。

女子・足換えなしの単一姿勢でのスピン

選んだ姿勢のいかなる変形姿勢も実行してよい。この姿勢で少なくとも 8 回転する。

2016 年版にて下線部を追加。

男子および女子について：フライング・スピンの着氷姿勢が単一姿勢のスピンの場合、これらの 2 つのスピンのうち後に行ったものはカウントされないが、スピンのボックスを占める。

下線部は、2014 年版まではシニア男子のみに適用だったが、2016 年版にて男子および女子に適用。

f) スピン・コンビネーション

スピン・コンビネーションには足換え 1 回のみで各足 6 回転以上を含まなければならない。足換えをステップ・オーバーまたはジャンプの形で行ってよい。足換えや姿勢変更を行うのは同時または別々のいずれでもよい。スピン・コンビネーションについての一般要件は規定 610 を参照のこと。

2016 年版にて、スピン・コンビネーションに含む要件から「少なくとも 2 つの異なる基本姿勢を含まなければならない、これらの姿勢はそれぞれ 2 回転ずつ必要であり（各姿勢で 2 回転を伴う基本姿勢が 3 つに満たない場合、これはスピンの価値に反映される）」を削除。

また、下線部を追加。

ステップ・シーケンス

ステップ・シーケンスにはリスト外ジャンプを含めてもよい。

2016 年版にて、「スパイラル：スパイラル・シーケンスはもはや女子ショート・プログラムの要素ではないが、スパイラルを行うと「要素のつながり」で功が認められる。」を削除。

#### 規定 612 フリー・スケーティング・シングル

1. フリー・スケーティングは選手の選んだ音楽に合った、バランスの取れたフリー・スケーティング要素、例えばジャンプ、スピン、ステップ、および最小限の両足スケーティングで行うその他のつながりの動作から成り、歌詞付きのボーカル音楽は許可される。

#### シニアのバランスの取れたプログラム

男子のバランスの取れたフリー・スケーティング・プログラムには下記のものを含まなければならない：

- ・最大 8 つのジャンプ要素（うち 1 つはアクセル型のジャンプでなければならない）
- ・最大 3 つのスピン、うち 1 つはスピン・コンビネーション、1 つはフライング・スピンまたはフライング・エントランスのスピン、1 つは単一姿勢のみのスピンでなければならない
- ・最大 1 つのステップ・シーケンス
- ・最大 1 つのコレオグラフィック・シーケンス

女子のバランスの取れたフリー・スケーティング・プログラムには下記のものを含まなければならない：

- ・最大 7 つのジャンプ要素（うち 1 つはアクセル型のジャンプでなければならない）
- ・最大 3 つのスピン、うち 1 つはスピン・コンビネーション、1 つはフライング・スピンまたはフライング・エントランスのスピン、1 つは単一姿勢のみのスピンでなければならない
- ・最大 1 つのステップ・シーケンス
- ・最大 1 つのコレオグラフィック・シーケンス

#### ジュニアのバランスの取れたプログラム

男子のバランスの取れたフリー・スケーティング・プログラムには下記のものを含まなければならない：

- ・最大 8 つのジャンプ要素（うち 1 つはアクセル型のジャンプでなければならない）

- ・最大3つのスピン、うち1つはスピン・コンビネーション、1つはフライング・スピン  
またはフライング・エントランスのスピン、1つは単一姿勢のみのスピンでなければならない

- ・最大1つのステップ・シーケンス

女子のバランスの取れたフリー・スケーティング・プログラムには下記のものを含めなければならない：

- ・最大7つのジャンプ要素（うち1つはアクセル型のジャンプでなければならない）

- ・最大3つのスピン、うち1つはスピン・コンビネーション、1つはフライング・スピン  
またはフライング・エントランスのスピン、1つは単一姿勢のみのスピンでなければならない

- ・最大1つのステップ・シーケンス

2018-2019 シーズンより、シニアおよびジュニアのバランスの取れたプログラムにおいて最大7つのジャンプ要素が開始となる。

[2016 年版にて下線部を追加。](#)

## 2. 一般

どのようなフリー・スケーティング要素を選択するかはまったく選手の自由であり、その合計がプログラムを構成する。

すべての要素を、異なる性質のコネクティング・ステップおよびそれと同等の他のフリー・スケーティング動作でつなぎ合わせる一方、氷面全体を十分に活用する（フォワードおよびバックワードのクロスオーバーは、コネクティング・ステップとはみなされない）。

いかなる余分な要素、または所定の数を超す要素も、選手の結果にはカウントされない。1つの要素の1回目の試行（または許可された試行回数）だけが考慮される。

### 備考

シングルのフリー・プログラムすべてに、下記のもものが適用となる：

#### 単独ジャンプ

単独ジャンプはいかなる回転数でもよい。

ジャンプ・コンビネーションおよびジャンプ・シーケンス

ジャンプ・コンビネーションは同一または異なるシングル、ダブル、トリプル、あるいはクワドラプル・ジャンプで構成することができる。フリー・プログラムでは 3 つまでジャンプ・コンビネーションまたはジャンプ・シーケンスがあってもよい。1 つのジャンプ・コンビネーションは最大 3 つのジャンプで、そして他の 2 つのジャンプ・コンビネーションは最大 2 つのジャンプで構成してよい。

#### 繰り返し：

(ダブル・アクセルを含む) いかなるダブル・ジャンプも、(ソロ・ジャンプとして、またはコンビネーション/シーケンスの一部としてであっても) シングルのフリー・プログラムに合計 2 回を超えて入れてはならない。すべてのトリプルおよびクワドラプル・ジャンプのうち 2 種類のみを 2 回行うことができる。これら 2 回行ったうち少なくとも 1 つがジャンプ・コンビネーションまたはジャンプ・シーケンスの場合は、行った両方ともが通常の方法で評価される。行った両方ともがソロ・ジャンプの場合は、これらのソロ・ジャンプのうち 2 つ目が本来の基礎値の 70% になる。同じ名称のトリプルおよびクワドラプル・ジャンプは、2 種類の異なるジャンプとみなされる。いかなるトリプルまたはクワドラプル・ジャンプも 2 回を超えて試みることはできない。

2016 年版にて「3 つ目の繰り返しジャンプをコンビネーションまたはシーケンスで行った場合、コンビネーションまたはシーケンス全体が余分な要素として扱われ、したがって考慮されない (が、ジャンプ要素ボックスが 1 つ空いていればこの要素はボックスを占める)。」を削除。

#### 余分なジャンプおよびジャンプ要素

余分なジャンプを行った場合は、要件に沿わない個別のジャンプのみが無価値となる。そのジャンプは実施順に考慮される。

2016 年版にて下線部を追加。

#### スピン

すべてのスピンは異なる性質のものでなければならない。いかなるスピンも、それ以前に行ったスピンと同じ性質 (省略) のものであれば削除される (が、1 つのスピン・ボックスを占める)。スピンは必須の最少回転数を回らなければならない：フライング・スピンおよび単一姿勢のみのスピンは 6 回転、スピン・コンビネーションは 10 回転であり、回転数不足をジャッジは採点に反映しなければならない。必須の最少回転数は、スピンの入りから出までカウントされなければならない (単一姿勢のスピンおよびフライング・スピンのファイナル・ワインドアップは除く)。スピン・コンビネーションおよび単一姿勢のスピンにおいては、足換えは任意である。

2016 年版にて「スピン・コンビネーションにおいては、異なる姿勢の数は自由である。」を削除。

#### ステップ

どのような種類のステップ・シーケンスを行うかの選択はまったく選手の自由である。ステッ

プ・シーケンス中にジャンプを含めてもよい。しかし、ステップ・シーケンスでは氷面を十分に活用しなければならない。短すぎて、かろうじてそれと分かるようなステップ・シーケンスを、ステップ・シーケンスの要件を満たすとみなすことはできない。

#### コレオグラフィック・シーケンス

コレオグラフィック・シーケンスは、ステップ、ターン、スパイラル、アラベスク、スプレッド・イーグル、イナ・パウアー、ハイドロブレーディング、最大 2 回転までのあらゆるジャンプ、スピンなどあらゆる種類の動作から成る。コレオグラフィック・シーケンスに含まれる、リストにある要素はコールされずボックスを占めない。パターンは制限されないが、シーケンスははっきりそれと分かるものでなければならない。

テクニカル・パネルは、コレオグラフィック・シーケンスが最初のスケーティング動作で始まり（もしそのコレオグラフィック・シーケンスがプログラムの最後の要素でなければ）次の要素の準備で終了することを確認する。

この要素には固定の基礎値があり、ジャッジが GOE のみで評価する。

### C. ペア・スケーティング

#### 規定 619 ペア・スケーティングの要素の要件

##### 一般

ペア・スケーティングとは、2 人が一体になって行うスケーティングで、独立したシングル・スケーティングに比べて正真正銘ペア・スケーティングの印象を与えるような互いに調和の取れた動作を行う。ふさわしいパートナー選びに注意を払うべきである。

すべての要素を、さまざまな姿勢やホールドを交えながら、異なる性質のコネクティング・ステップおよびそれと同等の他のフリー・スケーティング動作でつなぎ合わせる一方で、氷面全体を十分に活用する。

- a) 両パートナーは常に同じ動作を行う必要はなく、時々離れてもよいが、プログラム構成やスケーティングに一体感や調和のある印象を与えなければならない。完全に両足で行う動作は最小限にとどめなければならない。
- b) これらの規定のために、リフトとは完全なリフトを意味し、持ち上げている腕が伸びきっていることを当該リフトの種類に求められていれば、それも含めて完全なリフトを意味する。特徴に上げ下げまたは回転のいずれかがあり男子が肩より高く手を上げないスモール・リフトも、また、女子の脚をつかむことも含めた動作も許可される
- c) 男子が女子の手または足を持って空中で女子を振り回す回転動作は違反である。パートナー



が他のパートナーの方へジャンプしたり、パートナーが他のパートナーの脚、腕、首をつかんで回転動作をしたりするのも違反である。とはいえ、女子が男子の周りを回る、いわゆるデス・スパイラルは許可される。デス・スパイラルの間中ずっと、女子の片方のブレードが氷上にとどまっていなければならない。女子のスケーティング・フットが氷から離れた状態で女子が1回転以上転がる時の、ツイストのような動き、または回転動作は禁止されている。プログラムを通じて動作を複数行っても、どちらのブレードも氷上になければペナルティが科せられなければならない。

- d) 調和の取れたステップおよびつなぎの動作を、音楽に合わせて、プログラムの間中ずっと保たなければならない。

### リフト

ペア・リフトは次のとおり分類される：

グループ 1 – アームピット・ホールド・ポジション

グループ 2 – ウェスト・ホールド・ポジション

グループ 3 – ハンド・トゥ・ヒップまたは大腿部（膝上）ポジション

グループ 4 – ハンド・トゥ・ハンド・ポジション（プレス・リフト・タイプ）

グループ 5 – ハンド・トゥ・ハンド・ポジション（ラッソー・リフト・タイプ）

リフトのグループは、女子が男子の肩を通過する瞬間のホールドで決まる。グループ 3-5 においては、持ち上げている腕が伸びきっていることが必須である。

男子の回転は少なくとも1回転、そして多くとも3½回転である。

両パートナーはハンド・トゥ・ハンド、ハンド・トゥ・アーム、ハンド・トゥ・ボディ、および大腿部（膝上）をつかんでいる場合のみ、互いに支えてもよい。ホールドの変更とは、こうしたつかみ方の1つから別のつかみ方へ、またはワン・ハンド・ホールドにおいて片方の手からもう片方の手へ移ることを意味する。リフト中のホールドの変更は許可される。

2016 年版にて「しかし、もし男子が1回転未満でホールドを変更する場合は、「ホールドの変更」とはみなされない。ワン・ハンド・ホールドおよび/またはワン・ハンド・ランディングがレベル特長としてカウントされるのは、男子が片手を使い、なおかつ女子が片手を使うか両手を使わない場合に限られる。」を削除。

女子の姿勢は次のとおり分類される：アップライト（女子の上体が垂直）、スター（女子の姿勢が横向きで、上体が氷と並行）、およびプラッター（女子の姿勢が仰向きまたはうつ伏せで平らになり、上体が氷と並行）である。姿勢の変更は、こうした姿勢の1つから別の姿勢へ移ることを意味する（各姿勢において完全に1回転する）。

2016 年版にて「ホールドの変更および女子の姿勢の変更を同時に行った場合は、レベル特長が 1 つだけ与えられる。」を削除。

リフトの終了は、男子の腕が伸びきった後で曲がり始め、それにより女子が下り始めた時である。  
(離氷または着氷に関するものを除き) レベル特長は、男子の腕が伸びきった瞬間からリフト終了までを考慮される。男子に許可されている  $3\frac{1}{2}$  回転は、女子が氷を離れた瞬間からリフト終了までカウントされる。

#### ツイスト・リフト

男子は、女子が着氷する前に女子の腰を空中でキャッチし、片足のバックワード・アウトサイド・エッジでスムーズに着氷する手助けをしなければならない。

2016 年版にて「ツイスト・リフトにおいては、回転前に女子がスプリット姿勢を取るのは必須ではない。」を削除。

#### スロー・ジャンプ

スロー・ジャンプは、離氷の際に女子を男子が空中に投げ、女子がパートナーの支えなしにバックワード・アウトサイド・エッジで着氷するパートナー・アシストのジャンプである。

#### ソロ・ジャンプ、ジャンプ・コンビネーション、およびジャンプ・シーケンス

ソロ・ジャンプとして、またはコンビネーションあるいはシーケンスの一部として行ったジャンプにおいて両パートナーの回転数が同じでない場合、このジャンプはパートナーがより少ない回転数を行ったジャンプとしてコールされる。

#### ソロ・スピン・コンビネーション

ソロ・スピン・コンビネーションでは、両パートナーとも少なくとも 2 つの異なる基本姿勢を含まなければならない、スピンのどこかでこれらの姿勢をそれぞれ 2 回転ずつしなければならない。最大価値を得るためには、両パートナーともスピン・コンビネーションに 3 つの基本姿勢すべてを含めなければならない。

ソロ・スピン・コンビネーションはジャンプから開始してもよい。

2016 年版にて下線部を追加。

#### ペア・スピン・コンビネーション

ペア・スピン・コンビネーションでは、両パートナーとも少なくとも 2 つの異なる基本姿勢を含まなければならない、スピンのどこかでこれらの姿勢をそれぞれ 2 回転ずつしなければならない。最大価値を得るためには、両パートナーともスピン・コンビネーションに 3 つの基本姿勢すべてを含めなければならない。

ペア・スピン・コンビネーションでは両パートナーについて少なくとも足換え 1 回および姿勢

変更 1 回を含めなければならない。

両パートナーが足換えまたは姿勢変更をまったく行わない場合、その要素は無価値となる。

2016 年版にて下線部を追加。

### デス・スパイラル

最終姿勢において女子が実際デス・スパイラルを行っている間、男女共に少なくとも 1 回転しなければならない。その時男子の膝は明らかに曲がり完全にピボット姿勢でなければならない。より高いレベルを得るためには、男子は低いピボット姿勢でいるべきである（これは男子の臀部下部がピボット・フットの膝上部より高くない場合である）。と同時に女子は身体および頭を氷面に近づけてクリーンなエッジで滑らなければならないが、頭が氷に触れたり、フリー・ハンドまたは身体のあらゆる部分で自身を支えたりしてはならない。女子の体重はスパイラル・エッジの力と男子のホールドによって支えられる。

男子は中央位置で腕を伸ばしきっていないなければならない。

スケーターのホールドが少なくとも 1 回転続く場合は、いかなる種類の姿勢も特長としてカウントされる。

### ステップ・シーケンス

一緒に、または接近して行うべきである。ステップ・シーケンスでは氷面を十分に活用しなければならない。ステップ・シーケンス中に、位置やホールドを変更したり、難しいスケーティング動作を一緒に用いたりするペアは功績を認められる。より高いレベルを得るためには、パートナー間の仕事量を均等に考慮しなければならない。

### 規定 620 ショート・プログラム・ペア

1. a) ペアのショート・プログラム（シニアおよびジュニア）は 7 つの必須要素から成る。  
要素のつながりは自由である。
- b) 認められている最大時間よりプログラムを延長してもそれが不必要である場合は、追加点は得られない。音楽は各選手が選び、歌詞付きのボーカル音楽は許可される。
- c) もし（演じた）任意要素または余分な要素が（演じていない）必須要素の代わりとなる場合は、各ボックスは占められ、この演じた要素は要件に合っていない（無価値）とみなされる。
- d) ジャンプ、スピン、ステップなどのリスト外の要素や余分な要素、または繰り返しは、失敗した要素であっても採点されず、結果的に他の種類の要素の「ボックス（枠）」を占めない。

2016 年版にて下線部を追加。

また前述の c と d は、2014 年版までは 1 つの項であった。

2. シニアのショート・プログラムは下記の必須要素から成ることとするが、3 つのグループに分かれる。各年の 7 月 1 日より有効なグループは：

**2016-2017**

- a) あらゆるラッソー・リフトの離氷（グループ 5）
- b) ツイスト・リフト（ダブルまたはトリプル）
- c) スロー・ジャンプ（ダブルまたはトリプル）
- d) ソロ・ジャンプ（ダブルまたはトリプル）
- e) 足換え 1 回のみのソロ・スピン・コンビネーション
- f) デス・スパイラル・バックワード・インサイド
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

**2017-2018**

- a) あらゆるヒップ・リフトの離氷（グループ 3）
- b) ツイスト・リフト（ダブルまたはトリプル）
- c) スロー・ジャンプ（ダブルまたはトリプル）
- d) ソロ・ジャンプ（ダブルまたはトリプル）
- e) 足換え 1 回のみのペア・スピン・コンビネーション
- f) デス・スパイラル・フォワード・インサイド
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

**2018-2019**

- a) あらゆるハンド・トゥ・ハンド・リフトの離氷（グループ 4）
- b) ツイスト・リフト（ダブルまたはトリプル）
- c) スロー・ジャンプ（ダブルまたはトリプル）
- d) ソロ・ジャンプ（ダブルまたはトリプル）
- e) 足換え 1 回のみのソロ・スピン・コンビネーション
- f) デス・スパイラル・バックワード・アウトサイド
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

3. ジュニアのショート・プログラムは下記の必須要素から成ることとするが、3 つのグループに分かれる。各年の 7 月 1 日より有効なグループは：

**2016-2017**

- a) あらゆるラッソー・リフトの離氷（グループ 5）
- b) ツイスト・リフト（ダブルまたはトリプル）
- c) ダブルまたはトリプル・トゥループまたはフリップ/ルッツのスロー・ジャンプ

- d) ダブル・ループまたはダブル・アクセルのソロ・ジャンプ
- e) 足換え 1 回のみ of ソロ・スピン・コンビネーション
- f) デス・スパイラル・バックワード・インサイド
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

#### **2017-2018**

- a) あらゆるヒップ・リフトの離氷 (グループ 3)
- b) ツイスト・リフト (ダブルまたはトリプル)
- c) ダブルまたはトリプル・ループのソロ・ジャンプ
- d) ダブル・ルッツのソロ・ジャンプ
- e) 足換え 1 回のみ of ペア・スピン・コンビネーション
- f) デス・スパイラル・フォワード・インサイド
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

#### **2018-2019**

- a) あらゆるハンド・トゥ・ハンド・リフトの離氷 (グループ 4)
- b) ツイスト・リフト (ダブルまたはトリプル)
- c) ダブルまたはトリプル・サルコウのソロ・ジャンプ
- d) ダブル・フリップまたはダブル・アクセルのソロ・ジャンプ
- e) 足換え 1 回のみ of ソロ・スピン・コンビネーション
- f) デス・スパイラル・バックワード・アウトサイド
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

#### **4. 備考**

##### **リフト**

- a) 所定のオーバーヘッド・リフトの離氷のみが許可される。

2016 年版にて「ハンド・トゥ・ハンド・ループ・リフトの離氷：両パートナーは縦に並び、バックワード・アウトサイドで、ハンド・トゥ・ハンド・ポジションでバックワード滑走する。

トゥ・ラッソー・リフトの離氷：両パートナーはラッソー・ポジションで、女子がバックワード滑走、男子がフォワード滑走する。女子はバックワード・トゥの離氷から空中へリフトされる。

トゥループ・ヒップ・リフトの離氷：両パートナーは腰をつかんで後ろ向きに滑る。女子はトゥループ・ジャンプのようにトゥを突く。男子は女子と一緒にターンする。」を削除。

##### **ツイスト・リフト**

1. ショート・プログラムでは、ツイスト・リフトの離氷は女子によるルッツまたはフリップのいずれかの離氷に限られる。空中で自由に回転する女子の回転数は、ジュニア、シニアともに2または3回転である。

#### スロー・ジャンプ

- c) シニアにはいかなるダブルまたはトリプルのスロー・ジャンプも許可される。ジュニアには所定のスロー・ジャンプのみが許可される。

#### ソロ・ジャンプ

- d) シニアにはいかなるダブルまたはトリプルのジャンプも許可される。ジュニアには所定のジャンプのみが許可される。

#### スピン

##### ソロ・スピン・コンビネーション

- e) スピン・コンビネーションには、両パートナーとも足換え1回のみで各足5回転以上を含まなければならない。足換えをステップ・オーバーまたはジャンプの形で行ってよい。足換えや姿勢変更を行うのは同時または別々のいずれでもよい。

2016年版にて、スピン・コンビネーションの要件を変更。

変更前：「ショート・プログラムでのソロ・スピン・コンビネーションは、2つの異なる基本姿勢で少なくとも2回転しなければならない。各姿勢で2回転を伴う基本姿勢が各パートナーにつき3つに満たない場合、これはスピンの価値に反映される。」

##### ペア・スピン・コンビネーション

- e) ペア・スピン・コンビネーションには、足換え1回のみで合計して8回転以上を含めなければならない。足換えは両パートナー同時に行わなければならない。姿勢変更はパートナーが同時または別々に行ってよい。回転は連続的でなければならない、停止してはならない。スピン・コンビネーションをジャンプから開始してはならない。

2016年版にて、スピン・コンビネーションの構成要件から「少なくとも1回の姿勢変更（シット、キャメル、アップライト、またはそのあらゆる変形姿勢）」を削除。

さらに、「スピン・コンビネーションには、少なくとも2つの基本姿勢またはその変形姿勢を両パートナーとも含めなければならない。」を削除。

また、足換えについて「両パートナー同時に行わなければならない」と「同時または別々のいずれでもよい」の相反する規定が混在していたため、「両パートナー同時に行わなければならない」こととした。

#### デス・スパイラル

- f) 所定のデス・スパイラルのみが許可される。

デス・スパイラル・バックワード・アウトサイド：

両パートナーともバックワード・アウトサイド・エッジで滑る。男子はピボットを行いスケーティング・フットと同じ側の腕を伸ばしきって女子の手を握る。女子は氷を背にしてそり返り、腕を伸ばしきって男子の周りをこの姿勢で回る。男子の姿勢、進行方向、エッジのいかなるバリエーションも許可されるが、それは記載のとおり男子がピボット姿勢を保ち女子が男子の周りをアウトサイド・エッジで回る場合である。

デス・スパイラル・フォワード・インサイド：

男子はバックワード・アウトサイド・エッジで、女子はフォワード・インサイド・エッジで滑る。男子はピボットを行いスケーティング・フットと同じ側の腕を伸ばしきって女子の手を握る。女子は氷に対して横向きにそり返り、腕も伸ばしきって男子の周りをこの姿勢で回る。男子の姿勢、進行方向、エッジのいかなるバリエーションも許可されるが、それは記載のとおり男子がピボット姿勢を保ち女子が男子の周りをインサイド・エッジで回る場合である。

デス・スパイラル・バックワード・インサイド：

女子は男子の周りを安定したバックワード・インサイド・エッジで氷を背にして腕を伸ばしきってそり返りながら回る。

2016 年版にて下線部を追加。

また、「デス・スパイラル・バックワード・アウトサイドと同じだが、」を文頭から削除。

デス・スパイラル・フォワード・アウトサイド：

デス・スパイラル・フォワード・インサイドと同じだが、ただし女子は男子の周りを安定したフォワード・アウトサイド・エッジで回る。

## ステップ・シーケンス

g) ステップ・シーケンスは一緒に、または接近して行うべきであり、いかなるリスト外ジャンプを含めてもよい。音楽に合った短い停止は許可される。

2016 年版にて「スパイラル・シーケンス：スパイラル・シーケンスはもはやペアのショート・プログラムの要素ではないが、スパイラルを行うと「要素のつながり」で功が認められる。」を削除。

## 規定 621 フリー・スケーティング・ペア

1. ペアのフリー・スケーティングは、ペアが自ら選んだ音楽に合わせて規定の時間を滑るバリエーションの取れたプログラム構成から成る。歌詞付きのボーカル音楽は許可される。良いプログ



ラムに含まれるのは、対称的に（ミラー・スケーティング）、または同様に（シャドー・スケーティング）同時に行うシングル・スケーティングの動作や、特に典型的なペア・スケーティングの動作、例えばペアのスピン、スパイラル、リフト、パートナー・アシストのジャンプ、そしてそれに類するものでステップや他の動作で調和してつながったものである。

**2. シニアのバランスの取れたプログラムには下記のものを含めなければならない：**

- ・最大3つのリフト、ただし全部がグループ5からではなく、持ち上げている腕は伸ばしきる
- ・最大1つのツイスト・リフト
- ・最大2つの異なるスロー・ジャンプ
- ・最大1つのソロ・ジャンプ
- ・最大1つのジャンプ・コンビネーションまたはシーケンス
- ・最大1つのソロ・スピン・コンビネーション
- ・最大1つのペア・スピン・コンビネーション
- ・ショート・プログラムのデス・スパイラルとは異なる、最大1つのデス・スパイラル
- ・最大1つのコレオグラフィック・シーケンス

**3. ジュニアのバランスの取れたプログラムには下記のものを含めなければならない：**

- ・最大2つのリフト、ただし全部がグループ5からではなく、持ち上げている腕は伸ばしきる
- ・最大1つのツイスト・リフト
- ・最大2つの異なるスロー・ジャンプ
- ・最大1つのソロ・ジャンプ
- ・最大1つのジャンプ・コンビネーションまたはシーケンス
- ・最大1つのソロ・スピン・コンビネーション
- ・最大1つのペア・スピン・コンビネーション
- ・最大1つのデス・スパイラル
- ・最大1つのコレオグラフィック・シーケンス

いかなる余分な要素、または所定の数を超す要素も、ペアの結果にはカウントされない。1つの要素の1回目の試行（または許可された試行回数）だけが考慮される。

2018-2019 シーズンより、シニアおよびジュニアのバランスの取れたプログラムにおいてコレオグラフィック・シーケンスはなくなる。コレオグラフィック・シーケンスは「要素のつながり」で功が認められる。

[2016 年版にて下線部を追加。](#)



#### 4. 備考

ペアのプログラムすべてに、下記のものが適用となる：

##### リフト

シニアについて、グループ 5 のリフトを 2 つ行う場合、その離氷は異なる性質（省略）のものでなければならない。もし離氷が同じであれば、2 つ目に行ったグループ 5 のリフトは採点されないがリフトのボックスを占める。

##### キャリー・リフト

- a) 許可されているリフトで男子が少なくとも 1 回の連続回転をするリフトのひとつに、キャリーを入れることができる。そうしたリフトは 1 回だけ行うことができる。そうしたリフトを次に行うと、それは無価値となる（が、ボックスにまだ空きがある場合はリフトのボックスを占める）。
- b) 単なる「キャリー」のリフトは、回転なしでパートナーを単に支えることで構成され、離氷および/または出（エグジット）での男子の半回転だけが許可される。「キャリー」リフトにおけるホールドはすべて制限されない。パートナーがもう 1 人のパートナーを背中、肩、または膝で支えるのは、これらのリフトでは許可される。キャリー・リフトはオーバーヘッド・リフトの数にカウントされない。これらのリフトは「つなぎ」の構成要素において考慮される。価値はなく、回数は制限されない。

##### ツイスト・リフト

フリー・スケートイングではツイスト・リフトの回転数は制限されない。女子によるルッツ、フリップ、トウループ、またはアクセルの離氷は認められる。

##### ソロ・ジャンプ、ジャンプ・コンビネーション、およびジャンプ・シーケンス

ジャンプ・コンビネーションは 2 つまたは 3 つのジャンプで構成してよい。

2 回転を超えて行うジャンプ（ダブル・アクセル、あらゆるトリプルおよびクワドラプル・ジャンプ）はすべて、異なる性質（異なる名称）のものでなければならないが、ジャンプ・コンビネーションまたはシーケンスにはそのような同じジャンプを 2 つ含めることができる。余分なジャンプを行った場合は、要件に沿わない個別のジャンプのみが無価値となる。そのジャンプは実施順に考慮される。

2016 年版にて下線部を追加。

##### スピン

スピンは必須の最少回転数を回らなければならない：ソロ・スピン・コンビネーションは 10 回転、ペア・スピン・コンビネーションは 8 回転であり、回転数不足をジャッジは採点に反映し

なければならないが、3 回転未満のスピンはスケーティング動作とみなされ、スピンとはみなされない。これらの必須の最少回転数は、スピンの入りから出までカウントされなければならない。

ペア・スピン・コンビネーションでは両パートナーによる少なくとも 1 回の足換えがなければならないが、両パートナー同時に行う必要はない。

2016 年版にて「ペア・スピン・コンビネーションには少なくとも 2 つの異なる基本姿勢を両パートナーとも含めなければならない。」を削除。

ソロ・スピン・コンビネーションでは、足換えは任意である。

### デス・スパイラル

アーム・ホールドおよびピボット姿勢（バックワードまたはフォワード）の変形姿勢が可能である。シニアについて、フリー・スケーティングのデス・スパイラルはショート・プログラムのデス・スパイラルと異なる種類のものでなければならない。

### コレオグラフィック・シーケンス

コレオグラフィック・シーケンスは、ステップ、ターン、スパイラル、アラベスク、スプレッド・イーグル、イナ・バウアー、ハイドロブレーディング、最大 2 回転までのあらゆるジャンプ、スピン、スモール・リフトなどあらゆる種類の動作から成る。コレオグラフィック・シーケンスに含まれる、リストにある要素はコールされずボックスを占めない。パターンは制限されないが、シーケンスははっきりそれと分かるものでなければならない。

テクニカル・パネルは、コレオグラフィック・シーケンスが最初のスケーティング動作で始まり（もしそのコレオグラフィック・シーケンスがプログラムの最後の要素でなければ）次の要素の準備で終了することを確認する。

この要素には固定の基礎値があり、ジャッジが GOE のみで評価する。

2016 年版にて、コレオグラフィック・シーケンスの動作から「(ツイズルは除く)」を削除。

## IV. 技術規程\*

### アイス・ダンス

〔\* 訳注：原文では当該項目に「Ⅲ」の章番号が付いているが、目次と比較したところ誤記と推察されるため、和訳では「Ⅳ」を付している。〕

#### A. アイス・ダンスの定義

##### 規定 701 アクシス（軸）

1. ロング・アクシス- 氷面を縦に（中央線で）二等分する直線
2. ショート・アクシス- 氷面を横に二等分する直線
3. 連続したアクシス- 氷面の周囲を通っている仮想の線で、ダンスの 패턴の基準となる。通常、パターン・ダンスおよびショート・ダンスにおいて、連続したアクシスは氷面のロング・アクシスに対して平行に通っている 2 本の線で構成され、ロング・アクシスと両辺のほぼ中間である。これらの線は氷面のそれぞれの端で半円とつながる。これらの半円はいくつかのダンスにおいては平坦で、氷面の端に対して平行に通っている。「キリアン」などのサーキュラー・ダンスにおいて、連続したアクシスは円形に近い。パソ・ドブレの連続したアクシスは楕円形である。
4. 斜めのアクシス- ダンスの「連続したアクシス」と直角に交差する仮想の線

##### 規定 702 パターン

あらゆるダンスのパターンは、氷上でのダンスの図である。パターン・ダンスのダイアグラム（＝図形）には、1 つの完全なダンスのパターン（シーケンス）を行うために必要なあらゆる情報が含まれる。

1. セット・パターン・ダンス- 滑るすべてのエッジの配置、方向、カーブがダイアグラムの中で指定されているパターン・ダンス。このダイアグラムにできるだけ沿わなければならない。
2. オプショナル・パターン・ダンス- 元のステップ・シーケンス、姿勢、およびタイミングが保たれている場合にカップルがパターンを変えてもよいパターン・ダンス。変えたパターンのそれぞれの繰り返しは同じ方法で行わなければならない、再開は同じ場所から始めなければならない。
3. ロープ- ほぼ半円形をした「連続したアクシス」の片側でのステップのあらゆるシーケンス

### 規定 703 ステップの連続

1. イントロ・ステップ- すべてのパターン・ダンス（パターン・ダンスの要素に適用とはならない）を、任意のイントロ・ステップで開始してよい。
2. パターン・ダンスのスタート- イントロ・ステップ後の、パターン・ダンスの最初のステップ
3. シークエンス- パターン・ダンスの1つのパターン（シークエンス）を構成する、所定のステップ/ターンの定められた順序
4. ステップ・シークエンス- ショート (リズム)・ダンスまたはフリー・ダンスにおける連続した、所定の、または自由なステップ、ターン、および動作。 ステップ・シークエンスはタイプ、グループ、スタイルに分類される。

2016 年版にて下線部を追加。

- a) 次のステップ・シークエンスのタイプがあり、ホールドまたはノット・タッチング（非接触）のいずれかにおいて滑ってよい。
  - i) ステップ・シークエンス・イン・ホールドは、あらゆるダンス・ホールドまたはその変形姿勢において滑らなければならない（が、それはアイス・ダンス技術委員会による指定が特でない場合である）。ホールドを変更するためのいかなるセパレーションも、音楽の1小節を超過してはならない。
  - ii) ノット・タッチング・ステップ・シークエンスにはミラーおよび/またはマッチング・フットワークを組み込まなければならない。両パートナーは互いのトレース（軌跡）を交差してよく、マッチング・フットワークからミラー・フットワーク、そしてその逆に切り替えてもよいが、それはアイス・ダンス技術委員会による指定が特でない場合である。パートナーはできるだけ互いに近い距離を保たなければならないが、接触してはならない。パートナー間の距離は一般に腕2本分の間隔を超えてはならないが、パートナーが反対方向にエッジやターンを行っている時の短い距離は除く。
- b) ステップ・シークエンスのタイプはグループに分かれる：
  - i) グループ A: ストレート・ライン・ステップ・シークエンス
    - ・ ミッドライン（中央線）・ ロング・アクシスに沿って氷面の長さいっぱい滑る。
    - ・ ダイアゴナル（対角線）・ コーナーからコーナーへできるだけいっぱい滑る。
  - ii) グループ B: カーブド・ステップ・シークエンス
    - ・ サーキュラー（反時計回りまたは時計回りに滑ってよい）・ ショート・アクシス上

で氷面の幅いっぱいを使う。

- ・ サーペンタイン (蛇行) - リンクの一端のロング・アクシスでどちらかの方向（時計回りまたは反時計回り）へ始め、3つのはっきりしたカーブまたは2つのはっきりしたカーブ（S字）を描いて進み、リンクの反対側の端のロング・アクシスで終わる。パターンは氷面の幅いっぱいを使う。

iii) グループ C: パーシャル・ステップ・シーケンス

・ パターン・ダンス・タイプのステップ・シーケンス 氷上の何処でも、またはアイス・ダンス技術委員会による指定どおりに行う。

・ 片足でのステップ・シーケンス 同時に、またはホールドにおいて、または別々に、両パートナーが片足で行う。

2016 年版にて下線部を追加。

iv) グループ D: コンビネーション・ステップ・シーケンスで、片足でのステップ・シーケンス 1つとグループ A または B のステップ・シーケンスの 1つから成る。

2016 年版にて iv を追加。

c) ステップ・シーケンスのスタイル

ステップ・シーケンスのレベル特徴は、スタイルとしてまとめられるが、継続的に有効な技術要件であり ISU コミュニケーションにおいて発表される。

2016 年版にて c を追加。

アイス・ダンス技術委員会が決定する、グループのあらゆる変形やコンビネーション、またその他のステップ・シーケンス・グループは、ISU コミュニケーションにて記載および発表される。

2016 年版にて下線部を追加。

5. セクション パターン・ダンスのシーケンスの一部

6. パターン・ダンス要素 ショート・ダンスにおける連続した所定のステップ、ターン、および動作であり、下記から成る：

- a) 規定 707 に挙げられたパターン・ダンスのシーケンス、または
- b) 規定 707 に挙げられたパターン・ダンスのセクション、または
- c) 規定 707 に挙げられたパターン・ダンスからのステップ/ターンのコンビネーション

規定 704 ステップ、ターン、および動作

1. ステップ 片足で描く、氷上の目に見えるトレース。エッジ、チェンジ・オブ・エッジ、片

足で行うスリー・ターンやカウンターのようなターン、または（通常は認められない）フラットで構成してよい。

- a) エッジ 1つのカーブ上にて片足で滑ることによってできる、目に見えるトレース。
  - b) チェンジ・オブ・エッジ 片足で滑ることによってできる目に見えるトレースで、1つのカーブやエッジから別のカーブやエッジへと変わる。
  - c) フラット 片足で滑ることによってできる目に見える二重のトレースで、直線のもの。
2. オープン・ストローク スケーティング・フットのすぐ近くから、前にも後ろにも交差せずに始めるステップ。あらゆるフォワード・エッジにおいて、次のステップに備えてスケーティング・フットへと移る前に、フリー・レッグを後ろに保っておくことも注意すべきである。あらゆるバックワード・エッジにおいては、次のステップに備えてスケーティング・フットへと戻る前に、フリー・レッグを前に保っておく。
3. クロス・ストローク フリー・フットとなる足のアウトサイド・エッジから勢いまたは力が増すように、両足を交差して始めるステップ（注記- 脚は膝上で交差する）。
4. クロスト・ステップ・イン・フロント フリー・レッグをスケーティング・レッグの前でしっかりと交差し、フリー・フットをスケーティング・フットのアウター・エッジ側の氷上に置くステップ（注記- 脚は膝下で交差する）。
5. クロスト・ステップ・ビハインド フリー・レッグをスケーティング・レッグの後ろでしっかりと交差し、フリー・フットをスケーティング・フットのアウター・エッジ側の氷上に置くステップ（注記- 脚は膝下で交差する）。
6. シャッセ
- a) シンプルなシャッセ 連続した2つのエッジ（一般にアウトサイド、インサイド）であり、2つ目のエッジではフリー・フットをスケーティング・フットのそばの氷上に置くが、スケーティング・フットの前または後ろには置かず、ブレードを氷と平行にしてフリー・フットを上げる。
  - b) クロスト・シャッセはシンプルなシャッセと同じだが、2つ目のステップでフリー・フットがスケーティング・フットと交差する（スケーターがフォワード滑走している時は後ろで交差し、スケーターがバックワード滑走している時は前で交差する）。
  - c) スライド・シャッセはシンプルなシャッセと同じだが、2つ目のステップでフリー・フ

ットは、スケーターがフォワード滑走している時はスケーティング・フットの前で氷を離れ、スケーターがバックワード滑走している時はスケーティング・フットの後ろで氷を離れる（例：スターライト・ワルツにおける男子のステップ 32）。

7. プログレッシブ（またはラン、またはクロスオーバー）・フリー・フットが、氷に置かれる前にスケーティング・フットを通り越すステップまたはステップの連続で、それにより新たなフリー・フットは新たなスケーティング・フットの後を追いながら氷を離れる。
8. ロール ショートまたはロングの、フォワードまたはバックワード・エッジ。
  - a) スウィング・ロール 音楽の数ビートにわたるロールで、バックワード滑走の場合はフリー・レッグを持ち上げてまず前方へスウィングし、続いてスケーティング・フットを通して後方へスウィングし、それから次のステップを滑るためにスケーティング・フットの横へ戻す。フォワード滑走の場合はフリー・レッグをまず後方へスウィングし、続いて前方へ、それから次のステップを滑るためにスケーティング・フットの横へ戻す。脚のスウィングによって「ローリングする動き」が感じられる。
  - b) クロス・ロール フリー・フットがスケーティング・フットに横から近づく動きから始まり、それによりスケーティング・フットに対してほぼ直角に氷に乗り出すロールのことで、フォワードの場合は前で、バックワードの場合は後ろで両足を交差して始める。そのスケーティング・フットのアウトサイド・エッジから勢いが増し、新たなスケーティング・フットとなる。この場合反対方向にカーブへ傾きを変えると、「ローリングする動き」となる。
9. スリッパ・ステップ 両足のブレードを氷上でフラットに保って一直線に滑るステップ。十分曲がっている、または真っ直ぐな状態のスケーティング・レッグに体重をかけ、その一方でフリー・フットを氷上で伸びきるまで前に滑らせる。
10. トウ・ステップ スケーターが片方のつま先からもう片方のつま先へとジャンプせずに踏むステップ。
11. ターン
  - a) ワン・フット・ターン 片足での回転動作で、スケーターはフォワードからバックワードへ、またはバックワードからフォワードへと動く。
    - i) スリー・ターン アウトサイド・エッジからインサイド・エッジ、またはインサイド・エッジからアウトサイド・エッジへと片足で行うターンで、出のカーブが入りのカーブと同じローブ上に続く。スケーターはカーブの方向へターンする。

ii) アメリカン・ワルツ・タイプ・スリー・ターン (またはスウィング・スリー・ターン)

・ アウトサイド・エッジからのスリー・ターンで、フリー・レッグが伸び、つま先と腰が十分回転し、トレース上に保たれる。ターンをする際、フリー・フットの甲をスケーティング・フットの踵へ引き寄せる。ターン後はインサイド・エッジに乗り、フリー・フットをトレース後方に伸ばしてから、次のステップに間に合うようフリー・フットをスケーティング・フットの横に戻す。

iii) ヨーロピアン・ワルツ・タイプ・スリー・ターン ii)と同様に始めるスリー・ターン。ターン後、バック・インサイド・エッジを1ビート間保ってから、スケーティング・フットとなるフリー・フットへ体重を移す。

iv) ラヴェンスバーガー・ワルツ・タイプ・スリー・ターン インサイドのスリー・ターンで、i)や ii)と同様に始め、ターン中はフリー・レッグをトレース上に伸ばして後方に置き、ターン終了後はトレースの正面に振り抜いてから、次のステップに間に合うようスケーティング・フットの横に戻す。(例: ラヴェンスバーガー・ワルツでの男子のステップ 1)

v) タッチダウン・スリー・ターン 次のステップに備えてスケーティング・フットとなるフリー・フットに、ほとんど直前で体重を移すスリー・ターン。フォワード・アウトサイド・スリーから反対足のバックワード・アウトサイド・エッジへと、全体重を移さずにターンを行い、それからスケーターは元々の足ですぐに前方へ進む(例: オーストリアン・ワルツでのステップ 1 および 2)。こうしたシーケンスをフォワードまたはバックワード、インサイドまたはアウトサイドのスリー・ターンで滑ることができ、単独で、またはカップルのサイド・バイ・サイドとして滑ってもよい。

vi) ウォーク・アラウンド・スリー・ターン カップルが同時に共通軸の周りを回るスリー・ターン。両パートナーはこれらのターンをワルツ・ホールドの中で滑る(例: オーストリアン・ワルツにおけるステップ 29 から 31、ラヴェンスバーガー・ワルツにおけるステップ 39 および 40)、または部分的なタンゴ・ホールドの中で補う(ゴールデン・ワルツにおけるステップ 1 から 5)。

vii) ブラケット・アウトサイド・エッジからインサイド・エッジ、またはインサイド・エッジからアウトサイド・エッジへと片足で行うターンで、出のカーブが入りのカーブと同じローブ上に続く。スケーターはカーブと反対の方向へターンする。



- viii) ロッカー アウトサイド・エッジからアウトサイド・エッジ、またはインサイド・エッジからインサイド・エッジへと片足で行うターンで、出のカーブは入りのカーブと異なるローブ上にある。スケーターは入りのカーブの方向へターンする。
- ix) カウンター アウトサイド・エッジからアウトサイド・エッジ、またはインサイド・エッジからインサイド・エッジへと片足で行うターンで、出のカーブは入りのカーブと異なるローブ上にある。スケーターは入りのカーブと反対の方向（すなわち、出のカーブの方向）へターンする。
- x) スウィング・ロッカーまたはスウィング・カウンター ロッカーまたはカウンターの一種で、ターンの前にフリー・フットをスケーティング・フットの近くを通って滑らかにスウィングし、ターン後はスケーティング・フットを通り越してトレース上の後方に保つか、または前方にスウィングする。
- b) ツー・フット・ターン 片方の足からもう片方の足への回転動作で、スケーターはフォワードからバックワードへ、またはバックワードからフォワードへと動く。
- i) モホーク 片方の足からもう片方の足へのターンで、入りと出のカーブは連続的であり同じ深さである。足換えはアウトサイド・エッジからアウトサイド・エッジ、またはインサイド・エッジからインサイド・エッジである。
- ・オープン・モホーク フリー・フットの踵をスケーティング・フットの内側で氷上に置くモホークであり、両足間の角度は自由である。体重移動後、新たなフリー・フットが即座に取る位置は、新たなスケーティング・フットの踵の後ろである（例：フォーティーンステップにおける男子のステップ 8 と 9、および女子のステップ 12 と 13）。
  - ・クローズド・モホーク フリー・フットをスケーティング・フットの踵の後ろで氷上に置くまで、フリー・フットの甲をスケーティング・フットの踵に寄せるモホーク。体重移動後、新たなフリー・フットが即座に取る位置は、新たなスケーティング・フットの前である（例：ロッカー・フォックストロットのステップ 11 および 12）。
  - ・スウィング・モホーク オープンまたはクローズド・モホークで、フリー・レッグをスケーティング・レッグの近くを通って前方へスウィングし、それからターンを行うためにスケーティング・フットのところに戻す（例：タンゴにおけるステップ 20 および 21）。

- ii) チョクトー 片方の足からもう片方の足へのターンで、出のカーブは入りのカーブと反対にある。足換えはアウトサイド・エッジからインサイド・エッジ、またはインサイド・エッジからアウトサイド・エッジである。ダンスの記述において指定が特になければ、フリー・フットをスケーティング・フットの近くの氷上に置く。入りと出のエッジは同じ深さである。

・オープン・チョクトー フリー・フットをスケーティング・フットの内側で氷上に置くチョクトー。体重移動後、新たなフリー・フットが即座に取る位置は、新たなスケーティング・フットの踵の後ろである。

・クローズド・チョクトー フリー・フットをスケーティング・フットの踵の後ろで氷上に置くまで、フリー・フットの甲をスケーティング・フットの踵に寄せるチョクトー。体重移動後、新たなフリー・フットが即座に取る位置は、新たなスケーティング・フットの前である（例：ブルースにおけるステップ 12 および 13）。

・スウィング・チョクトー オープンまたはクローズド・チョクトーで、フリー・レッグをスケーティング・レッグの近くを通して前方へスウィングし、それからターンを行うためにスケーティング・フットのところに戻す（例：クイックステップのステップ 5 および 6 [第 1 パート]）。

・クロスト・オープン・チョクトー フリー・フットのアウトサイドをスケーティング・フットの前で直角に保つチョクトー。ターン後、ヒップはオープンである。ワイド・ステップで行うこともある（例：ルンバにおけるステップ 11 および 12）。

- c) ツイズル 移動しながら片足で行う 1 回転以上のターンで、連続的な（途切れない）動きで素早く回転する。ターン中、フリー・フットがいかなるポジションでも体重はスケーティング・フットに乗ったままで、それから次のステップを滑るためにフリー・フットをスケーティング・フットの横に置く。チェックのあるスリー・ターンの連続は、連続的な動きの構成要素とならないため認められない。ツイズル実行中に移動が止まった場合、そのツイズルはソロ・スピン（ピルエット）となる。

ツイズルの異なる 4 種類のエントリー・エッジは次のとおり：

- ・ フォワード・インサイド
- ・ フォワード・アウトサイド
- ・ バックワード・インサイド
- ・ バックワード・アウトサイド

- d) ツイズル・ライク・モーション (ツイズルのような動き)・ 身体では 1 つの完全な連続回転をしつつ、スケーティング・フットでは 1 回転未満のターンを技術的に行いフォワードのステップへと続く。

12. セット・オブ・ツイズル

- a) セット・オブ・シンクロナイズド・ツイズル 2 つのツイズルの連続で、各パートナーについてツイズルの間は 3 ステップまでである。
- b) セット・オブ・シーケンシャル・ツイズル 2 つのツイズルの連続で、各パートナーについてツイズルの間は 1 ステップまでである。

a)と b)のどちらについても、各ツイズルは少なくとも 1 回転を両パートナーが同時に片足で行うこととし、例としては：

- 同じ方向へのサイド・バイ・サイド (マッチング)
  - または、反対方向へのサイド・バイ・サイド (ミラー)
- または縦に並ぶ (1 人はフォワードおよび/またはバックワード滑走、そしてもう 1 人はフォワードおよび/またはバックワード滑走)

アイス・ダンス技術委員会が決定する、ツイズルのあらゆる変形やコンビネーションは、ISU コミュニケーションにおいて発表される。

[2016 年版にて下線部を追加。](#)

13. ソロ・スピンの (ビルエクト)・ 1 人のパートナーが (もう 1 人のパートナーの支えの有無に関わらず) 単独で、または両パートナーが同時に (別々の軸の周りを)、1 地点で行う片足での回転動作。

14. ダンス・スピン

- a) スピン あらゆるホールドでカップルが一緒に滑るスピン。1 地点で共通軸の周りを片足で各パートナーが同時に滑るべきである。
- b) コンビネーション・スピン 前述のとおり行うスピンで、その後 1 回の足換えを両パートナーが同時に行いさらに回転する。
- c) ダンス・スピンにおける基本姿勢
- i) アップライト姿勢 片足で行う姿勢であり、スケーティング・レッグを真っ直ぐにするか少し曲げ、上体を (ほぼ縦軸上に) 垂直にするか弓なりに反らすか横に

曲げる。

- ii) シット姿勢 片足で行う姿勢であり、片脚でしゃがんだ姿勢でスケーティング・レッグを曲げ、フリー・レッグを前方から横または後方へ曲げる。
- iii) キャメル姿勢 片足で行う姿勢であり、スケーティング・レッグを真っ直ぐにするか少し曲げ、身体を前方に曲げ、フリー・レッグを伸ばす、または水平線の高さかそれより高く上に曲げる。

アイス・ダンス技術委員会が決定する、ダンス・スピンのあらゆる変形やコンビネーションは、ISU コミュニケーションにおいて発表される。

2016 年版にて下線部を追加。

#### 15. レッグおよびフットのポジション

- a) クッペー オープン・ヒップ・ポジションからスケーティング・レッグに接してフリー・フットを持ち上げ、それによりフリー・フットがスケーティング・フットの脚に対して直角になる。
- b) パッセ クローズド・ヒップ・ポジションからスケーティング・レッグの横にフリー・フットを持ち上げ、それによりフリー・フットがスケーティング・フットの脚に対して平行になる。
- c) アティチュード フリー・レッグを曲げて持ち上げ、スケーティング・フットの脚に対して 90 度後ろにする。

#### 16. ダンス・リフト パートナーの 1 人がもう 1 人のパートナーの能動的および/または受動的な支えによって、許可されている高さへと持ち上げられ、その高さに保たれ、氷上へと下ろされる動作。リフト中のいかなる回転、姿勢、姿勢変更も許可される。リフトは選んだ音楽を引き立てて音楽の特徴を表現するものであるべきで、明らかな力わざや、気まずい、および/または品のない動きや姿勢をせずに優雅に行うべきである。ダンス・リフトの種類は次のとおり分類される：

ショート・リフト リフトの持続時間は 7 秒 を超過してはならない

2016 年版にて、リフトの持続時間を「6 秒」から「7 秒」に変更。

- a) ステーションナリー・リフト リフトするパートナーにより 1 地点（静止位置）にて行われるリフトで、パートナーが回転しているかしていないかは問わない。

- b) ストレート・ライン・リフト- リフトするパートナーが、あらゆる姿勢で、片足または両足で一直線上を移動するリフト。
- c) カーブ・リフト- リフトするパートナーが、あらゆる姿勢で、片足または両足で1つのカーブ（ローブ）上を移動するリフト。
- d) ローテーション・リフト- リフトするパートナーが、一方向（時計回りまたは反時計回り）に回転しつつ氷上を横切るリフト。

コンビネーション・リフト- リフトの持続時間は 12 秒を超過してはならない。組み合わせるリフトは：

- e) 2つのローテーション・リフト（前述の d）のとおり）：異なる方向に行う
- f) 2つのカーブ・リフト：2つの異なるカーブ上でサーペンタイン・パターンを描く
- g) 前述の、2つの異なる種類のショート・リフト a)、 b)、 c) または d)

違反となるリフト動作/姿勢- リフト中での下記の動作および/または姿勢は違反となる：

- a) パートナーの頭に横たわる、または座る
- b) パートナーの肩や背中に立つ  
2016 年版にて、パートナーの肩や背中に「座る」ことを違反規定から削除。
- c) リフトされたパートナーが倒立スプリット姿勢（大腿部の間の保たれている角度が 45 度を超す）
- d) リフトするパートナーがリフトされたパートナーを次の状態で振り回す：
  - i) 腕を伸ばしきって、または手/腕の支えなしで、ブレード/スケート靴または脚のみを持つ
  - ii) 両パートナーが腕を伸ばしきって手をつなぐ
- e) リフトするパートナーのリフトする手/腕とリフトされたパートナーの身体とのいずれの接触点も、リフトするパートナーの頭より高く保たれていない
- f) 追加的補助としてまたはバランスを取るためにのみ使用する手/腕、またはリフトされたパートナーの身体のどこかに触れる手/腕を、リフトするパートナーが 2 秒を超えて頭より高く保っていない

2016 年版にて、「補助のために」を「追加的補助として」に変更。

- a)から e)の姿勢を通じて短時間の動作が許可されるのは、その動作が確立されていない（保たれていない）または姿勢変更のためにのみ用いられる場合である。

アイス・ダンス技術委員会が決定する、ダンス・リフトのあらゆる変形やコンビネーションは、ISU コミュニケーションにおいて発表される。

2016 年版にて下線部を追加。

## 17. ジャンプ

- a) ジャンプ 1 回転以下のジャンプであり、一度に 1 人のパートナーのみで行うことができる。このジャンプはホールド中または別個に行ってよい。
- b) ダンス・ジャンプ 1/2 回転以下のスモール・ジャンプで、足換えや方向転換をするために用いる。そうしたジャンプはホールド中または別個に行ってよい。両パートナーは同時にジャンプしてよい。
- c) ホップ 回転なしのスモール・ジャンプ

## 18. 動作の種類

- a) クラウチ 両足の動作であり、スケーターは両脚をある角度に曲げて氷を移動する。
- b) イナ・バウアー 両足の動作であり、スケーターは片方の足をフォワード・エッジ/トレース、もう片方の足に対応するバックワード・エッジ/トレースで、平行な別のトレース上に氷を移動する。
- c) ランジ スケーターが片方の脚を曲げ、もう片方の脚をスケート靴/ブレードを氷に接しながら後方へ向けた状態で氷を移動する動作。
- d) ピボット 両足の動作であり、スケーターは回転する中心点として片方の足のトゥ・ピックを氷に挿し、もう片方の足は中点の周りをサーキュラー・パターンで移動する。
- e) シュート・ザ・ダック 片足の動作であり、スケーターは片方の脚をしっかりと曲げた姿勢で、もう片方の脚を氷と並行に前方へ向けた状態で氷を移動する。
- f) スプレッド・イーグル 両足の動作であり、スケーターは片方の足をフォワード・エ

ッジ/トレース、もう片方の足を対応するバックワード・エッジ/トレースで、同一トレース上に氷を移動する。

19. コレオグラフィック要素 リストに記載のある動作、またはリスト外の動作、またはアイス・ダンス技術委員会が指定した一連の動作。

#### 規定 705 ダンス・ホールド

1. ハンド・イン・ハンド・ホールド

- a) 同じ方向を向く・ 両パートナーは同じ方向を向き、腕を伸ばし手を握った状態で、サイド・バイ・サイドまたは縦に並んで滑る。この変形姿勢は腕を組み合つてのサイド・バイ・サイド・ホールドである。
- b) 反対方向を向く・ 両パートナーは、通常は互いに向き合い腕を横に伸ばした状態で、1人はバックワード滑走、もう 1 人はフォワード滑走をするが、時折、背中合わせで滑るホールドになってもよい (例: チャ・チャ・コンゲラードにおけるステップ 22 から 25)。

2. クローズドまたはワルツ・ホールド 両パートナーは互いに真向いに位置する。1 人のパートナーは前方を向き、もう 1 人のパートナーは後方を向く。男子の右手は、肘を上げて腕を十分に曲げパートナーの背中の肩甲骨にしっかりと置き、女子を引き寄せる。女子の左手は男子の肩に置き、肘と肘をつけ、女子の腕を男子の上腕に無理なく乗せる。男子の左腕および女子の右腕は肩の高さに無理なく伸ばす。両者の肩は平行を保つ。

3. a) オープンまたはフォックストロット・ホールド 手および腕のホールドは、クローズドまたはワルツ・ホールドの手および腕のホールドと同様である。パートナーは 2 人とも同じ方向を向くように互いに少し離れて単純に回転する。

- b) クロス・フォックストロット・ホールド 両パートナーは前述と同様のホールドだが、男子の右腕は女子の後方を通り男子の右手は女子の右腰に置き、女子の左腕は男子の後方を通り女子の左手を男子の左腰に置く。

4. アウトサイドまたはタンゴ・ホールド 両パートナーは反対方向を向く・ 1 人のパートナーはフォワード滑走、もう 1 人のパートナーはバックワード滑走である。しかしクローズド・ホールドと違って、男子の腰の前部が女子の対応する側の腰の前部と一直線になるように男子は女子の右側または左側になり、両パートナーがずれる。密接なヒップ・トゥ・ヒップ・ポジションは流れを妨げるため望ましくない。

5. a) キリアン・ホールド 両パートナーは同じ方向を向き、女子が男子の右側に、男子の右

肩は女子の左肩の後ろになる。女子の左腕は男子の身体の前を横切って伸び、男子の左手を握る。男性の右腕は女子の背後を通して女子の右手を握る。両者の右手は女子の腰骨の上に乗せる。

- b) リバースド・キリアン・ホールド このホールドはキリアン・ホールドと同様だが、女子は男子の左側になる。
  - c) オープン・キリアン・ホールド 男子の左手は女子の左手を握り、男子の右手は女子の右腰の上または背後に乗せる。女子は右腕を伸ばす。このホールドを逆にしてもよい。
  - d) クロスト・キリアン・ホールド 女子の左腕は男子の身体の前を横切って男子の左手へと伸びる一方で、男子の右腕は女子の身体の前を横切って伸び、両パートナーの右手はつないで女子の腰の上に乗せる。このホールドを逆にしてもよい。
  - e) ハイ・キリアン・ホールド つないだ手を肩の高さより少し上にあげ、肘を少し曲げるキリアン・ホールド（例：ヤンキー・ポルカにおけるステップ 3 から 12）。
6. リーディング・ハンド 男子のリードする手は右手だが、それが左手になる「リバースド」ホールドの場合は除く。
7. プロムナード オープン・ホールドでカップルが同じ側の足（例：ブルースにおけるステップ 9 から 11）または反対側の足（例：タンゴにおけるステップ 16 から 19）で滑る「プログレッシブ」の一種で、社交ダンスにおける同様の前進動作から派生したもの。

注：前述したすべてのダンス・リフトの写真は ISU ハンドブック・アイス・ダンス 2003 にある。特定のケースでは、標準的な説明で定義することのできないダンス・ホールドもある。

#### 規定 706 音楽の定義

- 1. ビート 楽曲の規則的に繰り返す部分を特徴づける拍子
- 2. テンポ ビートまたは小節の、1 分あたりの音楽の速度
- 3. リズム 音楽を特徴づけるような、アクセントのあるビートやアクセントのないビートを規則的に繰り返すパターン。
- 4. 小節 アクセントの周期的な繰り返しによって定まる音楽の単位。そうした単位はビート数と等しい。



5. **強拍** 小節の第1拍、またはひとまとまりの2小節の第1拍で、リズムのスケーティング・カウントを支える。
6. **弱拍** 2小節のスケーティング・カウントのリズムについては、2小節目の第1拍（例：クイックステップのスケーティング・カウント 3、アメリカン・ワルツのスケーティング・カウント 4）。各リズムのスケーティング・カウントは ISU アイス・ダンス・リズム・ブックレットおよびコンパクト・ディスクの中で説明がある。

&  
TECHNICAL  
RULES  
  
SINGLE&PAIR  
SKATING  
and  
ICE DANCE  
2016

## B. パターン・ダンス

### 規定 707 イン트로

1. パターン・ダンスには、規定のリズムおよびテンポで音楽に合わせた前述のパターン滑走が含まれる。

2. パターン・ダンスのセグメントを含む国際競技会において、滑るパターン・ダンスは下記から選ばれる：

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1. フォーティーンステップ    | 14. クイックステップ     |
| 2. フォックストロット      | 15. フィンステップ      |
| 3. ロッカー・フォックストロット | 16. パソ・ドブレ       |
| 4. ヨーロピアン・ワルツ     | 17. ルンバ          |
| 5. アメリカン・ワルツ      | 18. チャ・チャ・コンゲラード |
| 6. ウェストミンスター・ワルツ  | 19. シルバー・サンバ     |
| 7. ウィーン・ワルツ       | 20. タンゴ          |
| 8. オーストリアン・ワルツ    | 21. アルゼンチン・タンゴ   |
| 9. スターライト・ワルツ     | 22. タンゴ・ロマンティカ   |
| 10. ラヴェンスパーガー・ワルツ | 23. ブルース         |
| 11. ゴールデン・ワルツ     | 24. ミッドナイト・ブルース  |
| 12. キリアン          |                  |
| 13. ヤンキー・ポルカ      |                  |

前述したパターン・ダンスのシーケンスの説明、表およびダイアグラムは ISU ハンドブック・アイス・ダンス 2003 に含まれている。男子は男子のステップを、女子は女子のステップを滑らなければならない。

3. パターン・ダンスは、前述の 2 項に挙げられた順に滑らなければならない。各パターン・ダンスを各カップルが単独で氷上にて下記のとおり滑らなければならないが、アイス・ダンス技術委員会が ISU コミュニケーションにおいて指示した場合を除く：

a) ダンスの 2 つのシーケンスについて：

ヨーロピアン・ワルツ	オーストリアン・ワルツ	シルバー・サンバ
アメリカン・ワルツ	ゴールデン・ワルツ	アルゼンチン・タンゴ
スターライト・ワルツ	ヤンキー・ポルカ	タンゴ
ラヴェンスパーガー・ワルツ	フィンステップ	タンゴ・ロマンティカ
ウェストミンスター・ワルツ	チャ・チャ・コンゲラード	ミッドナイト・ブルース

b) ダンスの 3 つのシーケンスについて：

ウィーン・ワルツ      ブルース  
パソ・ドブレ

- c) ダンスの 4 つのシーケンスについて：
- |                |          |
|----------------|----------|
| フォーティーンステップ    | クイックステップ |
| フォックストロット      | ルンバ      |
| ロッカー・フォックストロット |          |

- d) ダンスの 6 つのシーケンスについて：
- キリアン

4. レフェリーは、パターン・ダンスを開始しなければならないおよその位置を発表してよい。すべてのパターン・ダンスを、パターンの最初の側のステップがジャッジ前での滑走となるように開始することとするが、レフェリーが指定した場合、またはアイス・ダンス技術委員会が ISU コミュニケーションにおいて指示した場合を除く。レフェリーが開始の側を変更する場合、その変更を滑走順の最初の抽選の際に発表しなければならない。
5. 国際競技会では現行の ISU アイス・ダンス音楽をパターン・ダンスに使用することとするが、アイス・ダンス技術委員会が 1 つまたは複数のパターン・ダンス用音楽を ISU コミュニケーションにおいて告知されたとおり一定の要件に従ってカップルで準備すると決定した場合を除く。この場合、これらの指定に従わないパターン・ダンス音楽には減点のペナルティが科せられる（規定 353 第 1 項 n を参照）。ISU アイス・ダンス音楽を使用する時は、ISU コミュニケーションでの指示が特にない限り、各パターン・ダンス用に ISU 曲 1 番から 5 番までの 5 曲がかかる。各ダンスの最後（6 番目）の曲は、各滑走グループのウォームアップ中にのみ使われることとする。
6. 中断したパターン・ダンスを、ステップ・シーケンスにおいて技術的に実施可能な直近の時点から再開することとし、かつ再開時点は中断時点よりも後ろでなければならない。カップルは中断で逃したステップを滑ることはできない。

## 規定 708 要件および採点

### 1. パターン・ダンスの一般要件

パターン・ダンス滑走中は次の点が注視されなければならない：

- a) 正確さ ステップ、エッジ、要素/動作およびダンス・ホールドはダンスの説明および規定に従わなければならない。必要最低限の要件に全体的に従っていることを条件として、カップル独自のスタイルを示すことが許される。これは通常、多様な腕および/または脚の動作を用いることで行われる。必須ダンス・ホールドの説明とは異なる腕および/また

は手の動作または位置も、男子のリードする手がホールドの所定の位置にとどまっていれば許可される。

- b) **配置** ダンスのパターンは規定に従わなければならない。氷面を最大限に活用することが望ましく、それにはディープ・エッジと十分な流れが必要である。フラット・エッジまたはシャロウ（浅い）・エッジを用いてアイス・カバレッジ（＝まんべんなく氷面を使うこと）を行ってはならない。正規のサイズのリンク（規定 342）では、カップルはロング・アクシスを横切ってはならない。正規のサイズより小さいリンクでは、カップルはリンクの幅の幅に比例してロング・アクシスを横切ってもよい。
- c) **スケーティング・スキル** 基本的なスケーティングの質が良いことが求められる：  
ディープ・エッジで滑走すべきで、スピード、流れ、滑らかさがあり、無駄な力なしに行わなければならない。ステップ、エッジ、およびロープの移り変わりの正確さや確実さは、はっきりと分かるものでなければならない。スケーターはスケーティング・フットに体重をかけなければならない。フットワークはきちんとしていて、かつ正確でなければならない。両足滑走は要求されない限り控えなければならない。両パートナーには等しく高い技術力が求められる。スケーティング・レッグの膝は柔軟であるべきで、リズミカルな上下の動きを伴うべきである。シャッセおよびプログレッシブでは足を氷から少し持ち上げるべきである。
- d) **タイミング** ダンスは厳密に音楽に合わせて滑らなければならない。ダンスの第 1 歩はある特定の曲の 9 小節目の第 1 拍に踏み出さなければならない（が、パターン・ダンスの説明内で指定される場合や、アイス・ダンス技術委員会が決定し ISU コミュニケーションにおいて発表となる場合を除く。）各ステップ/動作にあてる所定の拍数は規定に従わなければならない。すべてのステップが流れを中断することなく行えるよう、あらゆる動作は音楽のリズムに合っていないなければならない。
- e) **スタイル** 姿勢は真っ直ぐで、硬直はせず、頭を上げているべきである。すべての動作は無理なく流れがあるもので、優雅に行われるべきである。ダンス・ホールド（規定 705 を参照）はしっかりとしているべきであり、指を広げたり握りしめたりすべきではない。スピードを求めて奮闘しているのが明らかであってはならず、良いスタイルを犠牲にしてスピードを得るべきではない。フリー・レッグは伸ばし、フリー・フットは外側に向け、つま先を下に向けるべきである。
- f) **ユニゾン** カップルはできるだけ互いに接近して滑り、互いの間の一定の距離を保つべきである。脚のスウィング、膝の曲げ、および身体の傾けなどの動作はすべて、等しくよく調和しているべきであり、その出来栄はバランスが取れているべきである。パー

トナーは一体となって動作すべきである。男子はリードする能力を、女子はフォローする能力を示すべきである。

- g) **解釈** ダンスはその音楽の特徴を正しく解釈したうえで、スムーズかつリズムカルに滑らなければならない。そうした解釈はダンス動作を行う中での変形姿勢によって示されることとし、そのダンス動作は音楽のリズム・パターンを反映する。全体的な印象は各パターン・ダンスがはっきりと異なる特色を持つようなものであるべきである。パートナーは理解し合うべきである。

## 2. パターン・ダンスの必須セクション

各パターン・ダンスのパターンは、ISU コミュニケーションにおいて発表および改定されるセクションの数に分けることができる。特定のダンスのセクション数は、その長さ（ステップ数）およびダンスにおけるシークエンス数による。

## 3. パターン・ダンスの採点

### a) 技術点

#### i) 価値尺度

パターン・ダンスのセクションの価値尺度表は、ISU コミュニケーションにおいて発表および改定される。この価値尺度（SOV）には各パターン・ダンスの全セクションの基礎値、およびセクション実行の正確性や質に対する調整値が含まれる。

#### ii) セクションのレベル

アドバンスト・ノービス競技会、および告知でそのように手順を指定された競技会では、テクニカル・スペシャリストはパターン・ダンスの各セクションのレベルを決定する（が、それはそのパターン・ダンスについてセクションのレベルの記述および対応する価値尺度が ISU コミュニケーションで得られる場合である）。

2016 年版にて、「国際ノービス競技会」を「アドバンスト・ノービス競技会」に変更。

セクションに特定のレベルを付与する特徴の説明は ISU コミュニケーションにおいて発表および改定される。

2016 年版にて、「セクションは 4 つのレベルに分かれる。」を削除。

「国際ノービス競技会に含まれるパターン・ダンスについて、また可能であればその他のパターン・ダンスについて、」を文頭から削除。

#### iii) 出来栄え点（GOE）

すべてのジャッジはパターン・ダンスのセクションごとに出来栄えの質を、出来栄えの特長およびエラーに基づき 7 段階の出来栄え点で採点する：+3、+2、+1、基礎値、

-1、-2、-3。+ または・の各段階には、SOV 表に示された固有の + または・の数値がある。この数値がセクションの基礎値に追加、または基礎値から差し引かれる。セクション採点のガイドラインは ISU コミュニケーションにおいて発表および改定される。

## b) 構成点

### i) 構成要素の定義

技術点に加えて各ジャッジはカップルの全体的な演技を評価するが、それはパターン・ダンスの 4 つの構成要素（スケーティング・スキル、演技、解釈、タイミング）に分かれる。

2016 年版にて、「演技/遂行」を「演技」に変更。

#### スケーティング・スキル

定義：

カップルがダンス・ステップを踏むのに用いる手法、氷上での動作、またスピード、流れ、アイス・カバレッジに関する動作の効率性。

基準：

- ・総合的なスケーティングの質
- ・流れ、および滑り
- ・スピードおよびパワー
- ・両パートナーの、テクニックとスケーティング能力とのバランス
- ・アイス・カバレッジ

#### 演技

定義：パターン・ダンス時にユニゾン、身体の向き、身のこなし、スタイル、および演技バランスを示すパートナーの能力であり、調和の取れた動作、身体意識、および投影を通じて好ましい様子を示すためのもの。

基準：

- ・ユニゾン、および身体の向き
- ・パートナー間の距離
- ・身のこなし、およびスタイル
- ・パートナー間の演技バランス

#### 解釈

定義：パターン・ダンスのリズムの雰囲気、感情、および特徴を表現するカップルの能力であり、ダンスの身体の動き、ステップ、およびホールドはその音楽の構造と特

徴を反映するのでこれらを用いて表現する。

基準：

- ・リズムの特徴の表現
- ・ダンスの特徴を反映しているパートナー間の関係

### タイミング

定義：音楽に厳密に合わせて滑り、なおかつパターン・ダンスのリズム・パターンを正しく反映するカップルの能力。

基準：

- ・音楽に合った滑走
- ・強拍での滑走
- ・最初のステップの開始

### ii) 構成要素の採点

ダンス終了後ジャッジは構成要素を 0.25～10 の段階で、0.25 点刻みで評価する。ジャッジが付す点数は、次の構成要素の段階に対応している：1 未満・極めて悪い、1・とても悪い、2・悪い、3・劣っている、4・まずまずの、5・平均、6・平均以上、7・良い、8・とても良い、9-10・傑出している。\*

ある段階における特長とその次の段階における特長とを含む演技の評価には、(0.25 の) 増加を用いる。

判定のガイドラインは ISU コミュニケーションにおいて発表および改定される。

【\* 訳注：構成要素の 10 段階を表にすると下記のようなになる。】

ジャッジが付す点数	評価
0.25～0.75	極めて悪い
1.00～1.75	とても悪い
2.00～2.75	悪い
3.00～3.75	劣っている
4.00～4.75	まずまずの
5.00～5.75	平均
6.00～6.75	平均以上
7.00～7.75	良い
8.00～8.75	とても良い
9.00～10.00	傑出している

c) 減点

特定の規則違反に対しては、規定 353 に従って減点が適用となる。

C. ショート・ダンス

規定 709

1. ショート・ダンスの一般要件

a) ショート・ダンスは、毎シーズン、アイス・ダンス技術委員会により指定されるリズムおよび/またはテーマでのダンス音楽に合わせて、アイス・ダンス・カップルが創作するダンスである。ダンスは：

- i) 選ばれたダンス・リズムまたはテーマの特徴を反映しなければならない。
- ii) 流れがありエッジを使ったステップや動作で技術的スキルを示すことにより氷上の演技へと移されていないなければならない。
- iii) 音楽のフレージングに合っていないなければならない。

カップルは主にリズムカルなビートに合わせて滑らなければならない。ダンスは、下記の第 2 項で規定された必須要素のリストの中からアイス・ダンス技術委員会が選んだ要素を含む。要素はダンスの構成にまとめられるべきであり、コンセプトおよび振り付けはダンスの統一感を生まなければならない。リズム（または複数のリズム）および/またはテーマ同様、そのガイドラインや、規定の要素を含むジュニアとシニアのプログラムの技術要件は、アイス・ダンス技術委員会が毎年決定し、ISU コミュニケーションにおいて発表となる。

b) ショート・ダンスの継続時間は規定 502 第 3 項に記されている。

c) ショート・ダンス用の音楽は、（必要であれば）規定のパターン・ダンス用の音楽も含め、カップルで用意すべきである。音楽はボーカル入りでもよいが、スポーツ種目としてアイス・ダンスに適していないなければならない。音楽は下記の特徴を備えていなければならない：

2016 年版にて、ボーカル音楽の規定を変更。

変更前：「ボーカル音楽は許可される。」

i) 聞き取れるリズムカルなビートのあるダンス音楽のみが使用できる。プログラムの最初において最長 10 秒までは、聞き取れるリズムカルなビートがその音楽になくてもよい。



ii) 指定されたリズムおよび/またはテーマに沿って音楽を選ばなければならない。

iii) 該当する場合は、規定のテンポに沿って音楽を選ばなければならない。

これらの指定に従わないショート・ダンス音楽には減点のペナルティが科せられる (規定 353 第 1 項 n を参照)。カップルは音楽登録時に、選んだ音楽の名前/タイトルおよびプログラムのリズム/テーマを、レフェリーおよびジャッジへの情報として提出する必要がある。

- d) パターンは通常、一定方向に進まなければならない、氷面のロング・アクシスを横切ってはならないが、リンクのそれぞれの端 (フェンスから 20 メートルを超えない範囲) では 1 回横切ってよい。ロング・アクシスを横切らなければループはどちらの方向でも許される (が、アイス・ダンス技術委員会に指定され ISU コミュニケーションにおいて発表される場合を除く)。
- e) ダンス・ステップ、ターン、回転、および姿勢変更はすべて、指定のリズムおよび選択した音楽に適していれば許可される。いかなるステップ、ターン、および動作も繰り返しを許可される。難しく、独創的で、変化に富んだ、複雑なフットワークが両パートナーに求められる。
- f) ダンス・ホールド (またはその変形姿勢) に制限はない。腕を伸ばしきったハンド・イン・ハンド・ホールドでの滑走は、選んだリズムの特徴に合う場合のみ許可されるが、過度に用いてはならない。
- g) ホールド変更の場合、または許可された時間中にセパレーションを必要とする必須要素、つなぎの要素としてのターン、および動作を行う場合を除き、パートナーは離れてはならない。前述のセパレーションの際にパートナー間の距離は腕 2 本分の長さを超えるべきではない。ホールド変更および、つなぎの要素としてのターンは音楽の 1 小節間を超えてはならない。プログラムの開始および/または終わりでのセパレーションは最長 10 秒まで可能であり、そのセパレーションの距離に制限はない。
- h) 最初の動作で時間計測がスタートした後は、カップルは 10 秒を超えて 1 箇所にとどまってはならない。プログラム中、必須要素において必要な停止に加えて 2 回までの完全停止が許可される (停止時間はそれぞれ 5 秒を超えてはならない) が、それは ISU コミュニケーションにおいて特段の指定がない場合である。

i) 片膝についての滑走やトゥ・ステップの使用などの非スケーティング動作よりも、スケーティングの質およびスキルによってプログラムを表現しなければならず、非スケーティング動作を用いるのはそのダンスの特徴や選んだ音楽のリズムとニュアンスを反映する場合に限るべきである。競技場にいる観客のために、プログラムを競技場の全方向に対して振り付けすべきであり、ジャッジ側だけに焦点を当てるべきではない。

j) (両)手で氷に触れてはならない。ただしアイス・ダンス技術委員会が許可しコミュニケーションにて発表した場合を除く。

2016年版にて下線部を追加。

k) 両膝についてひざまずくことや滑ること、または氷上に座ることは許されず、テクニカル・パネルによって転倒とみなされる。

## 2. 必須要素

ショート・ダンスの構成に含めるべき必須要素のリスト、およびこれらの要素の特定の要件は、ISU コミュニケーションにおいて毎年発表される。

下記は、必須要素として含めることのできる選択肢である：

- ・ダンス・リフト- 規定 704 第 16 項を参照
- ・ダンス・スピン- 規定 704 第 14 項 e を参照
- ・ツイズル・セット- 規定 704 第 12 項を参照
- ・ステップ・シーケンス- 規定 703 第 4 項を参照
- ・パターン・ダンス要素- 規定 703 第 6 項を参照（規定 703 第 6 項 a）または第 6 項 b）により定められた必須要素としてジュニアのショート・ダンスに含まれるパターン・ダンス要素）
- ・コレオグラフィック要素（1 つ以下）- 規定 704 第 19 項を参照

## 3. 違反となる要素/動作

下記の要素および動作は、ISU コミュニケーションに記述のない限り、ショート・ダンスにおいては違反となる：

- ・違反となるリフト動作/姿勢- 規定 704 第 16 項を参照
- ・1 回転を超えるジャンプ（またはスロー・ジャンプ）、または両パートナーが同時に行う 1 回転ジャンプ
- ・氷上に横たわる

## D. フリー・ダンス

### 規定 710

#### 1. フリー・ダンスの一般要件

a) フリー・ダンスは、選んだダンス音楽の特徴/リズムを表現しながらダンス・ステップおよび動作を織り交ぜて創造的なダンス・プログラムをカップルが滑るものである。フリー・ダンスは、新しいまたは既知のダンス・ステップと必須要素込みの動作との組み合わせを含まなければならない。卓越したスケーティング技術に加えて、コンセプト、配置、および表現の中でカップル独自の創造性を示すバランスの取れたひとまとまりとして構成されなければならない。必須要素を含めプログラムは、音楽に合わせて拍子を揃えて滑らなければならない。カップルは主にリズムカルなビートに合わせて滑走すべきであり、メロディのみに合わせて滑走すべきではない。振り付けは選んだダンス音楽のダンスの特徴、アクセント、およびニュアンスを明確に反映すべきであり、パートナー間の親密な関係を速さやテンポにバリエーションを持たせながら雰囲気やペースの明確な変化で示すべきである。プログラムは氷面全部を使用しなければならない。フリー・ダンスは、ペアまたはショー・プログラムのコンセプトを有してはならない。

b) フリー・ダンスの継続時間は規定 502 第 4 項に記されている。

c) フリー・ダンス用の音楽はボーカルを含んでもよいが、スポーツ種目としてのアイス・ダンスに適していなければならない。下記の特徴を備えていなければならない：

i) 音楽は聞き取れるリズムカルなビートとメロディ、または聞き取れるリズムカルなビートのみを備えていなければならないが、メロディのみを備えてはならず、ボーカルを含んでもよい。プログラムの最初または最後において最長 10 秒まで、そしてプログラム中最長 10 秒までは、聞き取れるリズムカルなビートがその音楽になくてもよい。

ii) 音楽には少なくとも 1 回、テンポ/リズムおよび表現の変化がなければならない。この変化は徐々にでも即座にでも構わないが、どちらの場合でも明らかでなければならない。

2016 年版にて下線部を追加。

iii) クラシック音楽を含めすべての音楽は、興味深く多彩で楽しめる、さまざまな雰囲気や盛り上がりのあるダンス・プログラムを創り出すようにカット/編集、編成または編曲されていなければならない。

iv) 音楽はカップルのスケーティング・スキルおよび技術的能力に適していなければ

ならない。

これらの指定に従わないフリー・ダンス音楽には減点のペナルティが科せられる（規定 353 第 1 項 n を参照）。

- d) あらゆるステップもターンも許可される。プログラムにはスケーティング・スキル、難しさ、多様さ、独創性を示し、ダンスのはっきりした技術的内容を構成するディープ・エッジと複雑なフットワークを含まなければならない。両パートナーが行わなければならない。競技場にいる観客のために、プログラムを競技場の全方向に対して振り付けすべきであり、ジャッジ側だけに焦点を当てるべきではない。
- e) あらゆる要素も動作も許可されるが、それは音楽の特徴にもバランスの取れたプログラムのコンセプトにも合っており、かつ規定 704 の定義に沿っている場合である。
- f) つなぎのフットワークまたは動作を行うためのセパレーションの数は制限されていない。パートナー間の距離は腕 2 本分の長さを超えるべきではない。そうした各セパレーションの継続時間は、セパレーションを必要とする必須要素を除き、5 秒を超えてはならない。プログラムの開始および/または終わりでのセパレーションは最長 10 秒まで可能であり、そのセパレーションの距離に制限はないが、それは ISU コミュニケーションにおいて特段の指定がない場合である。

2016 年版にて下線部を追加。

- g) あらゆるホールド変更が許可される。多種多様なホールドはプログラムの難度を増すため、含まれるべきである。フェイス・トゥ・フェイスでの滑走はサイド・バイ・サイドでの滑走、ハンド・イン・ハンドでの滑走、離れての滑走、または縦並びでの滑走よりも難しいとみなされる。
- h) 最初の動作で時間計測がスタートした後は、カップルは 10 秒を超えて 1 箇所に留まってはならない。プログラム中、必須要素において必要な停止に加えて、完全停止（最長 5 秒まで）が許可されるが、その完全停止ではカップルが氷上で定点に留まって身体を動かしたり、ひねったり、姿勢を取ったりなどする。ただし、それは ISU コミュニケーションにおいて特段の指定がない場合である。

2016 年版にて下線部を追加。

- i) 片膝をついての滑走やトゥ・ステップの使用などの非スケーティング動作よりも、スケーティングの質によってプログラムを表現しなければならない。非スケーティング動作を用いるのはそのダンスの特徴や選んだ音楽のリズムとニュアンスを反映する場合に限

るべきである。

j) (両)手で氷に触れてはならない。

k) 両膝をついてひざまずくことや滑ること、または氷上に座ることは許されず、テクニカル・パネルによって転倒とみなされる。

## 2. バランスの取れたフリー・ダンス・プログラム

ノービス、ジュニア、およびシニアのフリー・ダンスのバランス良いプログラムに含めるべき必須要素のリスト、およびこれらの要素の特定の要件は、ISU コミュニケーションにおいて毎年発表される。

下記は、必須要素として含めることのできる選択肢である：

- ・ダンス・リフト- 規定 704 第 16 項を参照
- ・ダンス・スピン- 規定 704 第 14 項 e を参照
- ・ステップ・シーケンス- 規定 703 第 4 項 (グループ A および B) を参照
- ・シンクロナイズド・ツイズル・セット- 規定 704 第 12 項 a) を参照
- ・コレオグラフィック要素- 規定 704 第 19 項を参照

2016 年版にて、コレオグラフィック要素から「(1 つ以下)」を削除。

## 3. 違反となる要素/動作

下記の要素および動作は、ISU コミュニケーションに記述のない限り、フリー・ダンスにおいては違反となる：

- ・違反となるリフト動作/姿勢- 規定 704 第 16 項を参照
- ・1 回転を超えるジャンプ (またはスロー・ジャンプ)、または両パートナーが同時に行う 1 回転ジャンプ
- ・氷上に横たわる

**E. パターン・ダンスの発表および抽選、  
ショート・ダンスおよびフリー・ダンスの要件発表**

**規定 711**

1. 国際ノービス競技会について、パターン・ダンスのリストは毎年アイス・ダンス技術委員会  
が 6 月 1 日までに、公表した年の 7 月 1 日に有効となる ISU コミュニケーションにおいて発  
表する。パターン・ダンスのセグメントを含むその他の国際競技会については、滑るパター  
ン・ダンスを主催者が決定することができ、発表に含めてもよい。抽選が必要な場合は、滑  
るパターン・ダンスを現地で抽選し最初の公式練習に先立って発表することとする。その抽  
選は可能であれば、参加しているカップル 1 組の立会いのもとでレフェリーが行うこととす  
る。
2. a) ショート・ダンスおよびフリー・ダンスの特定の要件は、毎年アイス・ダンス技術委員  
会が決定し、ISU コミュニケーションにおいて発表となる。  
  
b) ショート・ダンスおよびフリー・ダンスについて発表される特定の要件を、その年のす  
べての ISU 選手権および国際競技会にて、7 月 1 から 6 月 30 日まで、発表されるもの  
について、用いなければならない。
3. 技術要件に関するコミュニケーションはすべて、6 月 1 日より前に発表されなければならな  
いが、評議会の結果としての懸案中の決定事項や説明、および追加事例といった、必要に  
応じて発表されるものは対象外である。

**規定 712-799 (留保)**

## 国際スケート連盟

設立：1892年7月23日、スフエーヘニンゲン（オランダ）にて

		メンバー
AND	アンドラ	Federacio Andorrana d'Esports de Gel (フィギュア)
ARG	アルゼンチン	Argentine Ice Speed Skaters Union(UVEPA) (スピード)
		Federacion Argentina de Patinaje Sobre Hielo (フィギュア)
ARM	アルメニア	Figure Skating Federation of Armenia (フィギュア)
AUS	オーストラリア	Australian Ice Racing Inc. (スピード)
		Ice Skating Australia Incorporated (フィギュア)
AUT	オーストリア	Österreichischer Eisschnelllauf Verband (スピード)
		Österreichischer Eiskunstlauf Verband (フィギュア)
AZE	アゼルバイジャン	The Skating Federation of Azerbaijan Republic (フィギュア)
BLR	ベラルーシ	Skating Union of Belarus
BEL	ベルギー	Fédération Royale Belge de Patinage de Vitesse (スピード)
		Fédération Royale Belge de Patinage Artistique (フィギュア)
BIH	ボスニア・ヘルツェゴヴィナ	Skating Federation of Bosnia and Herzegovina
BRA	ブラジル	Brazilian Ice Sports Federation (フィギュア)
BUL	ブルガリア	Bulgarian Skating Federation
CAN	カナダ	Speed Skating Canada (スピード)
		Skate Canada (フィギュア)
CHN	中国	Chinese Skating Association
TPE	中華台北	Chinese Taipei Skating Union
<u>COL</u>	<u>コロンビア</u>	<u>Federacion Colombiana de Patnaje (スピードの暫定メンバー)</u>
CRO	クロアチア	Croatian Skating Federation
CYP	キプロス	Cyprus Skating Federation (フィギュア)
CZE	チェコ共和国	Czech Speed Skating Federation (スピード)
		Czech Figure Skating Association (フィギュア)
DEN	デンマーク	Dansk Skøjte Union
PRK	朝鮮民主主義 人民共和国	Skating Association of the Democratic People's Republic of Korea
EST	エストニア	The Estonian Skating Union
FIN	フィンランド	Suomen Luisteluliitto (スピード)
		Suomen Taitoluisteluliitto (フィギュア)
FRA	フランス	Fédération Française des Sports de Glace
GEO	グルジア	Georgian Figure Skating Federation (フィギュア)
GER	ドイツ	Deutsche Eisschnelllauf-Gemeinschaft (スピード)

		Deutsche Eislauf-Union e.V. (フィギュア)
GBR	グレート・ブリテン	National Ice Skating Association of UK Ltd.
GRE	ギリシャ	Hellenic <u>Winter</u> Ice Sports Federation
GRN	グレナダ	Grenada Figure Skating Association (フィギュアの暫定メンバー)
HKG	香港/中国	Hong Kong Skating Union Ltd
HUN	ハンガリー	Hungarian National Skating Federation
ISL	アイスランド	Icelandic Skating Association (フィギュア)
IND	インド	Ice Skating Association of India
INA	インドネシア	Persatuan Olahraga Sepatu Roda Seluruh Indonesia
IRL	アイルランド	Ice Skating Association of Ireland (フィギュア) (スピードの暫定メンバー)
ISR	イスラエル	Israel Ice Skating Federation
ITA	イタリア	Federazione Italiana Sport del Ghiaccio
JPN	日本	日本スケート連盟
KAZ	カザフスタン	National Skating Federation of the Republic of Kazakhstan
KGZ	キルギス共和国	<u>Skating Federation of the Kyrgyz Republic (フィギュアの暫定メンバー)</u>
LAT	ラトヴィア	Latvian Skating Association
LIE	リヒテンシュタイン	<u>Liechtensteiner Eislauf Verband (フィギュアの暫定メンバー)</u>
LTU	リトアニア	Lithuanian Speed Skating Association (スピード)
		Lithuanian Skating Federation (フィギュア)
LUX	ルクセンブルグ	Union Luxembourgeoise de Patinage de Vitesse (スピード)
		Union Luxembourgeoise de Patinage (フィギュア)
MAS	マレーシア	Ice Skating Association of Malaysia
MEX	メキシコ	Federacion Mexicana de Patinaje Sobre Hielo y Deportes
		De Invierno, A. C. (フィギュア)
MDA	モルドバ	<u>Figure Skating Federation of the Republic of Moldova (フィギュアの暫定メンバー)</u>
MON	モナコ	Fédération Monegasque de Patinage (フィギュア)
MGL	モンゴリア	Skating Union of Mongolia
MAR	モロッコ	Association of Moroccan Ice Sports (フィギュア)
NED	オランダ	Koninklijke Nederlandsche Schaatsenrijders Bond
NZL	ニュージーランド	Ice Speed Skating New Zealand Inc (スピード)
		New Zealand Ice Figure Skating Association (Inc) (フィギュア)
NOR	ノルウェー	Norges Skøyteforbund
PHI	フィリピン	Philippine Skating Union (フィギュア) (スピードの暫定メンバー)
POL	ポーランド	Polish Speed Skating Association (スピード)
		Polish Figure Skating Association (フィギュア)
PUR	プエルトリコ	Puerto Rico Figure Skating Federation (フィギュア)



<u>QAT</u>	<u>カタール</u>	<u>Qatar Skating Federation (スピードの暫定メンバー)</u>
KOR	大韓民国	Korea Skating Union
ROU	ルーマニア	Romanian Skating Federation
RUS	ロシア	Russian Skating Union (スピード)
		The Figure Skating Federation of Russia (フィギュア)
SRB	セルビア	Serbian Skating Association
SIN	シンガポール	Singapore Ice Skating Association
SVK	スロヴァキア共和国	Slovak Speed Skating Union (スピード)
		Slovak Figure Skating Association (フィギュア)
SLO	スロヴェニア	Slovene Skating Union
RSA	南アフリカ	South African Speed Skating Association (スピード)
		South African Figure Skating Association (フィギュア)
ESP	スペイン	Federacion Española de Deportes de Hielo
SWE	スウェーデン	Svenska Skridskoförbundet (スピード)
		Svenska Konstakningsförbundet (フィギュア)
		Stockholms Allmänna Skridskoklubb (クラブ・メンバー)
SUI	スイス	Schwuheizer Eislauf-Verband
		Internationaler Schlittsch-Club Davos (クラブ・メンバー)
THA	タイ	Figure and Skating Association of Thailand
TUR	トルコ	Turkish Ice Skating Federation
UKR	ウクライナ	Ukrainian Speed Skating Federation (スピード)
		Ukrainian Figure Skating Federation (フィギュア)
UAE	アラブ首長国連邦	UAE Ice Sports Federation (フィギュア)
USA	アメリカ合衆国	US Speedskating (スピード)
		The United States Figure Skating Association (フィギュア)
UZB	ウズベキスタン	Winter Sports Association of Uzbekistan

and  
ICE DANCE  
2016

## 国際スケート連盟

### 本部：書留郵便宛先：

Avenue Juste-Olivier 17, 1006 Lausanne, Switzerland, 電話: (+41) 21 612 66 66,

Fax: (+41) 21 612 66 77, メール: [info@isu.ch](mailto:info@isu.ch)

### 役員 2016-2018

#### 評議会：

議長：		<u>Jan Dijkema</u>	<u>オランダ</u>
第一副議長：	スピード・スケート：	<u>Tron Espeli</u>	<u>ノルウェー</u>
副議長：	フィギュア・スケート：	<u>Alexander Lakernik</u>	<u>ロシア</u>

メンバー：	フィギュア・スケート：	<u>Junko Hiramatsu</u>	<u>日本</u>
		<u>Patricia St. Peter</u>	<u>アメリカ合衆国</u>
		<u>Marie Lundmark</u>	<u>フィンランド</u>
		<u>Benoit Lavoie</u>	<u>カナダ</u>
		<u>Maria Teresa Samaranch</u>	<u>スペイン</u>

スピード・スケート：	<u>Yang Yang</u>	<u>中国</u>
	<u>Jae Youl Kim</u>	<u>大韓民国</u>
	<u>Stoytcho G. Stoytchev</u>	<u>ブルガリア</u>
	<u>Roland E. Maillard</u>	<u>スイス</u>
	<u>Sergio Anesi</u>	<u>イタリア</u>

事務局長：	<u>Fredi Schmid</u>	<u>スイス</u>
会計責任者：	<u>Ulrich Linder</u>	<u>スイス</u>
顧問弁護士：	<u>Michael Geistlinger</u>	<u>オーストリア</u>
	<u>Béatrice Pfister</u>	<u>スイス</u>

フィギュア・スケート・スポーツ・ディレクター：	<u>Charles Z. Cyr</u>	<u>アメリカ合衆国</u>
	<u>Krisztina Regöczy</u>	<u>ハンガリー</u>

スピード・スケート・スポーツ・ディレクター：	<u>Hugo Herrnhof</u>	<u>イタリア</u>
------------------------	----------------------	-------------

#### 技術委員会：

シングル&ペア・スケート：	議長：	<u>Fabio Bianchetti</u>	<u>イタリア</u>
	委員：	<u>Susan Lynch</u>	<u>オーストラリア</u>

		<u>Yukiko Okabe</u>	<u>日本</u>
		Rita Zonnekeyn	ベルギー
	選任スケーター	Patrick Meier	スイス
	選任コーチ	David Paul Kirby	アメリカ合衆国
アイス・ダンス：	議長：	Halina Gordon-Poltorak	ポーランド
	委員：	<u>Shawn Rettstatt</u>	アメリカ合衆国
		Alla Shekhovtsova	ロシア
		<u>Hilary Selby</u>	グレート・ブリテン
	選任スケーター：	Sylvia Nowak-Trebacka	ポーランド
	選任コーチ：	Maurizio Margaglio	イタリア
シンクロアイス・スケート：	議長：	Christopher Buchanan	グレート・ブリテン
	委員：	Mika Saarelainen	フィンランド
		<u>Petra Tyrbo</u>	スウェーデン
		<u>Lois Long</u>	アメリカ合衆国
	選任スケーター：	Helena Ericson	スウェーデン
	選任コーチ：	Cathy Dalton	カナダ
スピード・スケート：	議長：	<u>Alexander Kibalko</u>	ロシア
	委員：	Nick Thometz	アメリカ合衆国
		Jae-Seok Choi	大韓民国
		<u>Christian Breuer</u>	ドイツ
	選任スケーター：	欠員	
	選任コーチ：	Jildou Gemser	オランダ
ショート・トラック・	議長：	<u>Nathalie Lambert</u>	カナダ
スピード・スケート：	委員：	Reinier Oostheim	オランダ
		<u>Xun Xu</u>	中国
		<u>Satoru Terao</u>	日本
	選任スケーター：	欠員	
	選任コーチ：	欠員	
懲戒委員会：			
議長：		Volker Waldeck	ドイツ
委員：		Allan Böhm	スロヴァキア共和国
		Susan Petricevic	ニュージーランド

Albert Hazelhoff

オランダ

医療委員会：

議長：

Jane M. Moran

カナダ

委員：

Sanda Dubravcic-Simunjak

クロアチア

Joel C. Shobe

アメリカ合衆国

Harm Kuipers

オランダ

Hiroya Sakai

日本

Ruben Ambartsumov

ウクライナ

Hannu Koivu

フィンランド

Eunkuk Kim

中国

開発委員会：

未定

名誉会長：

選任された年

Viktor Gustaf Balck †

スウェーデン

1925

Emerich von Szent Györgyi †

ハンガリー

1933

Herbert J. Clarke †

グレート・ブリテン

1955

James Koch †

スイス

1967

Jacques Favart †

フランス

1982

Olaf Poulsen †

ノルウェー

1994

Ottavio Cinquanta

イタリア

2016

名誉副会長：

Sven Laftman †

スウェーデン

1971

Hendrik Roos †

オランダ

1977

John R. Shoemaker †

アメリカ合衆国

1980

Hermann Schiechl

西ドイツ

1984

Georg Pettersson †

スウェーデン

1986

Jean Heckly †

フランス

1992

Josef Dedic †

チェコ共和国

1994

Lawrence Demmy M.B.E.

グレート・ブリテン

1998

Gerhard Zimmerman

ドイツ

2010

David Dore †

カナダ

2016

名誉秘書：

Georg Häsler †

スイス

1975

名誉メンバー:		選任された年
Hans Pfeiffer †	オーストリア	1939
Gustavus F.C. Witt †	オランダ	1953
Marcel Nicaise †	ベルギー	1959
Frederich Kachler †	オーストリア	1959
Walter S. Powell †	アメリカ合衆国	1961
Reginald J. Wilkie †	グレート・ブリテン	1963
Georg Krog †	ノルウェー	1969
Ernest Labin †	オーストリア	1969
Harald Halvorsen †	ノルウェー	1969
Ernest J.G. Matthews †	グレート・ブリテン	1977
Heinz Dragunsky †	東ドイツ	1980
Oskar Madl †	オーストリア	1980
George Blundun †	カナダ	1980
Emil Skåkala †	チェコスロヴァキア	1980
Viktor Kapitonov †	ソビエト連邦	1984
Arne Kvaalen †	ノルウェー	1984
Icilio Perucca †	イタリア	1988
Elemér Tertak †	ハンガリー	1988
Donald H. Gilchrist	カナダ	1992
Herman J. van Laer †	オランダ	1992
Benjamin T. Wright	アメリカ合衆国	1992
John Hurdis †	カナダ	1992
Charles A. De More †	アメリカ合衆国	1994
Hans Kutschera †	オーストリア	1996
Jean Grenier	カナダ	1996
Jürg Wilhelm †	スイス	1998
Lars-Olof Eklund †	スウェーデン	1998
Jan W.P. Charisius †	オランダ	1998
Wolfgang Kunz	ドイツ	1998
Joyce Hisey	カナダ	2002
Walburga Grimm	ドイツ	2002
John Hall †	グレート・ブリテン	2002
Maria Bialous-Zuchowicz	ポーランド	2006
Claire Ferguson	アメリカ合衆国	2006
Monique Georgelin	フランス	2006

Myong-Hi Chang	大韓民国	2010
Courtney J.L. Jones O.B.E.	グレート・ブリテン	2010
Ulf Lindén	スウェーデン	2010
Gerhardt Bubnik	チェコ共和国	2010
James L. Hawkins	アメリカ合衆国	2010
<u>Phyllis Howard</u>	<u>アメリカ合衆国</u>	<u>2016</u>
<u>Tjasa Andrée-Prosenc</u>	<u>スロヴェニア</u>	<u>2016</u>
<u>German Panov</u>	<u>ロシア</u>	<u>2016</u>
<u>Lan Li</u>	<u>中国</u>	<u>2016</u>
<u>György Martos</u>	<u>ハンガリー</u>	<u>2016</u>
<u>Peter Krick</u>	<u>ドイツ</u>	<u>2016</u>
<u>Alexander Gorshkov</u>	<u>ロシア</u>	<u>2016</u>
<u>Ann Shaw</u>	<u>カナダ</u>	<u>2016</u>
<u>Olga Gilardini</u>	<u>イタリア</u>	<u>2016</u>

歴代会長		就任した年
Willem H.J. Mulier †	オランダ	1892-1894
Viktor Gustav Balck †	スウェーデン	1895-1924
Ulrich Salchow †	スウェーデン	1925-1937
Gerrit W.A. van Laer †	オランダ	1937-1945
Herbert J. Clarke †	グレート・ブリテン	1945-1953
James Koch †	スイス	1953-1957
Ernest Labin †	オーストリア	1967
Jacques Favart †	フランス	1967-1980
Olaf Poulsen †	ノルウェー	1980-1994
<u>Ottavio Cinquanta</u>	<u>イタリア</u>	<u>1994-2016</u>

ジヤック・ハバール賞	1981年に創設	受賞年
Irina Rodnina	ソビエト連邦	1981
Eric Heiden	アメリカ合衆国	1983
Jayne Tovill/ Christopher Dean	グレート・ブリテン	1986
Scott Hamilton	アメリカ合衆国	1987
Katarina Witt	東ドイツ	1988
Karin Kania	東ドイツ	1990
Natalia Bestemianova/ Andrei Bukin	ロシア	1992
Tomas Gustafson	スウェーデン	1993
Gaétan Boucher	カナダ	1994

Bonnie Blair	アメリカ合衆国	1998
Kurt Browning	カナダ	1998
Johann Olav Koss	ノルウェー	1998
Ludmila & Oleg Protopopov	スイス	1998

ゲオルク・ハスラー・メダル 1985年に創設

Zoltán Balázs †	ハンガリー	1987
Willi Zipperlen †	スイス	1987
F. Ritter Shumway †	アメリカ合衆国	1988
Herbert Kunze †	西ドイツ	1989
Assen Pavlov	ブルガリア	1989
W. Thayer Tutt †	アメリカ合衆国	1989
Victor Blinov †	ソビエト連邦	1990
Andrea Ehrig	東ドイツ	1990
Radovan Lipovsčak †	ユーゴスラヴィア	1990
Courtney J.L. Jones O.B.E.	グレート・ブリテン	1991
Milan Duchon	チェコスロヴァキア	1992
Klaas Scripper	カナダ	1992
Lysiane Lauret	フランス	1993
Anna Sinilkina †	ロシア	1993
George Howie †	アメリカ合衆国	1993
Pamela E.L. Davis, M.B.E. †	グレート・ブリテン	1994
Jurjen Osinga	オランダ	1994
Ivan Mauer	スロヴァキア共和国	1995
Florea Gamulea	ルーマニア	1996
David E. Morgan †	オーストリア	1996
Beat Häslar	スイス	1998
Mitsuo Matsumoto	日本	2000
Robert Moir	カナダ	2002
Valentin Pissev	ロシア	2002

ISU コールト・アワート・オブ・メリット

2004年に創設

Lysiane Lauret	フランス	2006
Lucy Brennan	アメリカ合衆国	2007
Susan Johnson	アメリカ合衆国	2007
Joachim Franke	ドイツ	2008

Ann Shaw

David Mitchell

カナダ

グレート・ブリテン

2008

2016

訳：ゆき@yahpan

SPECIAL  
REGULATIONS  
&  
TECHNICAL  
RULES

SINGLE&PAIR  
SKATING  
and  
ICE DANCE  
2016